

令和元年度 事業報告

目 次	
1 廣望会・役員会開催状況	P 1
2 財産取得	P 4
3 借入金と償還金の状況	P 5
4 クリーニング工房 CoCo の状況	P 6
5 アトリエ CoCo の状況	P 1 7
6 キッチン CoCo の状況	P 4 4
7 CoCo JAVJAV・Bakery Cafe CoCo の状況	P 6 8
8 スタジオ CoCo の状況	P 8 1
9 アートカフェ CoCo の状況	P 1 0 4
10 地域生活支援センターCoCo の状況	P 1 1 4

令和 2 年 6 月 4 日

社会福祉法人 廣望会

多機能型障がい福祉サービス事業所	クリーニング工房 CoCo
多機能型障がい福祉サービス事業所	ア ト リ エ CoCo
多機能型障がい福祉サービス事業所	キ ッ チ ン CoCo
多機能型障がい福祉サービス事業所	CoCo JAVJAV
	Bakery Cafe CoCo
多機能型障がい福祉サービス事業所	ス タ ジ オ CoCo
生活介護 フリースペース	アートカフェ CoCo
共同生活援助・短期入所・相談支援・居宅介護	地域生活支援センターCoCo なの
共同生活援助・短期入所・相談支援	地域生活支援センターCoCo ちくま

社会福祉法人 廣望会

お陰様で本年度法人設立 22 年となり、9 事業所（日中活動事業所 7 か所、グループホーム 8 か所、相談支援 1 か所、短期入所 3 か所、ホームヘルプ事業 1 か所、千曲市・坂城町・長野市の委託相談支援）と拡大し、地域からのニーズにお応えすべく邁進してまいりました。

本年度に於いては、新たな歴史を創る新元号を迎え出発をしましたが、台風 19 号による甚大な被害、そして新型コロナウイルス感染症と、かつて経験のない不安・緊張感に駆られた年となりました。台風 19 号の被害は千曲市のスタジオ CoCo が全面床上浸水し、機械・シーツ類等資材・書類の一部が使用不能となりましたが、多くの皆様のご支援・ご協力のもとに一週間でほぼ復旧する事が出来ました。しかしながら、利用者様・職員の数名の自宅が千曲川および支流に流され、今だ不自由な生活を送っています。法人としても全職員にボランティアを呼びかけ、泥の掻き出し等の作業を数日にわたり行いました。また、所員の一部からの「自分もボランティアをしたい！」という声を活かすが如く、寒い中車中泊等をしながらボランティア活動を行って下さっている方々に、早朝より BakeryCafé CoCo のホットコーヒー・ほうじ茶・アンパン等のサービスを 1 か月間ボランティアにて行いました。まさかが現実となった新型コロナウイルス感染症の感染拡大予防のためには、まだ緊急事態宣言が国より出される前、2 月上旬から徹底した防疫体制を取り、「うつらない」「うつさない」「自分の身は自分で守る」を合言葉に利用者様のご家庭にもご協力をいただきながら進めてきました。

そして、社会情勢・生活環境の変化激しい時代において、福祉ニーズの多様化、障がいの多様化に伴ってのサービス提供の在り方の難しさを改めて実感するところですが、こんな時だからこそ相談支援の充実を図り、その人らしいその人が望む地域生活の一助となるよう努めて参りました。また、地域の中で支えて頂いていることへの感謝の気持ちを込めて、地域の中で障がいのある方たちと一緒に当法人が出来ることを真摯に考え進めて参りました。そして、障がいのある人もない人も・・・誰もが地域の中で笑顔で「働く」「暮らす」を当たり前を実現できる地域づくりの一端を担うべく、今後においても進めて参りたいと思います。

社会福祉法人 廣望会の役員会等の開催状況

【監事監査】

令和元年 5 月 23 日 平成 30 年度の監事監査

【理事会・評議員会】

令和元年 6 月 6 日 第 81 回理事会

(1) 平成 30 年度事業報告・決算報告並びに監事監査報告

(2) 役員(理事・監事)改選について

(3) 第 51 回評議員会の招集について

令和元年 6 月 27 日 第 51 回評議員会

(1)平成 30 年度事業報告・決算報告並びに監事監査報告

(2)役員(理事・監事)改選について

(3)報告事項

平成 31 年度事業計画について

平成 31 年度予算について

令和元年 6 月 27 日 第 82 回理事会

(1)理事長選定について

(2)常務理事選定について

令和元年 10 月 9 日 第 83 回理事会

(1)スタジオ CoCo 油圧脱水機入れ替え事業について資金を借入れる件

令和 2 年 1 月 29 日 第 84 理事会

(1)アトリエ CoCo 蒸気ボイラー入替工事について

(2)相談支援事業の廃止について

地域生活支援センターCoCo ちくま

アトリエ CoCo

(3)令和元年度補正予算について

(4)クリーニング工房 CoCo 事業内容の変更について

(5)運営規程の変更について

令和 2 年 3 月 27 日 第 85 回理事会

(1)令和 2 年度事業計画について

(2)令和 2 年度予算について

(3)正職員転換制度規程の制定について

【評議員選任・解任委員会】

開催なし

【職員総会・研修】

平成 31 年 3 月 31 日 平成 31 年度新年度会及び入所式 法人全職員出席

理事長の新年度に向けての訓示

法人新年度計画発表

新入職員紹介

辞令交付

永年勤続者表彰 精励職員理事長賞授与

情報交換会・懇親会

令和元年 12 月 13 日 法人全職員出席(パート等も含む)

《研修会》

障がい者虐待防止及び危機管理について 綿貫常務理事

講演「働く人の心外れ方~自分を大切にするための心外れ方」

講師：BakeryCaféCoCo 中島めぐみ課長（保健師）

講演 ワーク「主語をI（私）で語る支援」

講師：NPO 法人ながのアートミーティング 代表 関孝之 氏
《総会》

各事業所経過報告・活動紹介（DVDによる）

伝達事項

懇親・情報交換

【諸会議・その他】

平成 31 年 3 月 31 日 NLS グループ合同による「新年度会・新入職員入所式」

* 毎月 1 回経営会議（月次報告含む） 出席者：理事長 参与 事務局長 各事業所長
法人の経営状況、各事業・福祉サービスの運営状況について協議を行った。

* 毎月 1 回会計月次報告検討会

出席者：会計事務所 参与 事務局長 各事業所長 事務担当

会計事務所より月次の報告を受け、各事業の経営状況について確認、協議を行った。

* 毎月 1 回管理職会議

出席者：理事長 参与 事務局長 各事業所所長 各事業所課長

経営会議の報告、各事業所の状況報告、課題検討・協議を行った。

* 各事業所にての定期的な職員会議の開催

経営会議及び管理職会議の内容の周知、作業・生活支援上の課題検討、ケース検討・就労事業検討等を行った。

ほか、毎日職員打合せを行い様々な気付き・情報をタイムリーに共有し検討をし、チーム支援を行った。

* 各種団体の諸会議及び研修等への参加

・知的障害福祉協会・セルフセンター協議会・県社協・県・長野市自立支援協議会・千曲坂城自立支援協議会等の研修及び部会活動等に各事業所より積極的に参加をした。

【社会貢献事業】

* 地域の小学校との交流会「み～んなともだちプロジェクト」（福祉教育の実践・長野市）

* 引きこもりの子供たちや大人たちの活動の場の提供（フリースペース・須坂市）

* 荒廃農地の活用（長野市）

* 長野中央ライオンズクラブとの協力による生活困窮の子供たち・者への支援（フードドライブ・長野市）

* 長野市生活困窮者自立支援事業への支援協力（プチバイト事業/認定就労訓練事業所登録・長野市）

* 緊急ショートステイの提供（長野市・千曲市・坂城町）

* 長野県知的障がい福祉協会の活動への積極的参加協力

* 長野市及び須坂市、千曲市・坂城町の自立支援協議会への積極的参加協力

- * 長野市住民自治協議会積極的参加協力
- * 長野県社会福祉審議会出席
- * 長野県障がい者施策推進協議会出席
- * 長野市社会福祉審議会の地域福祉専門分科会出席
- * 長野市教育センター運営委員会出席
- * 台風 19 号災害時のボランティア活動
- * 新型コロナウイルス感染症拡大防止のために長野広域連合様へ手作りマスク 2000 枚寄贈
- * ほか、地域の行事活動への積極的参加協力

廣望会並びに施設に関わる財産取得

令和 1年 5月	グループホームココ蔵町	屋根防水工事	
	総事業費		1,828,440円
令和 1年 6月	クリーニング工房ココ	コンプレッサー	
	総事業費		821,448円
令和 1年 7月	キッチンココ	スチームオーブン	
	総事業費		1,358,856円
令和 1年 8月	グループホーム白塚103	冷蔵庫	
	総事業費		204,552円
令和 1年 8月	クリーニング工房ココ	スチームヒーター	
	総事業費		453,600円
令和 1年 9月	クリーニング工房ココ	工場内フェンス取付工事	
	総事業費		1,388,772円
令和 1年 9月	クリーニング工房ココ	自動結束機	
	総事業費		518,400円
令和 1年 9月	スタジオココ	間仕切設置	
	総事業費		648,000円
令和 1年 9月	スタジオココ	乾燥機	
	総事業費		797,040円
令和 1年 9月	アトリエココ	洗濯機	
	総事業費		1,572,480円
令和 1年 9月	アトリエココ	電話機	
	総事業費		345,600円
令和 1年10月	スタジオココ	油圧脱水機	
	総事業費		15,660,000円
令和 1年10月	クリーニング工房ココ	ホルダー	
	総事業費		1,075,800円

令和 2年 1月	アトリエC o C o 総事業費	耕運機	400,000円
令和 2年 2月	アトリエC o C o 総事業費	ボイラー	1,925,000円
令和 2年 2月	スタジオC o C o 総事業費	ミスト発生装置	275,000円
令和 2年 2月	スタジオC o C o 総事業費	コンプレッサー	1,871,000円
令和 2年 3月	アトリエC o C o 総事業費	パソコン2台	656,000円

第2種社会福祉事業 障がい福祉サービス事業
多機能型障がい福祉サービス事業所

ク リ ー ニ ン グ 工 房 Co Co

目の前のクリーニングの仕事を黙々と行き、常に効率を考えて試行錯誤の1年だった。利用者の移動もなかったこともあり、効率の良い作業ができた。年間の生産量が昨年度に対し3%減になったが、台風19号で使用した災害用毛布のクリーニングを上田市、千曲市、坂城町より受注することで、大きく売り上げが下がることがなかった。

また、障がい者優先調達推進法の制度も有効に使いながら、近隣地域への働きかけによりカーテンや布団等の受注も増加傾向にある。

40名の利用者は、災害や新型コロナウイルスの感染防止で、行事などが中止や延期になっているが、とても元気で精神的にも遅しく、安定的な就労生活を送っている。

支援者側の課題として、作業支援員の配置、繁忙期の時差出勤による交代勤務等を行いながら、工場の運営と個別支援作成業務の体制をつくることを計画した。支援の軸となる個別支援計画も家族面談を取り入れながら作成した。今後も支援員の役割分担を明確にしながら進めていきたい。

法人の基幹となり得るよう、ひとりひとりのその力を存分に発揮していきたい。

就労継続支援A型

1 事業の開始

平成10年8月1日 知的障がい者福祉工場操業開始

平成19年4月1日 障害者自立支援法のもと、多機能型事業所となる。

平成30年5月1日 定員を20名から24名に変更する。

2 利用者の推移

平成31年 4月 1日 24名

令和 2年 3月31日 1名退所 23名

平成31年 3月31日 現在 23名

3 利用者の内訳

出身市町分布

長野市5名 千曲市10名 上田市4名 坂城町4名

性別 男性 18名 女性 5名

年齢

20歳～51歳 平均年齢35.5歳

20代・・・7名 30代・・・7名 40代・・・8名 50代・・・1名

障がい種別

全員知的障がい者療育手帳・・・ B1 9名 B2 13名 A1 1名

その他

男性 18 名中利用者 4 名、女性 5 名中利用者 2 名が CoCo ホーム千曲(当法人運営ケアホーム)より通勤

4 勤務体制

始業時刻... 8 : 4 0 終業時刻... 1 7 : 1 0

休憩... 昼休み (50 分) 3 時休み (20 分) 実労時数... 7 時間 20 分

・年間休日 90 日... 繁忙期及び納期の変更等のため、1 年単位の変形労働時間制で運営をしている。原則として木曜日・日曜日は休みとした。(希望者は残業も担っている)

5 利用者の通勤方法

(1) 通勤支援 しなの鉄道戸倉駅と事業所間の送迎を行う 12 名

(2) 徒歩及び自転車 7 名

(3) 公共の路線バスおよび家族の送迎 4 名

6 通所状況

勤務実態 (出勤率)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
94.1%	97.3%	97.6%	99.1%	99.2%	99.6%	97.2%	95.3%	91.7%

1 月	2 月	3 月	年平均
92.4%	91.1%	97.9%	96.0%

全体の通所率は前年度平均とほぼ同様。すべての月で通所率が 90% 以上である。

7 利用者の給与

給与は最低賃金を確保するよう努力しているが、労働実態に合わせて労働基準監督署の承認を得て最低賃金の適応除外を受けている方が 9 名いる。通勤費は実質全額支給、有給休暇付与、社会保険・労働保険全員加入。

年収の状況

726,200 円 ~ 1,000,000 円	6 名
1,000,001 円 ~ 1,300,000 円	3 名
1,300,001 円 ~ 1,400,000 円	0 名
1,400,001 円 ~ 1,500,000 円	1 名
1,500,001 円 ~ 1,600,000 円	10 名
1,600,001 円 ~ 1,700,000 円	4 名

平均年収 1,330,000 円

月額平均 110,000 円

(24 名 障害者基礎年金受給... 2 級 24 名 年間 822,250 円)

8 個別支援計画

プロフィール・アセスメントシート等をひとりひとり作成。ご本人・ご家族・担当職員・所長との個別面談にて「就労継続 A 型支援計画」を立て、計画に沿って日々の支援を行った。6 カ月ごとのモニタリングを実施して見直しをした。

9 利用者の作業内容

洗い場 3名 シーツローラー 4名 浴衣ローラー 1名
 多種ローラー 8名 タオルたたみ 8名

A型利用者は洗い場、ローラーでの作業が主である。中には体力等に応じ軽作業のタオルたたみを担う方もいる。

利用者は出勤率にもあるように、真面目に日々勤務をして自分の役割を果たしている。ただし、中には能力後退が顕著であり、限られた作業種にしか従事できない方が複数人見受けられる。

10 職員の指導態勢 総員 13名（令和2年3月31日）

所長 サービス管理責任者 出荷主任 機械保守・管理担当支援員

支援員4名（パート1名） 作業支援員8名（パート2名） 配送1名

作業支援員は、個別担当を兼務する支援員とともに各作業部署に配置し、利用者の作業指導を始め利用者に無理な作業（出荷に直接関わる作業など）や残業と次の日の段取り、機械メンテナンス等の作業をしている。

11 職員の処遇

服務規程及び賃金規定により処遇している。

障がい者の人権擁護については、平成24年10月の障がい者虐待防止法施行にあたり、特に職員としてあるべき利用者対応・指導方法について、個別指導及び相談に心がけた。

職員研修については、本年度の実績は下記のように実施した。

[研修実績]

所内研修 工場内における危機管理・安全管理と工場運営について
 障がい者の人権擁護について

施設長研修 知的障がい福祉協会主催

職員研修 知的障がい福祉協会各部会（支援員 事務） 県主催
 クリーニング師研修 その他

主催・実施主体	内容	出席者
社会就労センター関係	福祉就労強化事業工賃ステップアップセミナー	2名
長野県知的障害福祉協会関係	県知障協代表者会 知障協研修会「事業所の管理者・施設長研修」	1名 1名
千曲・坂城自立支援協議会	ケアマネジメント部会（5月・12月・3月） 就労事業所連絡部会 さん・さんネット部会	1名 2名 2名
長野県・県社協関係	苦情対応システム研修会 障がい者虐待防止・権利擁護研修	1名 1名

	就労継続 B 型事業アセスメント実施研修	1 名
労働基準監督署	過重労働防止説明会	1 名
	科学物質管理研修会	1 名
その他	安全運転管理者講習	1 名
	安全運転講習会	1 名
	防火管理者会議	1 名
法人関係	法人職員研修会・総会	9 名

12 生産活動

取り扱い業務 ホテル・旅館寝具等のクリーニング

シーツ 掛けカバー 枕カバー クロス類 ナプキン類 浴衣 ガウン
タオル類 一般クリーニングの受付

協力顧客 (株)戸上リネンサプライ 長野リネンサプライ(株) 信州リネンサプライ(株)
(有)東京洗染 上田市 坂城町 千曲市 労協ながの(つるの湯・
福祉健康プラザ) 千曲市高齢福祉課 千曲市福祉課 千曲市子育て支援課
(千曲市内保育園 4 施設)
千曲坂城消防本部 ともいきライフ月影 日本レクシー(株)
(白鳥園) 坂城保育園

生産状況 生産トン数は前年度より約 3%減となっている。
夏をはじめとする繁忙期において、NLSグループにて生産量の調整を行う
などして作業をすすめた。

月別全生産トン数

月	平成 30 年度	平成 30 年度	前年比較
4 月	213 トン	208 トン	4 トン減
5 月	272 トン	242 トン	30 トン減
6 月	226 トン	197 トン	29 トン減
7 月	278 トン	236 トン	11 トン減
8 月	299 トン	325 トン	42 トン減
9 月	250 トン	277 トン	27 トン増
10 月	272 トン	222 トン	50 トン減
11 月	225 トン	217 トン	8 トン減
12 月	208 トン	201 トン	7 トン減
1 月	187 トン	224 トン	37 トン増
2 月	181 トン	200 トン	19 トン増
3 月	177 トン	170 トン	7 トン減
合計	2,788 トン	2,719 トン	69 トン減

13 健康管理

利用者の特性から健康管理には日々のきめ細やかな対応が必要なためそれなりに配慮をしている。(職員も同じ)

日々の配慮

朝会時の健康観察と言葉掛け

作業時の巡回指導と担当職員の直接指導

特定指導、相談

インフルエンザ予防のための「手洗い・うがい・消毒」励行のための声掛けを常時実施

熱中症、脱水症状の注意喚起と水分補給の呼びかけを常時実施

特定管理

・毎月2回の非常勤安里みどり看護師による健康相談

3事業合計 延べ107人実施

健康相談時に体重測定、及び血圧測定、必要に応じて体温測定を実施し、経過的に記録をして健康管理に努めている。

生活習慣の相談が主である。また、持病のある方や、体調を崩した方に対しては、健康の維持についてのアドバイス等いただいた。

健康相談では、いつもと違う雰囲気の中で色々なことを相談することができている。普段ご自分のことを伝えることが苦手で、訴えが少ない方も看護師にいろいろと相談ができていた。

・健康診断

日本労働福祉協会長野県支部による健康診断 令和1年6月 1日(土)

・安里嘱託医師による健康診断 令和2年2月21日(金)

家庭連絡 必要に応じて随時行う。病院へのつなぎも行う。

保健講話

安里嘱託医師による健康講話 令和2年2月28日(金)

「新型コロナウイルスについて」

うつらない、うつさない、ひろげない予防方法。

インフルエンザの予防接種実施 令和2年10月18日(金)

14 安全・衛生管理

安全管理

日常、機械操作および安全確認を行っている。工場内の機械設備 安全・危機管理に努める、機械設備の保守点検、管理業務の見直し、危険個所に事故防止のためのガード等設置、作業標準手順書の整備、危険区域、部位に注意喚起表示の設置、機械修理時の標記、動作確認等を行っている。

日常的には、管理者の指示のもとに安全・衛生思想の普及や労災事故防止のための点検

等を随時行うとともに、事故防止についての声掛けを継続的に行っている。

この他、衛生管理、危険防止として日々施設内外の整備に努めるため、朝礼終了後から作業開始までの時間を利用して、各部署毎に清掃に取り組んだ。

防災訓練

防災計画により、防災訓練を年度内2回実施した。

令和1年 11月27日(水) 消火・通報・避難誘導訓練

令和2年 3月 18日(水) 消火・通報・避難誘導訓練

避難誘導訓練においては消防署員より「非常によく訓練されている」と評価がある。

15 委託給食

常時利用者 22名

昼食数 年間268日 合計5,360食

検食日誌の記録

利用者の希望・意見の吸収(随時)

誕生日メニューの実施(利用者の誕生日近くに本人の希望メニューによる)

選択メニューの実施(今年度は特に希望を反映)

給食検討会の実施(キッチンCoCo:栄養士・調理員・所長・給食担当)

16 QOL活動の実施状況 - 就労移行支援事業及び就労継続支援B型事業と同様 -

工場稼働日におけるカルチャー教室の実施

・スポーツ活動

・季節に応じたミニ行事 「ハロウィンパーティー」「クリスマス会」
「鏡開き～おしるこを食べる会」「節分豆まき」

諸行事の実施および参加

・知的障がい福祉協会北信地区施設のレクの実施及び参加

(休日余暇支援 他施設の利用者及び地域や学生ボランティアとともに)

・千曲・坂城自立支援協議会さんさんネットの実施及び参加

(休日余暇支援 千曲市・坂城町の障害児・者及び地域のボランティアとともに)

・クリーニング工房 CoCo での事業及び行事の実施

以下実施状況

開催日	内容	参加者
4/18(木)	日帰り旅行「ムーミンバレーパーク」	利用者20名 他9名
8/1(木)	第21回創業祭	利用者33名 他21名
9/8(日)	第18回長野県障がい者スポーツ大会 長野県主催	利用者8名 他2名
10/27(日)	家族レク 体育館でミニ運動会	台風災害により

	家族会主催	中止
10/30(水)	ハロウィンパーティー	利用者 36 名 他 9 名
12/25(水)	クリスマス会	利用者 39 名 他 12 名
2/23(日)	家族のつどい 利用者参加 CoCo 家族会主催	新型コロナウイルス感染予防のため 中止

生活相談支援 随時或は特定して実施 健康上の問題 仲間関係
経済生活面等 ケースによっては圏域のコーディネーター、
関係機関とケア会議を行った。

家庭訪問 家族を交えての助言、指導をする必要のある時は必要に応じて随時家庭訪問をした。ご家族に来所していただくこともあった。

家族会の運営 家族会総会・家族のつどい・サンアップル等の諸行事への積極的参加呼びかけ

17 地域への開放状況

千曲市及び周辺市町

- ・若宮区及び芝原区には区費を納入し区民としての交際をしている。
- ・千曲・坂城自立支援協議会
運営委員会 就労・事業所連絡会 さんさんネット部会 地域支援部会
ケアマネジメント部会 全体会 に参加

同業者関係

環境衛生同業組合に加入、情報を得ている。

現場実習の受入れ

- ・稲荷山養護学校、上田養護学校、千曲坂城相談機関センターから体験実習や就職をめざしての実習の受け入れ
 - ・施設研修のための見学受入れ(学校、PTA、民生児童委員協議会、県内外の施設、企業等)
- 県及び北信の知的障がい福祉協会の一員として、各会合に参加した

就 労 移 行 支 援

1 事業の開始

- 平成 14 年 4 月 1 日 障害者等共同作業訓練事業を開始する
- 平成 15 年 4 月 1 日 補助金認可され、新たにスタート
- 平成 19 年 4 月 1 日 障害者自立支援法のもと、多機能型事業所となる
- 平成 21 年 4 月 1 日 定員を 20 名から 10 名に変更する
- 平成 25 年 12 月 1 日 定員を 10 名から 12 名に変更する。

平成 30 年 5 月 1 日 定員を 12 名から 6 名に変更する。

令和 2 年 3 月 31 日 就労移行支援事業を廃止する。

2 利用者の状況

平成 31 年 4 月 1 日 4 名

令和 2 年 3 月 31 日 4 名

(事業廃止に伴い 4 月より 1 名は就労継続支援 A 型、3 名は就労支援継続 B 型へ)

3 利用者の内訳

出身市町分布 長野市 3 名 築北村 1 名

性別 男性 3 名 女性 1 名

障害種別 知的障がい者 4 名 (B1・1 名 B2・2 名 身体・1 名)

年齢 19 歳～56 歳 平均年齢 28.5 歳

10 代...2 名 20 代...1 名 50 代...1 名

4 作業訓練内容

事業運営日数 270 日 (基本的には木・日の週休 2 日制 他開所日は希望通所)

日 課 8:40～17:10 昼休み 50 分 3 時休み 20 分

(基本的には本人希望と体調・体力等状況を見ながら、ご本人にとって無理のない状況で行っている。)

作業訓練内容 タオル・ガウン・パジャマ・作務衣・ジャージ等のたたみ作業

公共温泉施設のマットのクリーニング(回収と配達も)

シーツ等投入補助 洗い場仕分け補助

就職に向けて職場実習、施設外就労を行う

状 況 全員が大変前向きであり、欠席も少なく毎日元気に通所をされる。作業能力も高く、先輩社員を追い越す勢いである。

中には障がい特性から集中が難しい、気持ちが落ち着かない。あるいは、タオルたたみの中のダスターを中心に作業に取り組んでいる方もいる。

5 利用者の通所方法

(1) 通所支援 しなの鉄道戸倉駅と事業所間の送迎を行う 3 名

事業所において通所費市町補助の申請をサポートしている

6 利用者の通所状況

(通所率)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
100.0%	97.8%	96.4%	96.9%	99.1%	100.0%	97.7%	96.6%	97.8%

1 月	2 月	3 月	年平均
95.5%	100.0%	97.7%	98.0%

7 利用者の工賃支給

月	平均工賃額	月	平均工賃額
---	-------	---	-------

4月	17,600円	10月	17,200円
5月	17,900円	11月	17,100円
6月	16,200円	12月	18,000円
7月	18,600円	1月	17,000円
8月	21,400円	2月	16,700円
9月	16,800円	3月	13,100円
平均月額 17,300円			

8 個別支援計画

プロフィール・アセスメントシート等をひとりひとり作成。ご本人・ご家族・担当職員・施設長との個別面談にて「就労移行支援計画」を立て、計画に沿って日々の支援を行った。3カ月ごとのモニタリングを行い見直した。

9 職員の指導体制

所長 サービス管理責任者1名
支援員 3名（うち1名就労支援員）

10 健康管理

就労継続支援A型事業とB型事業と同様

11 給食の提供

希望者には給食を提供した（1食260円） 3名 819食
利用者の希望・意見の吸収（随時）
誕生日メニューの実施（利用者の誕生日近くに本人の希望メニューによる）
選択メニューの実施（今年度は特に希望を反映）
給食検討会の実施（キッチンCOCO：栄養士・調理員・所長・給食担当）

12 QOL活動の実施状況

就労継続支援A型事業及び就労継続支援B型事業と同様

13 地域への開放状況

就労継続支援A型事業及び就労継続支援B型事業と同様

就労継続支援B型

1 事業の開始

平成14年4月1日 障害者等共同作業訓練事業を開始する
平成15年4月1日 補助金認可され、新たにスタート
平成19年4月1日 障害者自立支援法のもと、多機能型事業所となる
（就労継続支援A型事業・就労移行支援事業）
平成21年4月1日 就労継続支援B型事業開始 定員10名
平成25年12月1日 定員を10名から8名に変更する。
平成30年5月1日 定員を8名から10名に変更する。

2（利用者の状況）

平成 31 年 4 月 1 日 12 名
 令和 1 年 4 月 30 日 1 名所退所
 令和 1 年 5 月 1 日 1 名入所
 令和 1 年度における総在籍者数 12 名

3 利用者の内訳

出身市町分布 千曲市 10 名 上田市 1 名 長野市 1 名
 性別 男性 8 名 女性 4 名
 障害種別 知的障がい者 12 名 (A 1...1 名 B 1...6 名 B 2...5 名)
 年齢 21 歳 ~ 57 歳 平均年齢 34.5 歳
 20 代... 5 名 30 代... 4 名 40 代... 1 名 50 代... 2 名

4 作業訓練内容

事業運営日数 270 日 (基本的には木・日の週休 2 日制 他開所日は希望通所)
 日 課 8:40 ~ 17:10 昼休み 50 分 3 時休み 20 分
 (基本的には本人希望と体調・体力、家庭環境等状況を見ながら、ご本人にとって無理のない状況で行っている。家族の介護、家事を担っている利用者等もいる)
 作業訓練内容 タオル・ガウン・パジャマ・作務衣・ジャージ等のたたみ作業
 公共温泉施設のマットのクリーニング (回収と配達も)
 シーツ等投入補助 洗い場仕分け補助
 状 況 ・ひとりひとり状況が異なるなかで通所状況も様々である。
 ・安定的な作業をする方が多数いる一方で、中には、作業の力の停滞が顕著に見られる方もいる。障がい特性や、心理的な部分で支援方法に苦慮をする場面もあり、必要に応じて家庭や相談機関との連携を図っている。
 ・11 名のうち発達障害・自閉的傾向の方が 4 割の人数である。障がい特性や個性に合わせ専門的な知識や支援方法が必要であり、職員の支援技術の研さん習得が今後課題である。

5 利用者の通所方法

- (1) 通所支援 しなの鉄道戸倉駅と事業所間の送迎を行う 4 名
 - (2) 徒歩及び自転車 7 名
- 事業所において通所費市町補助の申請をサポートしている

6 利用者の通所状況

(通所率)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
98.1%	94.9%	99.2%	96.0%	84.2%	99.1%	97.2%	98.7%	94.1%
1 月	2 月	3 月	年平均					

96.3%	99.5%	97.0%	96.2%
-------	-------	-------	-------

7 利用者の工賃支給

月	平均工賃額	月	平均工賃額
4月	28,900円	10月	29,100円
5月	29,500円	11月	29,400円
6月	28,100円	12月	29,800円
7月	31,800円	1月	28,900円
8月	32,700円	2月	28,800円
9月	28,200円	3月	29,000円
平均月額 30,200円			

8 個別支援計画

プロフィール・アセスメントシート等をひとりひとり作成。ご本人・ご家族・担当職員・施設長との個別面談にて「就労継続支援B型計画」を立て、計画に沿って日々の支援を行った。6か月ごとのモニタリングを行い見直しをした。

9 職員の指導体制

所長 サービス管理責任者1名
 支援員 4名（うち1名目標工賃達成指導員）

10 健康管理

就労継続支援A型事業及び就労移行支援事業と同様

11 給食の提供

希望者には給食を提供した（1食260円） 8名 2,160食
 利用者の希望・意見の吸収（随時）
 誕生日メニューの実施（利用者の誕生日近くに本人の希望メニューによる）
 選択メニューの実施（今年度は特に希望を反映）
 給食検討会の実施（キッチンCOCO：栄養士・調理員・所長・給食担当）

12 QOL活動の実施状況

就労継続支援A型事業及び就労移行支援事業と同様

13 地域への開放状況

就労継続支援A型事業及び就労移行支援事業と同様

第2種社会福祉事業 障がい福祉サービス事業 多機能型（ 就労継続 B 型 生活介護）

アトリエ CoCo

お陰様で本年度 14 年目を迎えました。本年度は就労移行支援事業を廃止し、生活介護事業の定員を 12 名から 18 名へと増員をしました。長野市の障がいの重い方々の利用の場が不足している状況を踏まえ、生活介護事業の定員を増やして利用者様を受け入れさせて頂きました。言葉による会話が難しい重度の障害の方々、行動障害を伴う重度の障害の方々への支援の在り方を学び（強度行動障がい支援者養成研修受講）、自然豊かな環境に恵まれた地だからこそ出来ることにもチャレンジし（自然探索、郷土花めぐり等）、一人ひとりのスケジュール表を作成し、新たなアトリエ CoCo の生活介護支援を創造して参りました。また、看護師を常勤で配置し健康管理に務めました。

定着をした地元保科小学校全生徒との交流会を通しての福祉教育の実践、若穂管内の公民館及び公衆トイレの清掃受託、地域企業・介護事業所様の協力の下での役務の仕事の拡大、遊休農地を活用させて頂いての野菜作り、地元限定の毛布等のクリーニング各戸注文配達、地域開放のオープンイベントの実施（地域の様々な団体様のボランティア協力）等、多くの皆様のご協力を頂きながら本年度におきましてもその方向を変えることなく進めて参りました。

しかしながら、台風 19 号災害及び新型コロナウイルス感染症により各種イベント等中止、クリーニング作業が激減・施設外就労の休止等切迫した状況での年度末となりました。新型コロナウイルス感染症の一時も早い収束を願うばかりです。

ほか、生活困窮者のための就職活動応援金付職場体験事業（プチバイト事業）を「まいさぼ長野」よりの依頼によって受け入れをし、「生活困窮者就労訓練事業」の受託事業者として認定され、2 名受け入れをしました。

障がいのある方々への理解を深めるとともに社会貢献として生活困窮者への支援も含め、より良い地域社会を築き上げていくために、私たちは障害福祉サービスを提供する事業者として地域の中で何を成すべきかを考え、今後も地域の皆様と様々なるチャレンジをしていこうと考えています。

就労継続支援 B 型事業

利用者の推移

令和 1 年 6 月 1 日	新規入所	...在籍者数	38 名
令和 1 年 9 月 30 日	利用困難のため退所	...在籍者数	37 名
			総在籍者数 37 名

生活介護事業

利用者の推移

平成 31 年 4 月	長養高等部卒業生受入		
	就労継続 B 型より移行	...在籍者数	21 名
令和 1 年 5 月	就労継続 B 型より移行	...在籍者数	22 名
			総在籍数 22 名

就労継続支援 B 型事業

1 所員の内訳

出身市町村別

長野市 27 名 信濃町 2 名 須坂市 2 名 飯山市 1 名 小川村 1 名 筑北村 1 名
千曲市 3 名 高山村 1 名

性別 男 27 名 女 11 名

平均年齢 37 歳（平成 31 年 4 月 1 日現在）

障がい種別 知的障がい 35 名 精神障がい 3 名

2 通所方法

送迎バス利用 長野駅より 14 名 大豆島東団地より 7 名 信濃川田駅より 2 名

家族の送迎 3 名

バイクまたは車（本人運転による） 3 名

徒歩 7 名

路線バス 2 名

3 日課について

8 : 5 0	通所 着替え
8 : 5 0 ~ 9 : 0 0	朝会 ラジオ体操
9 : 0 0 ~ 1 0 : 3 0	作業
1 0 : 4 0 ~ 1 2 : 0 0	作業
1 2 : 0 0 ~ 1 3 : 0 0	昼食 休憩
1 3 : 0 0 ~ 1 4 : 3 0	作業
1 4 : 3 0 ~ 1 4 : 5 0	休憩
1 4 : 5 0 ~ 1 5 : 4 5	作業
1 5 : 4 5 ~ 1 6 : 0 0	掃除
1 6 : 0 0 ~ 1 6 : 1 0	着替え 帰りの会

土曜日は、活動内容によってさまざまに設定する。自由通所日（作業）の場合は 1 0 : 0 0 ~ 1 6 : 0 0 まで。Q L 活動の場合は、活動内容によってその都度設定。

毎週木曜日の午後はカルチャー活動

4 通所状況

通所実態（通所率）

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
74.6%	71.2%	71.0%	71.7%	64.0%	71.2	
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年平均
69.6%	69.7%	74.9%	71.0%	70.3%	75.7%	69.1%

毎週土曜日及び祝日は自由通所日（Q L 活動日以外）としているが、通所率は低い。

月 2 回ほど土曜日に実施している Q L 活動は、定員を設けている。

精神障がいのある数名は通所率が低い、その他の所員は概ね元気に安定的に通所した。

5 個別支援計画について

所員に対して、日々支援を行うにあたって、最も大切となってくるのが個別支援計画である。計画を立てるにあたり、事前にご本人やご家族、関係機関等とのケア会議を開き、アセスメントを行い、ご本人のこれまでの歩みや、得意なことや苦手に行っていること、日々の行動や日常生活などで配慮することなどを確認し、個別支援計画を立てる。個人個人のニーズは様々であり、出来上がってくる個別支援計画もそれぞれ違う。この個別支援計画が重要な要素、手段となって支援が展開されていく。

6 就労活動について

《 平均工賃 》

月	平均工賃月額	月	平均工賃月額
4月	21,891 円	10月	21,934 円
5月	21,183 円	11月	20,431 円
6月	21,165 円	12月	29,873 円
7月	27,503 円	1月	19,758 円
8月	18,909 円	2月	20,011 円
9月	18,171 円	3月	50,685 円
平均工賃額 25,022 円			

【 クリーニングチーム 】

目標売上額...26,000,000 円 売上げ実績...27,641,882 円(対目標額 106%)

タオルも人も結束力で目標売上金額達成！

< 作業内容 >

【 洗い場 】

洗濯物の洗浄・乾燥
雑巾類のたたみ作業及び出荷準備
機械類のメンテナンス

【 タオル班 】

タオル類を中心に仕上がり状態の確認、タオルたたみ、袋詰め及び出荷準備

【 私物 】

私物類の仕上がり状態の確認、たたみ作業、及び出荷準備
結束バンド仕分け及び封入作業

【 配送 】

長野リネンサプライ(株)本社工場様、長野リネンサプライ(株)須坂工場様、ホテル国際 21 様、十福の湯様、コトリの湯様、(株)トレス様及び若穂病院様への納品回収

< 実施内容・時期 >

- ・ A 班は『シミ・汚れを見落とさない、クレームゼロ』、B・C 班は『仕事中はおしゃべりをしない！』をチーム目標とし、それに沿って作業を進めていった。

- ・作業を効率良く行う為、所員の作業配置、作業場の模様替え等検討を行った。

<運営面において>

- ・大きなけがや事故もなく、進めることができた。
- ・回収したタオルを全てたたんでも、東横イン、ルートイン中野のタオルがお客様からの発注の枚数に届かないという事があり、適宜湯通しを入れるなどして調整しながら進めた。
- ・機械類の故障が多かった。
洗濯2号機は操作パネルの交換、洗濯4号機は本体入れ替え、乾燥2号機・新型乾燥機は部品交換、ボイラー2号機は新品へ入れ替えをそれぞれ実施した。
- ・出荷タオルの数え間違いも何度かあり、職員による結束前の数量チェックを徹底した。
仕上がったタオルに関しても台車に乗せてから職員がチェックをするなど不備のないよう努めた。

<評価・課題>

- ・例年に比べタ方の残業が格段に減っている。日中仕上げられる量も少しずつ増えている。
- ・機械の故障やトラブルも何度かあったが、作業を前倒ししたりと、その都度臨機応変に対応できた。
- ・所員の数が多く、作業スペースが十分にとれなかった。作業配置の工夫を随時検討。
- ・相性の良くない所員については、作業場を別にしたり、できるだけバッティングしないよう心がけたが、限られた空間の中なので回避できずトラブルになることが多々あった。
- ・所外に出てしまう所員が多く、職員も不足して仕事思うように進まない事が多々あった。
- ・昨年まで課題となっていた不良タオルの山は、どのように処理したらよいか関係機関に確認をし適切に処理することが出来ている。
作業場にため込まないよう、比較的作業量の落ち着いた水曜、木曜、金曜AMを不良タオルの整理日とし毎週確認を行い作業場を有効に活用した。
- ・機械類の修理及び故障、重油の値上がりが増えたが新規の作業量が増えたことにより売り上げアップにつながった。

【 農作業チーム 】

目標売上額...2,200,000円 売上げ実績...1,744,996円(対目標額79%)

<作業内容>

自主生産

- ・野菜の栽培及び販売
- ・花束の販売(仕入れ)

<評価・課題>

- ・雑草対策として、野菜に応じてマルチシートを使用した事で良い野菜を沢山収穫する事が出来た。
- ・家庭通知で宣伝、営業することで、所員の家庭からも沢山注文をもらえた。
- ・以前からの継続で、堆肥を重点的に沢山入れる事で、出来の良い美味しい野菜を作る事が出来た。

- ・破棄してしまう野菜が無い様に、市場も有効活用し、全て売り切る事が出来た。
- ・セルプの農福連携プロジェクトで、今年は東京・日比谷公園で販売を行ない、持って行った野菜全て完売。
- ・良いにんにくが沢山でき、販売でもとても好評だった為、来年度分に関しても大量の植え付け(3畝分)を行った。
- ・堆肥取りのチームワークが良くなり、所員それぞれが役割をよく理解し、以前よりも時間を短縮して作業を行うことが出来てきている。
- ・アトリエ横の畑、去年に引き続き、大豆を撒き、今年もとても良い大豆を大量に収穫する事が出来た。今後は販路が課題。
- ・小豆に関して、例年の反省を活かし雑草処理の対応をしたが、やはり雑草の成長のほうが早く、また収穫量が減ってしまった。どうしても夏場の暑い時期に草取りをやらなくてはならない為、熱中症や体力的にも厳しく、来年度は反省を活かし、マルチシートを使用した栽培方法にチャレンジしてみる。
- ・所員それぞれが作業の内容をよく理解し、それぞれに準備等出来るようになってきている。所員によっては率先して草取りを頑張ってくれるようになった所員もいる。
- ・今年度は暖冬だった為、冬野菜の出来が悪かった。白菜に大量の虫が付いてしまったり、人参をネズミに食べられてしまったりした。
- ・年度途中から大川さんが応援に入ってくれたおかげで、所員に活気が出た。又、菅平のペンション等への販路拡大に貢献してくれて、とても良い刺激になった。

<今後について>

- ・時期によって作業が重なってしまったり、人員不足等で雑草の処理が追い付かず、収穫量が減ってしまう事がある為、今後の対策として、マルチシートを有効活用し、出来るだけシートを敷いて対応をしていく。
- ・キッチン CoCo、ベーカリーカフェ CoCo との打合せを再度行い、なるべく希望に応えていけるようにしていく。
- ・所員それぞれの特性を活かし、バランス良く作業が出来るように個々の特化した面を見つけ、更なるスキルアップを目指していく。
- ・雨の日や冬場に出来る作業として、軽作業からきのこキャップの作業を分けてもらえることになった。
- ・熱中症対策として、休憩を細かく取り、こまめな水分補給や塩分のある飴の支給等行っていく。

【 移動販売チーム 】

水曜日...市役所・JAVJAV 他

- ・市役所 (H31.4/3 ~ R1.2/26 116,550 円) (前年比 **-65,630 円**)

今年度は気候が暖かく野菜の成長が早く、4月の頭から販売へ行く事が出来た為、早い段階から販売をスタートする事が出来た。今年度も豆類等が残っていたこともあり、2月まで販売を実施。しかし、売り上げ増へと繋げる事が出来なかった。理由としては、暖冬により冬野菜の出来があまり良くなかった事が考えられる。

- ・ JAVJAV

市役所での売れ行き次第だが、不定期で販売させてもらっている。
来るのを待っていてくれる所員さんもいる為、今後も継続して行こうと思う。

金曜日...社会福祉総合センター

・社会福祉総合センター（H31.4/5～R1.2/28 120,600円）(前年比 -35,150円)

市役所での販売同様に、2月まで販売を実施したが、結果を出す事が出来なかった。
新鮮な野菜を楽しみにしてくれている常連さん達がいるが、タイミングによって皆外へ出払ってしまっていたり、同じ野菜が続くと飽きてしまったり...そういったことが理由として考えられる。
接客を通じてニーズを聞いていければと思う。

キッチン CoCo

・売上げ...516,259円（前年比 +3,979円）

今年度は、再度関係を構築する事で、以前のように安定して購入してもらおう事が出来て、多少の売上げアップに繋がった。今後は、関係をより密にして、大量消費してもらえるように努めていく。

ベーカリーカフェ CoCo

・売上げ...83,152円（前年比 +18,322円）

今年度は再度関係を立て直し、頻繁に声を掛けることで多くの野菜を使用してもらえる事が出来、売上増へと繋がった。引き続き、声を掛けていく。

イベント販売（東京日比谷販売・ガス展販売・ナイスハート・蟻の市など）

・イベント販売トータル売上げ...145,630円

10月の台風以降、中止となってしまったイベントが多数あったが、売上げに大幅な影響はなく、前年と同じような結果となった。

アトリエ内販売(家庭通知等...)

・売上げ合計...187,630円

家庭通知での宣伝や、送迎で来た親御さんへの声掛け等で、売上アップへと繋げる事が出来た。
来年度も引き続き、宣伝・声掛けを続けていく。

<所員関係>

- ・コミュニケーションを自分から率先して取ろうとする姿が見えてきている。
- ・準備や片付けを指示が無くても出来るようになってきている。
- ・販売は皆とても楽しみにしていて、笑顔で販売する事が出来ている。
- ・基本的に一袋100円という値段設定にしている為、所員にもお客さんにも分かりやすく、所員によっては多少の会計も出来る。お釣りに関しては支援員でないと厳しい面もある。
- ・商品を買ってもらえたり、「美味しかったよ」と声を掛けられたりする事で、それがやりがいへと繋がり、楽しんで販売する事が出来ている。

【 喫茶サロンチーム 】

目標売上額...44,000円 売上げ実績...30,460円(対目標額 69%)

- ・所員4名、職員3名で、毎日所員1～2名、職員1名体制の当番制で行った。
- ・毎日平均10名程度の利用者が来てくれた。最も少ない時は1日4名、多いときでは15名ほどの利用があった。

- ・4月から9月までは、冷たい飲み物のみの提供で、定番のメニューの他に週代わりのお楽しみメニューを出した。お楽しみメニューは人気があった。
- ・10月から3月までは、冷たい飲み物のほかに、温かい飲み物も提供した。寒いときは、ココアやミルクティーの注文がたくさんあった。
- ・年間を通して、ファンタやコーラに人気がある。

<今後の課題>

- ・所員さんによってレベルに大きく違いがあり、何度も同じことを言うことがあるので、来年度はもっとスムーズに業務がこなせるように、支援をしていく。
- ・お客さんに対してもう少し声掛けが出来るようにしていきたい。
- ・色々なアイデアを出し合い、季節感を出したり喫茶サロンの雰囲気をもう少しくつろげる空間となるようにし、毎日安定した客数になるようにしていく。
- ・常連のお客さんが固定されているので、新しく来てくれるお客さんを増やすような工夫を考える。
- ・所員さんが慣れてきたこともあり、ついつい作業が雑になってしまったり、だれてしまったりすることがあるので、常にお客様をもてなすという心掛けをすることを声掛けをして、来てもらうお客さんに気持ち良く過ごしてもらおうようにしていく。

<売上実績>

R元年度の実績はR2.3月時点で302,460円で、その内訳は通常営業売上231,600円、春祭り38,450円、夏祭り32,410円だった。

【 所外就労チーム 】

売上実績 (R1年度) ...¥6,196,223-

長野リネンサプライ(須坂工場)

売上実績 (R1年度) ...¥1,973,887-

作業について

実施内容

所員参加人数 < 3月第4週実績 >

月	火	水	木	金
3.5	3	2	3	2

- ・アトリエ専用の作業場で、ラバーシーツの検品・仕分け・たたみ作業を行なった。
- ・アトリエ CoCo 職員を常時1名配置し、作業に集中し品質の安定を保つこと、スピードアップを指導した。

運営面

- ・ラバーたたみを終了次第、工場2階にてタオルたたみを行った。

評価、課題

- ・ラバーシーツのたたみ直しは、相当な時間のロスなので、たたみ直しの少ない方法を繰り返し教えていく。

エア・ウォーター

売上実績 (R1 年度) ...¥822,407-

実施内容

所員参加人数 < 3月第2週実績 > (月・水・金のみ実施)

月	火	水	木	金
2		2		2.5

- ・中国からの材料が入らずで一時作業をストップすることもあった。

運営面において

- ・机に向かい個人で作業する作業であり、集団での共同作業の多いクリーニングに馴染めない障がい特性を持った参加者が実力を発揮でき全体の作業量が増えた。

評価、課題

- ・従業員さんからの励ましや声掛けにより、一層の作業意欲に繋がりました。
- ・通年通して実習に出向くことができた。要求される作業量もほぼ安定しており、企業様との関係も良好で、これからも関係を継続していきたい。

今後に向けて

- ・予告なく作業量が増える事がある。対応できた分だけ売上アップが見込めるため、すぐに増員が出来る体制を継続する。

ケアプラザ若穂

売上実績 (R1 年度) ¥295,302-

所員参加人数 < 3月第4週実績 > (月・火・金のみ実施)

月	火	水	木	金
4	5			4

- ・浴室清掃、シーツ交換作業。限られた時間内に作業が完了できている。

運営面

- ・訪問時に全員で元気な挨拶ができ施設の方に暖かく受け入れていただいている。
- ・シーツ交換が出来る所員が限られており、風邪等で複数名欠席すると施設職員の方にお手伝いいただくことがあった。

評価、課題

- ・分担場所を集中して責任をもって行うことができた。
- ・挨拶を徹底した。事務所だけではなく、職員や利用者さんにも挨拶ができるようになってきた。今後も続けていきたい。
- ・目標時間を決めて、そこに向かってみんなで協力して終わるようにしている。
- ・私語を控え、作業に集中するよう促している。時々私語が増えてしまう人もいたので、今後も集中できるようにしていきたい。
- ・それぞれ作業内容を理解していて、休屋担当作業の変化に対応できている。

公民館清掃

売上実績 (R1 年度) ...¥313,920-

実施内容

所員参加人数 < 3月第2週実績 > (月・水・木 実施)

月	火	水	木	金
3	3			3

- ・保科（月曜）、綿内（火曜）、川田（金曜）の各公民館の、広間、料理教室、トイレ、廊下、階段、下駄箱の清掃業務。
 - ・主に、ほうきの後みんなで水モップまたは、ぞうきんに分かれる。
- 運営面において
- ・週三回で午前中だけの作業。
 - ・3名の所員のチームを組み、職員一人が付き添った。
 - ・時間の制約を受けないので休む人が出てもカバーしやすい作業であった。
- 評価、課題
- ・冬は水モップが出来ないので時間が余る。そのため窓拭き等見付け掃除をして夏にできなかったところを隅々まで掃除することが出来た。
 - ・地域の若穂公民館をきれいにしていくと言う気持ちを持ち、チームとして取り組めた。

㈱角藤（本社工場・須坂寮の清掃）

売上実績（R1年度）...¥1,114,960-

所員参加人数

角藤本社工場 月曜日～金曜日 3名

須坂寮 月曜日 3名

実施内容

- ・本社工場内の事務所棟の通路及びトイレ等の清掃。
 - ・㈱角藤 須坂寮の個室以外の清掃全般（窓、通路、階段、エントランス、共用トイレなど）。月曜日の午前中に実施。
 - ・所員3名、職員1名体制で行なった。
- 運営面において
- ・事務所棟での作業は多くの社員さんが出入りする環境であり、緊張感のある中での作業体験が出来た。須坂寮では逆に、人の出入りがほぼ無い環境での作業であり、対人関係に不安のある所員には作業に集中できる良い環境であった。
 - ・須坂寮の清掃については、R1.12月で終了となった。

評価、課題

- ・これまでクレーム等は無く、よくやっていたらと評価をいただいている。

川田駅・綿内駅トイレ清掃

売上実績（R1年度）...¥189,000-

実施内容

所員参加人数（火・水・金 実施）

月	火	水	木	金
	3	4		3

- ・川田駅・綿内駅トイレ・・・女子トイレ、身障者用トイレの清掃業務
- ・ボランティアで、トイレ・駅の周りのゴミ拾いをしています。

運営面において

- ・週3回で午前中1時間での作業
- ・3～4名の所員のチームを組み、職員1人が付き添った。

評価、課題

- ・それぞれ分担して、便座のブラシ、トイレ内の掃き掃除、洗面台、ゴミ拾いに分かれて責任を持って行うことができた。
- ・駅を使う方に大きな声で挨拶ができた。今後も続けていきたい。

【封入封緘チーム(佐川急便所外)】

売上実績...1,368,887-

佐川急便(株)様への所外実習を1年間継続して実施も定期の作業量が全体的に減少したということもあり目標売上には届かなかった。

特に本年においては、定期以外の大口のスポット作業がほとんどなくなり、作業委託代の落ち込みが顕著だった。アイデア作業については、単価が合わず取り入れない方向とする。

<実施内容>

- ・仕分け 封緘作業 テープ止め 梱包作業 配送

<運営面>

- ・H31年4月時点、職員1名、主要所員3名でスタート。
- ・前年度同様、佐川急便様にて作業場を提供していただく。
- ・H31年7月、アビリンピック県大会に参加するも入賞を逃した。
- ・(有)アイデア様から定期的にキーホルダー作業を頂く。

<評価・課題>

- ・年度途中に新メンバーを加え、作業場は良い雰囲気である。
- ・納期の意識も皆で共有し、納期遅れはなかったが、職員の残業が何回かあった

<今後に向けて>

- ・アビリンピックへの取り組みを継続し、入賞を目指す為に日々の作業でもスピードや質の高さを意識して取り組んでいく。
- ・どうすれば効率上がるか、皆で切磋琢磨しながら作業に向かう姿勢を持つ。

7 イベントについて

別表のとおり、それぞれのイベントを実施。積極的に様々な分野の活動に参加できたが、秋の台風19号災害を受けて、収穫祭は中止となった

お花見会、夏祭りはオープンイベントとして実施。地域の皆様に多数ご参加いただいた。それぞれのイベントで企画書を提出しテーマを明確化することができた。

- ・オープンイベントの課題としては

準備期間が十分取れず、出演者やボランティア確保が難しかった。年度当初には開催日時が決まっているので、各係で早目の調整をしたい。

集客、販売方法の検討が必要。

今年に引き続き、それぞれのイベントのテーマを明確にしていく

広報に力を入れる 保科地区全戸配布も図った（支所に依頼）

雨天時対策

家族旅行は家族会と共催し、キッチン CoCo、CoCoJAVJAV、アートカフェ CoCo の参加も得た。

第1班

日 程：令和1年9月5日（木）から6日（金）

行き先：伊豆いいとこどりの旅

宿泊場所：ホテル暖香園

参加者：総勢70名

第2班

日 程：令和1年9月12日（木）から13日（金）

行き先：ムーミンバレーパークとTDLの旅

宿泊場所：水月ホテル鷗外荘

参加者：総勢67名

季節行事としては12月クリスマス会、1月鏡開き、2月豆まきを行い、季節感をだし、風習や仕来りについても学んだ。

サンアップル風船バレー企画は、QOL活動としていくつかの企画にも参加した。

ほくレクについて

今年度についても、意識的に参加をしたが、アトリエ CoCo 企画のボーリング大会は、新型コロナウイルス感染拡大のため、中止とした。

イベント

企画	実施日	参加	備考
《新年度会・入所式》	4月1日		新入所員1名
《春祭り・お花見会》	4月14日	200名	
《夏祭り・花火大会》	8月9日	100名	
《一泊二日家族旅行》	9月5日・6日	70名	伊豆のいいとこどりの旅
	9月12日・13日	67名	ムーミンバレーパークTDLの旅
《創業祭及び収穫祭》	10月20日	-	台風19号災害を受け中止
《クリスマス会》	12月19日		
《鏡開き》	1月9日		
《豆まき》	2月3日		
《ボーリング大会》	3月8日	-	新型コロナウイルス感染拡大のため中止

サンアップル企画

企画	実施日	参加	備考
----	-----	----	----

チーム対抗スポーツ大会	6月16日	19名	
アートフェスティバル	7月7日	27名	
サンアップル納涼祭	7月20日	15名	QOL活動で参加
	参加者	61名	

アビリンピック長野県大会 7月20・21日 ポリテクセンター

部門	参加者	備考
オフィスアシスタント	3名	
フラワーアレンジメント	1名	

ほくレク

企画	実施日	参加者(職員等含む)	備考
パフォーマンスや音楽を楽しもう!	10月28日	18名	ひかり学園企画
みんなで楽しくレッツダンス	11月5日	4名	栗田園&ふたば園企画
どうぶつ訪問	11月19日	4名	さくらの杜育豊
ウィンターコンサート	12月7日	17名	すまいる企画
ボーリング大会	3月8日	-	アトリエ CoCo 企画
	参加者	43名	

昨年度は殆ど参加できなかったのが、今年度は積極的に参加した。秋に企画が集中しているため、繁忙期と重なり、参加したくとも参加できない企画もあった。

3月のボーリング大会は、新型コロナウイルス感染拡大のため中止としたのは、大変残念であった。

8 QOL活動について

別表のとおり実施。一部を除いてはすべて午前中に調理実習を実施した。

参加者はほぼ毎回参加するの所員が目立ち、冬場以外の企画では定員を上回った。

《 活動日・活動内容・参加者数 》

Q L企画

企画	実施日	参加	備考
動物園企画	4月20日	16名	須坂市動物園
そめそめカフェ	5月18日	13名	アートカフェ CoCo&市立博物館
チーム対抗スポーツ大会	6月16日	10名	サンアップル
サンアップル納涼祭	7月20日	14名	サンアップル
プール企画	8月31日	15名	サンアップル

若穂福祉まつり	9月8日	12名	若穂支所周辺
Bakery 演奏会	9月21日	14名	BakeryCafeCoCo
ふくしネットフェスタ	10月6日	12名	長野市役所周辺
フードライブ	10月27日	13名	長野駅自由通路周辺
若穂文化祭に行こう	11月3日	17名	若穂支所
ながのparasportsフェスタ	11月9日	-	台風19号被害のため中止
ウィンターコンサート&絵手紙	12月7日	14名	いつわ苑・長野市博物館
カラオケ企画	1月25日	16名	コートダジュール
いちご狩り	2月8日	20名	あんずの里アグリパーク
ベーカリーカフェ弾き語り ライブ	3月28日	-	新型コロナウイルス感染拡大のため 中止
企画数 16 企画	参加者延人数 186 名		

月2回の開催を目指した。法人内事業所の企画2回、地域企画2回、長野ふくしネット企画2回等単なるレクではなく意識的に企画を提供したが、結果として人気のある温泉企画が出来ずに終わった。災害や、新型コロナウイルス感染拡大のため中止をした企画が2企画あり、残念であった。

9 カルチャー

毎週木曜日の午後に、スポーツカルチャー、音楽カルチャー、何でもカルチャーに分かれて実施。

カルチャーの時間に年4回大掃除を、年2回防災訓練を行った。

部門	参加者	内容
スポーツカルチャー	20名	<p>体育館（主として南長野運動公園総合体育館）にてバドミントン、バスケット、フットサル、卓球、ソフトバレー、軽運動などを行なった。</p> <p>春・秋には、アスレチックや清水寺などに出かけ屋外での活動も行なった。</p>
<p>【運営面について】(評価・課題など...)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏場の体育館の中が暑くなり過ぎてしまう為、頻繁に声掛け・休憩を取り、熱中症等にならないよう注意をした。 ・体育館以外での活動として、恐竜公園1回・保科温泉清水寺に行く事が出来た。たまには体育館以外の活動も良い気分転換になると思うので、来年度以降も取り入れていく。 ・今年度も、一度も大きな事故や怪我が無く、みんなが毎回楽しんで活動に参加出来ていたのが良かった。 ・年度末には、新型コロナウイルス感染拡大のため、体育館を使用せず、ドライブ等で凌いだ。 <p>【今後に向けて】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大がいつまで続くか不透明な時期が、まだ続くと思われるため、公 		

<p>園や屋外施設の利用やドライブなどで凌いでいきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、春～秋の間で体育館以外の活動も取り入れていく(恐竜公園、菅平公園、市立博物館 etc....) ・準備から片付けまでを、言われなくても、自ら進んで協力して出来るよう、声掛け・促しをしていく。 ・一年を通して、事故や怪我がないように注意し、みんなが笑顔で活動できるよう努めていく。 ・荷物の管理等それぞれに役割をもって、責任ある行動が出来るよう促していく。 ・カルチャーの時間を上手く利用し、体育館等、公共の場でのルール等も同時に学んでいけるよう声を掛けていく。 		
<p>音楽カルチャー (音楽療法)</p>	<p>29名</p>	<p>今年度より、外部講師を招いて、太鼓を叩こうが始まった。月2回ほどではあったが、とても好評で、音も併せられるようになってきた。次年度も継続して行く予定。</p> <p>歌詞カードをもとにリクエストを出してもらい歌唱活動、手話ソング、ダンスを行う。施設内だけでなく、各イベントで所員の発表の場をつくった。</p>
<p>【運営面について】(評価・課題など...)</p> <p>音楽療法士であるスタッフを中心に専門的な知識を取り込んで行った。外部講師を招き、太鼓を叩こうのカルチャーを行う</p> <p>○運営面について(評価・課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本来の音楽カルチャーが実施できた。 ・打楽器をみんなで打ち鳴らし、音を合わせる事が、とても好評だった。 <p>○今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・皆からの意見を取り入れながら、活動の幅を広げていく。(マンネリ化をなくす) ・人数の関係もあると考えるが、ケアプラザ若穂との交流会は定期的に行なっていきたい。 ・外部講師の太鼓カルチャーの回数を増やしていく 		
<p>何でもカルチャー</p>	<p>6名</p>	<p>収穫祭の芸術展に向け、根気よく芸術展までに作品を仕上げることができ、販売も行った。</p> <p>また、他のカルチャーに馴染めない所員も参加することができ有意義な取り組みであった</p>
<p>施設内実習</p>	<p>4名</p>	<p>○運営面について(評価・課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主に洗い場で作業と配送の仕事を行った。タオルについては職員の配置が出来ないこともあった。 <p>○今後に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カルチャーに参加をしたくないので仕事をしたいという訴えをする所員もいた。また、繁忙期には作業を止めてしまうと、カルチャー後の作業では

		間に合わずに、残業になってしまう。その都度、職員配置を検討して、作業に職員が入れる体制も確保しておきたい。
墨遊び (10/10・1/9・2/13・3/12)	20名程度	外部講師を招き、墨遊びとアートフラッグ作りを行った。普段文字を書かない所員も大きな紙に好きな言葉を書いた。芸術展は中止となったが、作った作品を若穂文化祭に展示した。また、墨だけではなく絵を描くアート活動も行い、参加者の幅が増えた。

10 保健衛生について

立岩囑託医の指導の下に、年間計画に沿って実施した。

健康相談について

- 日時 : 毎週(火) 13:00～16:30に一人10分程
- 実施者 : 囑託看護師 米沢あつ子先生
- 実施内容 : 体重測定、血圧測定、健康相談
- 相談者数 : 毎回24～27名程受診。
生活介護の方...毎回
就労継続B型の方 月1回.....約10名
3～6ヶ月に1回.....約30名

まとめ

- ・職員に話している事とは別に自分の思いや出来ごとを、健康相談の時間に米沢看護師に相談をするという方が多い。家庭や仕事や趣味や休日の出来ごと等。健康相談で、先生と関わる事を楽しみにしている所員さんも多い。
- ・時間が掛かったり、米沢先生に八つ当たりしてしまう方もいるので、そのような時は、担当職員と一緒に入室して対応した。
- ・健康相談の結果は、職員の朝会で周知し、緊急の場合は、担当職員と個別に話をしたり、地域生活支援センターや給食係にも相談し、全員で共有した。
- ・健康状態が思わしくない場合は、担当職員から結果を家庭へ報告してもらった。主に通院依頼や血圧や体重が基準値を大幅に上回っている方へ連絡した。肥満については、アトリエだけでなく家庭でも気を配っていただく必要があるが、間食や食事の量は、なかなか変わらない。
- ・体重が増え続けている方が、何名かいらっしまった。

<米沢看護師より>

- ・体重増加
 - 1年で5kg～6kg ...2名
 - 3年間で13kg...1名 ○5年間で5kg～7kg...6名
- ・体重記録表を本人に見てもらおうようにしたり、日常生活について聞くようにしている。
- ・なかなか本人からは正確な情報が得られない。(担当者からの話で、旅行やお出掛け時には糖質を多く摂っている等、判明する)

- ・糖質を摂る前にどのような食物を摂ったら良いか、時々お話しするようにしている。
- ・ぼたんの里利用者の体重 up の方たちは、食事作り担当者に連携を取って頂いたことで、体重減少を図ることができた。
- ・お呼びしても入室されない方が 2~3 人あったが、担当者に事情を聞き、連携を取るようになった。
- ・入室しても自分から何もお話ししない方には、爪切りなどを行ってコミュニケーションを取るように心掛けた。
- ・相談時間が長引いてしまう方（1 人）については 20 分位で終わるようにした。

話の受け取り方によっては、怒り出すことが度々で苦慮している。

援助が必要な部分については、怒ることがあっても説得して、家族とも連携を取るようにした。

健康診断について

< 1 回目 >

日時 : 6月 27日(木) 13:30 ~ 17:00

7月 4日(木) 13:30 ~ 17:00

実施機関 : (財)全日本労働福祉協会

実施内容 : 身長・体重測定、血圧測定、尿検査、視力検査、聴力検査、
(血液検査、胸部レントゲン、心電図) 医師による問診

< 2 回目 >

日時 : 8月 26日(火) 13:30 ~ 16:00

8月 27日(月) 13:30 ~ 16:00

実施者 : 立岩内科小児科医院 立岩孝之医師

実施内容 : 問診及び聴診

まとめ

・健康診断の後に、再診になる方の多くは、目と耳の検査が多い。目が良かったり、耳が良かったりしても、上手く検査できないため、多くの所員さんが引っかかる。特に日常生活で支障があったり、高齢でなければ必ず再診する必要はないとのこと。体重増加や血圧に問題のある方は、今後も注意してみていく必要。

健康講話について

< 一回目 >

日時 : 6月11日(火) 15:40 から 16:00

実施機関 : 嘱託看護師 米沢あつ子先生

実施内容 : 夏場に向けて(清潔について・水分補給の仕方)

まとめ

・今年はアトリエの所員にも多い「水虫」についてお話頂いた。剥がれ落ちた水虫菌は生きてまま残るので、毎日の入浴・着替えで身体を清潔に保つと同時に、通気性が良く繰り返し洗える布製の履き物がお勧めであることを教えて頂いた。また夏場は水分を多く摂る必要があるが、逆に糖分の摂り過ぎにならないよう、スポーツドリンクでは 20 で 1 袋溶かす等、薄めて飲む

ようにと実際に作りながらお話をして頂いた。夏場の健康に向けての意識を高める良い機会となった。

< 2回目 >

日時 : 11月12日(火) 15:40 ~ 16:00

実施機関 : 嘱託看護師 米沢あつ子先生

実施内容 : インフルエンザ及びノロウイルス対策として

バランスの良い食事と手洗いの指導(感染症予防)

まとめ

・感染症について、インフルエンザやノロウイルスの説明、感染症予防を中心にお話して頂いた。予防のためには、十分な睡眠と栄養が偏らない食事が大切。何をどれくらい食べたら良いのかを、準備して頂いた食事バランスガイドの資料を見ながら説明して頂いた。また手洗いについても、所員にせっけんに見立てたハンドジェルを塗布し、実際に手を動かしながら丁寧に洗うことを指導して頂いた。

AED 講習会

日時 : 5月23日(木) 16:30 ~ 17:30

実施機関 : セコム上信越(株)長野統轄支社

実施内容 : AED 機器の使い方、救急車到着までの応急処置法

まとめ

・新任職員を中心に実践、体験して頂いた。AED の扱い方に加え、人体模型を使って心肺蘇生法や、救急車到着までの適切な処置の仕方を教えて頂き、大変参考になった。

インフルエンザ予防接種

< 一回目 >

日時 : 11月1日(水) 12:45 ~ 14:00

実施機関 : 立岩内科小児科医院(立岩先生+看護師さんの2名)

実施内容 : 予防接種

実施人数 : 72名(所員+職員+他事業所)

< 二回目 >

日時 : 11月5日(火) 12:45 ~ 14:00

(実施機関・内容については同上)

実施人数 : 26名(所員+職員+他事業所)

まとめ

- ・2年目ということでスムーズに順番が進み、滞りなく終了。検温もなるべく事前に実施。
- ・問診票...何点か直前に記入不備に気付く。事前にチェック必要。

その他の活動について

- ・毎日特に給食前の手洗い・うがい・消毒の実施。マスク着用の励行。
- ・医薬品の管理・補充・整理整頓。ノロ処理セットの用意と管理。
- ・月末の金曜日に歯ブラシ・コップ・上履きを持ち帰るよう呼びかけ。
- ・AEDの管理。

- ・新型コロナウイルス対策（次亜塩素酸ミスト等設置、所員・職員の健康観察等）

まとめ

- ・手洗い、うがい、消毒は、給食前に毎日実施できた。
- ・夏場や冬場の着替えや入浴について、定期的に声がけをし、清潔を保つことができた。
- ・コップ・歯ブラシ、上履きを月末の金曜日に持ち帰るようにした。お家の方にとっては、交換時期や臭いの確認等、使い方を把握できたのではないかと思う。
- ・新型コロナウイルス対策については、国の方針を注視しつつ、これからも障害者施設として適切な措置を取るようになっていく。健康チェック表を配布し、毎朝検温と咳・鼻水等体調の観察をして頂くよう、家庭やホームとも連携を取っていく。

11 給食について

所員さん

- ・4月より、新入所員さんを1名迎える。平均食数は70食の見通し。食堂の見守りを通しての気づきについて、全体で情報共有を図って行きたい。

保健衛生に関することについて

- ・新型コロナウイルス感染防止対策として、給食を食べるのを2班（木曜日は3班）に分けて、向かい合わないよう、距離を置いて食べるようにした。手すり等の消毒を毎日2回担当者が行っている。
- ・熱中症・インフルエンザ・ノロウイルス、食中毒等について、保健衛生係と連携して注意・予防を呼びかける。
- ・健康診断での結果の振り返りをして、アトリエでの食事量の見直し・調整を行う。

係の活動について

- ・喫食記録については、ミスがないように二重チェックし厨房に伝える。
- ・給食検討会は年3回、（春・秋・3月）に計画していく。

アレルギー対策について

- ・食品アレルギーによる事故を防ぐために、給食アンケートにて「食物アレルギー」の項目を作り、身体に影響が出る食材や、その症状、度合い、医師からの指示等の確認項目を入れ込む。必ず親御さんに確認してもらい、皆で情報共有を図る。（好き嫌いとアレルギーを混同している所員さんも多い。アレルギーとはしっかり区別を付けて行きたい）。
- ・実習生の受け入れの際にも、必ず先生に「食物アレルギー」の有無や症状、程度について確認をとり、情報共有を図っていく。

来年度からの課題等

- ・お肉が固いので、何らかの工夫をする。
- ・なるべく温かい状態で提供する。

その他

- ・検食日誌を毎週金曜日に厨房の職員にみてもらい、実際に食べた人の意見等をキッチンに伝えてもらうようにする。
- ・キッチンへの食数のFAXを週に1度ではなく、できるだけ正確な食数を伝えるため毎日FAXをする。

12 防災安全について

実施内容・時期

- ・自衛消防団の編成及び調整（4月に見直し及び変更）慧
- ・職員緊急連絡網の作成（4月に見直し及び変更）
- ・避難訓練の実施（5月30日）
- ・若穂消防署の方と打ち合わせ。消防計画作成（変更）届出書の提出。（5月）
- ・消防立ち入り検査の対応
- ・消防点検の実施：（毎月実施）
- ・総合点検：（年2回実施）2月27日、5月27日 丸登電業に依頼。

評価・課題

< 避難訓練 >

- ・第1回には消防職員さんから、火災時の対応について、消火器の指導をいただいた。
 - ・訓練前に各作業班にて地震発生時の身の守り方指導を行なった。所員全員が机の下に入る、座布団で頭部を守る等の行動ができた。
 - ・緊張感のある避難誘導ができた。職員による大きな声での呼びかけもできていた。ほとんどの所員がスムーズに行動できた。
- 避難時間が3分代で速やかに避難が行なえた。多くの所員が予定どおりの行動が出来ている。

< 消防点検 >

- ・避難口、避難経路、消火設備（消火器含む）の場所は、その都度確認して安全を確認していけるようにしたい。今後も継続していく。また、係だけでなく、各作業担当場所で気付いたことがあれば、対応していただけるように確認等行っていきたい。

13 地域との協働について

今年度も、お花見会(4月)、夏祭り(8月)の2回のオープンイベントを実施し、(収穫祭については台風19号災害のため中止)地域や家族など多くのボランティアの方々にお手伝いをいただき、ステージ発表も担っていただき、盛大に開催することができた。

イベント	家族ボランティア	地域ボランティア
お花見会	14名	24名
夏祭り	11名	19名
延人数	25名	53名

体験実習等を積極的に受け入れ、多くの見学・研修を受け入れた

長野養護学校...6名 稲荷山養護学校...3名 信大附属特別支援学校...1名

若穂中学校...2名 信大附属長野中学校...2名

地域諸団体と連携し、様々な地域ネットワークなどに積極的に参加した。(若穂住民自治協議会・長野市障がいふくしネット等)

特に若穂地区においては、地域貢献事業として、若穂文化祭・若穂福祉まつりに実行委員も務め、利用者と共に参加し、作品展示やステージ発表を行った(50名程度参加)

来年度から「わかほ縁が輪 CoCo カフェ」企画が決まる。

保科小学校との交流会について(福祉共育の実践)

ケアプラザわかほととの交流会について...来年度より定期的交流会をしたい申し出があり、具体的な検討をしていきたい

14 職員研修について

毎朝の打ち合わせ会、職員会議・ケア会議(週1回)を行い、日常の気づきを共有し、自己の支援の振り返りにつとめた。昨年に引き続き、ワークを多く取り入れ、参加者の声を多く拾えた。作業チームのストレングスや5ピクチャーズを行い、売上目標や振り返りができた。また、日常業務の知識及び技術の研鑽につとめた。

外部講師に職員会議に出ていただき、支援の質を上げることに努めた。

相談支援従事者研修、新人研修、工賃アップセミナー、自閉症セミナー、就労支援セミナー等外部の機関が行う研修に積極的に参加し、スキルアップを図った。

虐待権利擁護研修については、5回の研修に参加し、それぞれ伝達研修を行った。また日々の打ち合わせや職員会議で繰り返し意識の向上を図った。

主催・実施主体	研修名	出席者
社会就労センター関係	関東セルフ協議員会	1名
	全国社会就労センター長会	1名
	長野県セルフブロック会議	1名
	平成30年度関東社会就労センター協議会研究大会	2名
	福祉就労強化事業「工賃アップ基礎セミナー」	1名
	福祉就労強化事業工賃ステップアップセミナー ・	各1名
長野県知的障がい者福祉協会関係	知障協代表者会	1名
	会計研修	2名
	県知障協支援スタッフ部会	1名
	県知障協総会	1名
	県知障協平成30年度新任職員研修	1名
	知障協施設長会研修	1名
	知障協事務部会	1名
	強度行動障がい支援者養成研修基礎研修	2名
	強度行動障がい支援者養成研修実践研修	1名
	知障協北信支部代表者会県外研修	1名
長野市自立支援協議会関係	長野市障害ふくしネット しごと部会(毎月)	1名
	長野市ふくしネット運営部会(毎月)	1名
	長野市障害ふくしネット かつどう部会 生活介護事業所連絡会	1名

長野県・県社協関係	苦情対応システム研修会	1名
	就業支援基礎研修会	1名
	全重協長野県支部総会	1名
	虐待権利擁護研修会	2名
その他	中小企業家同友会	1名
	食品衛生講習	1名
	感染症予防講習会	1名
	職業生活相談員講習	1名
法人	法人職員研修会・総会	30名
	AED講習会	10名

15 CoCo 家族会ながのについて

事務局をアトリエ CoCo 内におき、運営を補佐した。

総会 令和1年6月8日(土) アトリエ CoCo 食堂

総会出席者 43名

学習会「主語を私で語る支援」 参加者：41名

講師...ながのアートミーティング 関 孝之さん

家族のつどい 新型コロナウイルス感染拡大のため中止

役員会 年2回実施した

16 職員体制について

所長 1名 サービス管理責任者 1名 目標工賃達成支援員 1名

生活支援・職業指導員 6名 事務員 1名

看護師(嘱託) 1名 医師(嘱託) 1名 運転手(嘱託) 1名

生活介護事業

1 所員の内訳

出身市町村別

長野市 17名 千曲市 1名

性別 男 7名 女 11名

平均年齢 30.3歳(平成31年4月1日現在)

障がい種別 知的障がい 17名 身体障がい 1名(重複記載)

2 通所方法

送迎バス利用 長野駅より 5名 信濃川田駅より 2名

家族の送迎 9名

バイクまたは車（本人運転による）	0名
徒歩	0名
路線バス	2名

3 日課について

8：50	通所 着替え
8：50 ～ 9：00	朝会 ラジオ体操
9：00 ～ 10：30	作業
10：40 ～ 12：00	作業
12：00 ～ 13：00	昼食 休憩
13：00 ～ 14：30	作業
14：30 ～ 14：50	休憩
14：50 ～ 15：45	作業
15：45 ～ 16：00	掃除
16：00 ～ 16：10	着替え・帰りの会
	着替え 帰りの会

土曜日は、活動内容によってさまざまに設定する。自由通所日（作業）の場合は10：00～16：00まで。Q L活動の場合は、活動内容によってその都度設定。

毎週木曜日の午後はカルチャー活動

4 通所状況

通所実態（通所率）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	
71.1%	69.1%	65.7%	69.2%	58.9%	64.3%	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
61.8%	63.0%	65.2%	65.2%	60.9%	67.3%	64.7%

毎週土曜日及び祝日は自由通所日（Q L活動日以外）としているが、通所率は低い。

月2回ほど土曜日に実施しているQ L活動は、定員を設けている。

利用量が少ない所員数名は通所率が低いのと、長期欠席の所員がいるため、平均を下げてしまっている。その他の所員は概ね元気に安定的に通所しており、通所率は上記数字より高い。

5 生活介護について

生産活動の他に、利用者の重度化に伴い、マンツーマン支援・食事介助、トイレ介助・外出支援など、個人個人のニーズに合わせた支援を提供している。今年度は、利用者増に加え、作業スペースを2ヶ所にし、改革を図った。今後についても、利用者の変化に柔軟に対応できる支援体制を整えていきたい。

6 個別支援計画について

就労継続支援B型事業と同様

7 就労活動について

《 平均工賃 》

月	平均工賃月額	月	平均工賃月額
4月	14,345 円	10月	13,114 円
5月	13,917 円	11月	12,498 円
6月	13,216 円	12月	17,002 円
7月	18,800 円	1月	11,614 円
8月	12,120 円	2月	11,255 円
9月	11,486 円	3月	17,918 円
平均工賃額 13,940 円			

【軽作業チーム】

目標売上額...1,500,000 売り上げ実績...2,063,984

仲間と力を合わせて仕事に集中 ~余暇の時間も生み出そう~

<作業内容>

自主生産 ウエス加工・販売 ロンドロール販売
 受託作業 ベーク板のテープはがし（カイシンエレクトロニクス様より）
 ソクセンバンド数量セット作り（長野ジェコー様より）
 きのこキャップ（有ヤナギハラ産業様より）

<評価及び課題>

自主生産

ウエス加工

- ・ウエス地に切り込みを入れる 割く 糸を取る ウエスを積み重ねるといった行程をそれぞれ所員の得意なところで分業し、効率よく作業を進めることができた。
- ・1~2件新規取引先が 今後も継続して注文いただけるよう営業していきたい。

ロンドロールながの販売

- ・リピーターから定期的に注文を頂いて、安定した売り上げが得られた。
- ・家族面談に合わせ2月に各家庭や企業にもチラシを配り、注文をたくさんいただく事ができた。

受託作業

カイシン（ベーク板のテープ剥がし）

- ・入出荷の管理を徹底して計画的に進めることができた。
- ・テープ剥がしの作業性が早まったことで、小さいテープの取り残しが多かった。
- ・全体的にスマートフォンの普及が頭打ちになり販売が伸び悩んだ為か、今年度も枚数は少なめ。今後も、爆発的なヒットがない限りは少なめで推移か。
- ・作業班は2班に分かれたが、板の作業は合同で行い納期に間に合うことができた。

きのこキャップ

- ・キャップの蓋外し機械も、1人だけでなく、複数人で交替しながらできるようになった。
- ・昨年度から実施していく中で、キャップ掃除が得意な所員、機械を使った作業が好きな

所員など、それぞれに合った作業内容が行えている。売り上げも伸びた。

- ・キャップ掃除のクオリティが向上。検品もほぼ必要ない所員が増えている。

その他

- ・他の作業班と連携し、仕事が少ない時は忙しい部署の手伝いをすることができた。
- ・今年度は軽作業班改革の年として2班に分かれて活動した。 所員、職員の体制や仕事内容を割り振って、それぞれが活躍出来るようになってきた。
- ・板の売り上げが減少傾向だが、ウエスは常連のお客様に加え新規のお客様の注文も頂けた

ウエス 注文先別売上

1 kg 350 円にて販売

令和1年10月から消費税増税に伴い、1kg310円にて販売(基本 kg/360円)

種類	単位	注文先	数量	金額(円)
シート	kg	カイシンエレクトロニクス(株)	132	40,420
		(株)シンセイ商会	185	56,550
		愛ランドはるかぜ	50	17,900
		(株)アルカディア	30	10,600
		今川自動車板金塗装	10	3,600
		S&S コンポーネンツ	120	42,700
		オート信州(株)	6	2,100
		オリオン機械(株)	30	10,700
		小林サイクルモーター商会	6	2,130
		(有)小林車両	20	7,150
		佐藤製作所	10	3,550
		(株)鈴木	375	133,450
		タイガー情報機器(株)	60	21,600
		テクノエクセル(株)	10	3,600
		長野ジェコー(株)	370	131,300
		若穂農業機械センター	30	10,700
		和田自動車販売	12	4,300
		その他	5	1,990
		B T (カット)	枚	須坂工場
アクアテック	400			2,840
その他	200			1,420
B T	いぬねこ	70		2,480
F T	(有)アリスエック	100		1,800
	三浦工業株式会社	2000		35,600

	その他	660	11,780
合 計 金 額			572,068

ウエス 月別売上

4月	5月	6月	7月	8月	9月	
36,270	29,590	47,840	57,180	31,165	22,950	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
35,391	78,071	90,298	46,041	41,061	56,211	572,068

ペーク板売上

月	枚 数	金 額
4	3,790	37,900
5	4,750	47,500
6	2,770	27,700
7	3,730	37,300
8	4,350	43,500
9	2,940	29,400
10	4,890	48,900
11	3,650	36,500
12	4,600	46,000
1	3,020	30,200
2	3,940	39,400
3	5,440	54,400
合 計	47,870	478,700

ロンドロール、ファイル売上金額

月	ロンドロール	ティッシュペーパー	合 計
4	45,120	4,000	49,120
5	42,720	0	42,720
6	30,240	0	30,240
7	20,160	400	20,560
8	27,840	2,000	29,840
9	51,840	4,400	56,240
10	36,000	8,000	44,000
11	33,120	1,200	34,320
12	29,280	4,000	33,280
1	53,760	5,600	59,360
2	31,200	5,600	36,800

3	90,720	26,400	117,120
合計	492,000	61,600	553,600

ジェコー結束バンド売上

4月	5月	6月	7月	8月	9月	
4,024	2,217	3,038	5,584	1,377	3,366	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
3,108	3,235	3,522	1,442	888	1,090	32,891

きのこキャップ売上

4月	5月	6月	7月	8月	9月	
3,450	9,200	0	16,100	0	4,600	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
5,750	3,450	3,450	3,450	0	6,900	56,350

その他売上（アートカフェ作品展）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	
0	0	0	0	0	0	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
0	36,300	14,500	0	0	500	51,300

8 イベント活動

就労継続支援 B 型事業と同様

9 QOL 活動について

就労継続支援 B 型事業と同様

他に軽作業チームの独自のレクレーションを実施

10 カルチャー

就労継続支援 B 型事業と同様

11 保健衛生について

就労継続支援 B 型事業と同様

12 給食について

就労継続支援 B 型事業と同様

13 防災安全について

就労継続支援 B 型事業と同様

14 地域との協働について

就労継続支援 B 型事業と同様

15 職員研修について

就労継続支援 B 型事業と同様

16 家族会ながのについて

就労継続支援 B 型事業と同様

17 職員体制について

所長 1名 サービス管理責任者 1名 就労支援員 1名

生活支援・職業指導員 2名 事務員 1名

看護師(嘱託) 1名 医師(嘱託) 1名 運転手(嘱託) 1名

令和1年度 キッチン CoCo 事業報告

第2種社会福祉事業 障がい福祉サービス事業 多機能型事業所(就労継続支援A型事業及び就労継続支援B型事業)

キッチン CoCo は開所して10年が経ちました。障害のある人の働く場を提供し、支えていくという就労系の事業所としての役割は担えていると思います。就労継続支援A型事業を実施していることにより、ハローワーク(公共職業安定所)を主に利用等の問い合わせが継続的にあります。令和1年度も、ハローワーク主催の障害者雇用面接会を行いました。1名の希望者とマッチングし、実習を体験していただいた後A型利用者として雇用し、総人数10名となり定員を満たしました。

就労継続支援A型を利用しながら一般企業への就職を志している方、また就労継続支援B型を利用しながら就労継続支援A型を目指している方、一方で就労継続支援A型の継続的の利用を望んでいる方等、多様なニーズのもとでの利用実態があり、就労継続支援A型という事業を障害のある人が各々において自分らしく働くための手掛かりとして頼りにされていることと思います。今後の利用者の更なる増加の見込みも感じております。就労継続支援A型及びB型の多機能型事業所としての運営体系の下で、障害のある人の個人個人の就労面でのニーズに丁寧に確実に応えることで、個人個人の生活が実り豊かなものとしておられるように今後も貢献していきたいと思っております。

当事業所の利用者たちは、お弁当の製造及び販売業務、配達及び回収業務、法人内の昼食提供業務、そして所外実習等においてそれぞれ自らの就労や作業面等での課題に挑み、各々の目的や目標に向かって歩んでいます。他法人が運営する子どもたちが利用する事業所の昼食提供業務を受託して業務を行っており、障害のある人の就労の場として価値ある場を作ることができており、そして法人側からの業務の遂行状況等に関する評価も高くあります。そこで働く人たちにとっても嬉しく感じ自信を持って働くことができております。

令和2年度もこれまでと同様に事業所全員が協力し合い、個々が持てる力を存分に発揮して事業所運営にあたっていきたいと思っております。

(利用者の推移)

・就労継続支援A型事業(定員10名)	総在籍者数	10名
令和2年1月	1名利用開始(1年半在宅)	・・・ 在籍者 10名
・就労継続支援B型事業(定員10名)	総在籍者数	5名
令和2年2月	1名退所(法人内他事業所を利用)	・・・ 在籍者 6名
令和2年3月	1名退所(一般企業に就職)	・・・ 在籍者 5名
令和2年3月31日現在		
登録者数 15名(就労継続支援A型10名・就労継続支援B型5名)		

就労継続支援 A 型事業

1 所員の内訳

- (1) 利用者総数 10 名 (令和 2 年 3 月 31 日時点 利用者数 10 名)
- (2) 出身市町村別 長野市 10 名
- (3) 性別 男性 2 名 ・ 女性 8 名
- (4) 年齢 44.9 歳 (令和 1 年度末)
- (5) 障がい種別 知的障がい者 2 名
精神障がい者 8 名

2 通所方法

- (1) 徒歩または自転車 1 名
- (2) バイクまたは車 (本人運転による) 7 名
- (3) 公共交通機関利用 2 名
- (4) 送迎 (長野電鉄村山駅発着) 1 名
- (5) 家族による送迎 0 名

3 日課について

(基本)

8 : 0 0 ~ 1 2 : 1 5 まで	着替え 作業 *途中に朝会・休憩あり
1 2 : 1 5 ~ 1 3 : 1 5 まで	お昼 休憩
1 3 : 1 5 ~ 1 5 : 1 5 まで	作業・掃除・帰りの会
1 5 : 1 5	帰宅

利用者の体調や事情等によっては、個別に時間の調整をしています。

土または日曜日は、作業状況や活動内容によって様々に設定しました。

4 通所状況

通所実態 (通所率)

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
85.4%	80.7%	88.3%	86.0%	68.7%	76.2%	
10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年平均
73.9%	75.7%	75.3%	76.1%	79.5%	86.4%	73.4%

5 個別支援計画 就労継続支援 B 型事業と同様

個別支援計画では、本人や家族との面談や、関わってきた関係者等を含めた会議を開くなどして、アセスメントを行い、本人のそれまでの歩みや、得意なことや苦手なこと、行動や日常生活上等で配慮すること等々を確認し、本人の願いをベースにして個別支援計画を作成しました。特に本人の願いを重視して、面談をする中で願いやニーズ把握するように努めました。さらには、面談日以外にも、適時に相談を受け、困っていることや頑張りたいことを聞き、そこからもニーズを拾って作成するようにしました。もし、生活の面などの困り感や希望があった時に

は、他の機関と連絡をとり繋げるようにし、個別支援計画の目標として取り組めるものは入れるようにしました。

そして、6カ月ごとに1回の見直しを行いました。来年度も、本人の願いをベースに、より良い支援に繋がるように計画的に面談等を行い、定期的に支援計画を作成していきたいと思えます。

6 就労活動について 就労継続支援B型事業と同様

【 お弁当製造、販売、配達作業 】

(1) 作業実績及び作業風景等

各所員が意欲的に作業に就いていました。目標を持って作業に取り組み、任されたことは責任を持って行き、分からないことは職員に聞きながら、働くことの楽しさや厳しさ、やり終えた達成感や喜びを感じられていると思えます。また、身支度や食品に携わる際の衛生管理や、盛り付けのときの技術や目配り（おかずが決められた所に確実に適量入れられたなど）確認を取りながら進めています。配達るときは、身支度に気をつけ、お客様に挨拶をすることや走らず慌てないよう落ち着いて作業できるように声掛けしています。

平日の昼食を主に、平均200食のお弁当を作り配達しております。法人内の6箇所の事業所の昼食の提供も行っており、食数は180食位です。

児童発達支援センター「にじいろキッズらいふ」より受けている業務委託は継続して運営しており、A型利用者1名及び職員2名で対応しています。平均55食程度及びおやつ35食程度の数を提供し、稼働日数は年間でにじいろキッズらいふが開所する約220日でした。前日に食材を納品して、当日現場にて調理、配膳、食器の洗浄、おやつ提供、翌日の食器の準備などの作業をしています。

安心・安全な食材を吟味し、野菜が豊富で手作り感のあるおいしい弁当をお届けできるよう日々努めています。

(2) 評価及び課題等

今年度は、秋の台風被害や新型コロナウイルス感染拡大などにより、多くのイベントが中止になったため、特注弁当や美替わり弁当の注文数がかなり減ってしまいました。また、食材の高騰に伴い弁当の値段を上げざるを得ない状況になり、検討を重ねた結果、2月に定価改正を行いました。新規受注の増加やリピーター増加につながるようなメニュー構成や、味付け、盛り付けの工夫など課題はまだありますが、食中毒などの事故が無いよう細心の注意と心構えで毎日の作業に取り組んでいきたいと思えます。

厨房器具の劣化やメニュー内容、注文量等に対応するために、新たにスチームコンベクションを導入しました。今後も、安心・安全・美味しい食を追求し、所員・職員一丸となって着実に成果を上げられるようにひとつずつ丁寧に対応していきたいと思えます。

【 所外就労 】

令和1年度も、事業所の外での作業を、2か所において委託を受けて行いました。

㈱角藤 ワインボトルのラベル貼り

ワインボトルのラベル貼りの作業を委託され、週1回程度で半日程度行いました。所員1~2名で、職員1名が付き添い作業にあたりました。作業内容はワインラベルのカットやワインボトルにそれぞれのラベルを貼るものであり、ミリ単位での精密さを求められるものであり、失敗するとやり直しが難しい作業です。集中力を求められ、かなり緊張するものでしたが、責任感を持って取り組むことができました。また、責任ある作業を任せられ、自身にも繋がっています。

にじいろキッズらいふ昼食等提供業務

他法人が運営する児童発達支援センターにじいろキッズらいふにて、厨房での業務を委託され、祝日を除く月曜日から金曜日まで、職員2名と所員1名で作業にあたりました。同事業所を利用される方の昼食やおやつを提供業務です。作業内容は、キッチン CoCo でカットや下処理をした食材を、にじいろキッズらいふ所属の管理栄養士の指導のもとで調理や盛り付け、食器の洗浄等を行いました。食事の提供時間に間に合わせるという緊張感のある作業ですが、職員及び所員ともに連携して作業に取り組むことができました。また、所員は所内よりいっそうの集中力を求められ、緊張感や責任感を持って取り組むことができました。所内で行う作業とは違った空気の中で行うことで、所内での作業に対しても良いモチベーションになるようです。

【給与額について】

月	平均給与額	月	平均給与額
4月	85,441円	10月	76,480円
5月	82,835円	11月	74,355円
6月	78,528円	12月	76,651円
7月	86,736円	1月	81,314円
8月	70,863円	2月	75,585円
9月	67,151円	3月	85,847円
平均給与額 71,979円 支払い総額 8,637,501円			

7 カルチャー・衛生講習 就労継続支援B型事業と同様

(1) 実施日、実施内容、参加者数等

日付	実施タイトル	参加者数
実施した内容		
5/23(木)	熱中症予防・対策について	13名

厚生労働省より熱中症予防についてのお知らせがあり、熱中症にならないために予防策の周知を図る。		
6/27(木)	言葉遣いに気をつける	10名
声をかけられたら、きちんと「はい」と返事をしよう。仕事の時の言葉遣いは「～です」「～ます」が基本。報告の際には「～できました」「終わりました」と伝える。		
7/25(木)	熱中症予防・対策について	13名
配達担当・厨房担当、それぞれの業務中に気をつけることについて話し合う。暑さで体力・気力とも消耗しているので、仕事に支障が出ないように体調管理に気をつける。		
8/22(木)	休暇の取り方	9名
有給休暇の取り方、申請の仕方を説明。もし風邪や熱で出勤が難しいときには仕事が始まる前に連絡をしよう。		
9/26(木)	集団行動について	9名
家族旅行が近日行われるため、旅行参加者には特に、集団で行動する時のマナーや約束事などを伝える。「他者に迷惑をかけない行動とは？」を考えていただいた。		
10/24(木)	栄養士による衛生指導	10名
食品を扱う上での注意事項を栄養士より説明。衛生に関する講習指導。		
11/27(水)	就労規則についての説明会	9名
A型利用者に対して、所長より就労規則について説明をしていただき、A型としての自覚を促した。		
12/25(水)	クリスマス会	13名
昼食時間にクリスマス会を行う。		
1/23(木)	インフルエンザ予防・対策について	10名
インフルエンザの予防接種のよびかけ。また、もしかかった場合の説明。外出する時にはマスクの着用。年末年始などでかけることも増えてくるので、人混みに行くときには特に注意をする。		
2/6(木)	新型コロナウイルス感染予防について	10名
新型コロナウイルス感染状況の説明、及び予防対策についての話をする。 手洗いうがい・マスク着用・アルコール消毒等を促し、3密防止等の説明をする。		

(2) カルチャー・衛生指導のねらいについて

順調に働き続けていくために、また日常生活を安心して送っていくために、知っておくべき知識や取り組むべき行動等についての学びの時間として行いました。職員が所員から受ける相談ごとや仕事への取り組み方等から課題を拾い上げ、資料を参考にして伝えるようにしま

した。

また、今年も栄養士からの衛生指導も行いました。食品を扱う仕事に携わっているため、気をつけなければならない事柄等を所員全員に向け、きちんと説明をするようにしました。来年度も所員の日頃の様子から、大事だと思われるものを学びとして取り上げながら行っていききたいと思います。

(3) 評価及び課題等について

実施頻度について

月に1回、木曜日に行いました。所外実習や衛生講習・健康相談といった他の活動もあり、月1回程度が妥当だと思われます。カルチャーの予定日に作業が忙しかったり、職員の配置がうまくできなかったりと実施できない時もありましたが、その場合には翌週に行うようにしました。

実施内容について

日付	企画名	参加者数
----	-----	------

仕事上でのマナーやルール、挨拶や言葉遣い、服装等の内容については実施後意識的に気をつけて行動する様子も見られました。また、A型利用者に対して就業規則を説明する時間を設けたことで、仕事に対する心構え等あらためて考えていただく良い機会にもなった様です。更には熱中症予防・対策、インフルエンザやノロウイルスに対する予防・対策、新型コロナウイルス感染防止を徹底するための注意喚起に努め、それぞれ感染者が一人も出なかったことが結果につながっています。

参加者について

所員全員参加をめざして行ったが、当日休みの所員や、洗浄の作業などをしていて、参加できない所員がいます。皆がそろるのは難しいですが、そのような場合には必ず後で個別に行うようにしました。

来年度について

来年度も同様の目的で実施していききたいと思います。内容については、所員の希望を聞いたり、職員側で必要と思われるものを考えたりしながら行っていききたいと思います。

8 QOL 活動 就労継続支援B型事業と同様

(1) QOL 実施内容

4/14 (日)	アトリエ CoCo お花見会へ参加	9名
5/18 (土)	映画鑑賞&ランチ	6名
6/16 (日)	サンアップル主催 障がい者施設対抗スポーツ大会へ参加	3名
7/7 (日)	アートフェスティバル 2019 へ参加	3名
8/9 (金)	アトリエ CoCo 夏祭りへ参加	5名
9/27 (日)	フードドライブ&食事	3名
11/9 (土)	ボーリング大会	6名
12/14 (土)	キッチン CoCo 忘年会 カラオケ大会	7名
2/22 (土)	足湯&食事	5名

(2) QOL 活動のねらいについて

所員の休日のリフレッシュと、また様々な社会経験の場として月に1度ほどを目途に行いました。活動後は楽しかったという声が多く聞かれ、また、今月は何をやるの?等と楽しみにしている所員もいます。リフレッシュの場になっているようです。

また自ら昼食を選び購入することもあり、よい経験の場になったと思われま

(3) 評価及び課題等

実施内容について

今年度は、秋以降台風被害や新型コロナウイルス感染拡大により、イベントが中止となることが多く、希望に添える企画が少なくなっていました。それでも食事やカラオケ・映画鑑賞、足湯につかる企画等は楽しめたのではないかと感じています。いろいろな情報を集め、多岐にわたって実施できるように努めていきたいと思

実施頻度について

土曜日または日曜日を使い、1か月に1回程度行いました。後半は新型コロナウイルス感染防止のため自粛を余儀なくされ、出かけることが困難になってしまいました。金銭がかかる面や、疲れを残さないことを考えると今の1か月に1回のペースがよいと思われま

参加者数について

今年度、参加者数は少なめ傾向でしたが、忘年会を兼ねて行ったカラオケ企画は、普段参加されない方も多数参加され楽しむことができました。金銭的に厳しいという理由により参加しない所員もあり、できるだけお金がかからない企画も考えていきたいと思

来年度について

QOL 活動を毎月楽しみにしている所員がいます。来年度も月1回程度のペースで様々な企画をしていきたいと思

るものや教養を深めるもの、所員同士の親睦を深めるための親睦会等、できるだけ多岐にわたって実施していきたいと思えます。

9 保健衛生について 就労継続支援B型事業と同様

(1) 健康診断について

- 2回実施 -

第1回目

日時 : 令和1年6月27日(木) 13:30~17:00
令和1年7月4日(木) 13:30~17:00

実施(依頼)機関 : (財)全日本労働福祉協会
実施内容 : 身長・体重測定、血圧測定、尿検査、視力検査、胸部レントゲン、聴力検査(対象者のみ)、血液検査(対象者のみ)、心電図(対象者のみ)、医師による触診及び問診
受信者数 : 19名受診(うち1名、同法人事業所に異動)

第2回目

日時 : 令和1年8月26日(月)及び8月27日(火)
実施(依頼)機関 : 立岩内科小児科医院 立岩孝之医師
実施内容 : 触診及び問診
受診者数 : 12名受診

その他

第1回目の診断結果ができ次第、データを立岩Dr.と看護師にお渡しして、ご意見・ご指導をいただきました。いただいたご意見・ご指導は面談や健康相談を通じてご本人たちに伝えました。

(2) 健康相談について

三木看護師(嘱託)により、月に2回程度(水曜日)、1人20分程度かけて行いました。

月	回数	延相談者数	月	回数	延相談者数
4月	1回	8名	10月	2回	12名
5月	1回	7名	11月	0回	0名
6月	2回	13名	12月	2回	13名
7月	2回	11名	1月	2回	14名
8月	2回	9名	2月	2回	14名
9月	1回	8名	3月	2回	16名
			実施回数	19回	延相談者数 125名

(3) 肥満対象者について

健康診断において肥満状態にある所員4名。肥満に関しては自覚をしているようですが、自宅での食事量や間食の自己管理が難しいと思われます。キッチン CoCo にて提供している昼食はおかずやごはんの量が決まっているので食べ過ぎると言うことは無いのですが、家庭等での食事量が多かったり、間食もとったりするため生活全般的に多めの様です。日常的に適切な量と内容の食事をとるように意識を持っていただきたいと思います。職員側からの意識付け等の働きかけはこれからも必要であり、面談や健康相談等を通してこれからも働きかけをしていきたいと思います。

(4) 血圧について

- ・毎月の健康相談にて、血圧測定を実施しました。数名の所員は測定日によっては血圧が高い時もありますが、常時ではないので様子を見ています。
- ・年間を通して低血圧傾向にある所員が1名いますが、三木看護師からは、日常生活に支障はないとの話があり様子を見ています。

(5) 救急箱について

風邪薬、胃腸薬、鼻炎、痛み止め等の経口薬、及び消毒液、絆創膏、湿布、目薬等、かゆみ止め並びに体温計を整えています。施設の衛生管理上、手の傷を露出しないよう絆創膏が使われることが多かったです。一部の風邪薬や目薬・湿布薬などのように全く使用しない薬もありました。

(6) 服薬支援について

個別に服薬支援を行っている所員が1名います。頭痛によるかかりつけ医より痛み止め、精神安定剤等の頓服薬を処方されています。頭痛のとんぷく薬の保管は職員が行い、症状や服薬希望の訴えがあったときには様子を見て渡す等の服薬支援を行いました。

(7) 「傷病記録」について

服薬・静養等の場合、必要な情報はケース記録に残しその都度支援を行いました。

(8) 嘱託の医師と看護師との連携について

今年度も2回、立岩医師による健康診断を、そして、三木看護師による健康相談を基本的に月2回実施しました。

健康診断については第1回目の健康診断の結果のデータを立岩医師と三木看護師にお渡し、診断結果に応じて、必要な場合には各所員個別に指導及び助言等をいただきました。また日常の情報交換や共有を通して、所員個別の健康状態や対応等について指導や助言をいただき、所員の健康管理支援や日常や年度等の健康衛生活動の取り組みにつなげています。

(9) 個別の健康情報について

精神的な疾患を持ち、メンタル面での配慮や支援を必要とする所員が増えてきています。基本的には年間を通して継続して安定している所員が多い中、時期や状況によって、感情的に不安定な状態になり、躁鬱等のそれぞれが抱えている症状が出てきて、困ったり苦しんだりする様子も伺えます。所員の状態を日常的にしっかりと把握をし、また休んでいるときも電

話や訪問等を行って連絡をとり、状態の確認と把握を行っています。そのうえで、必要な支援を行い、そして当事業所のスタッフ間でも所員個人の基本的な情報と日々における状態について情報共有を行い、事業所スタッフ全員で連携して支援にあたっています。

(10) 衛生講習について

作業および日常生活での衛生意識の向上を目的として、その都度職員による衛生講習を行いました。

(インフルエンザ予防・ノロウイルス予防・熱中症予防・新型コロナウイルス予防等)

(11) 清掃について

清掃については、所員によってそれぞれに応じた支援を受けながら、作業室や生活区域のスペースを担当場所ごとに行いました。特に作業室は、お弁当を作っている箇所であり、常に衛生面を意識して丁寧にしっかりと行いました。

(12) その他

毎日の朝会において、爪・手指の傷・身だしなみとともに健康状態の確認を行いました。

毎日、通所して来た際も含め外から帰ってきた時には、日常的に手洗い・うがい・アルコール消毒を促し行いました。(インフルエンザ・風邪・ノロウイルス対策・新型コロナウイルス対策)

11月頃より、ウイルス除去・除菌対策として事務室や食堂にはクレベリン(室内空間用消毒薬)を設置しました。今年度もインフルエンザに罹った方はいらっしゃいませんでした。

10 給食について 就労継続支援B型事業と同様

- ・給食を楽しみに通所する所員が多いです。内容は、日替わり弁当とほぼ同じメニューで提供をしています。自分たちが、仕込み・盛り付けをした弁当が商品としてお客様に届くというのは、所員たちのやりがいやモチベーションのアップにつながっているように感じます。
- ・給食検討会にて、給食に関する情報交換及び共有し課題検討を行いました。嗜好調査やアレルギー等のアンケートをとり、必要に応じて対応をしてきました。嗜好による配慮は行いましたが、アレルギー対応の所員はいませんでした。1名、生卵のアレルギーがある方がいますが、生玉子を提供することはありません。

11 旅行について 就労継続支援B型事業と同様

(1) 実施内容等

第1回目

《実施年月日》

令和1年9月5日(木)~9月6日(金)

《参加人数》

計4名(所員2名、家族1名、職員1名)

《旅行会社》

日本旅行長野支店

《場所》

『伊豆のいいとこどりの旅』

・見学場所

1 日目：伊豆フルーツパーク・三島大社

2 日目：伊豆・三津シーパラダイス

・宿泊場所

伊東温泉 ホテル暖香園

《その他》

アトリエ CoCo、CoCoJAVJAV、家族会と共催しました。

第 2 回目

《実施年月日》

令和 1 年 9 月 12 日(木)～9 月 13 日(金)

《参加人数》

計 9 名(所員 7 名、家族 1 名、職員 1 名)

《旅行会社》

日本旅行長野支店

《場所》

『ムーミンバレーパークと TDL の旅』

・見学場所

1 日目：ムーミンバレーパーク

2 日目：TDL

・宿泊場所

水月ホテル鷗外荘

《その他》

アトリエ CoCo、CoCoJAVJAV、家族会と共催しました。

《評価及び課題》

9 月の上旬の 2 週にわたって 2 グループに分けてアトリエ CoCo、CoCoJAVJAV、家族会と共催して実施しました。9 名の所員とその家族が参加されました。参加された方はのんびりとゆっくりとできて存分に満喫できたようで、事業所内外の人たちの交流も楽しめたようでした。

旅行の実施日は、キッチン CoCo では通常通り弁当製造配達業務を行いましたが、木・金曜日の平日であったため、事業所内は少ない人数で業務運営を行わなくてはならず、かなりの負担を強いられるため、旅行の日程及び方法等については今後検討していきたいと思います。

12 防災訓練について 就労継続支援 B 型事業と同様

(1) 防災訓練

第 1 回目

- ・実施日：平成 31 年 4 月 30 日(木)

- ・参加者：所員 10 名 職員 6 名 計 16 名
- ・内容：避難訓練。事業所内で火災が発生したと想定して避難訓練を行いました。
- ・反省点：実際に火災が起きたときには、発生時点で誘導することとなります。次回の訓練では、火災が起きた時点で避難を誘導する、というやり方で行うようにしたいと思います。腰を低くし、ハンカチや裾などを口元にあてるということができていない所員もいたため、次回は事前にその大切さ等もレクチャーもしてから行うようにします。

第 2 回目

- ・実施日：令和 1 年 12 月 27 日(金)
- ・参加者：所員 11 名 職員 4 名 計 15 名
- ・内容：避難訓練。事業所内で火災が発生したと想定して避難訓練を行いました。
- ・反省点：今回は前回の変更点として、「初期消火の段階で、119 番通報と避難誘導」を行いました。今回はガスコンロとしました。事前に避難のレクチャーもしたため避難も順調でした。

(2) 消防設備点検

毎月実施しました。業者による総合点検として年に 2 回(平成 31 年 4 月及び令和 1 年 11 月)実施しました。

(3) その他

- ・消火器、非常警報装置、誘導灯、火災探知報知機の確認。

13 地域との協働について 就労継続支援 B 型事業と同様

- ・見学や研修を受け入れました。
(特別支援学校等の先生及び生徒、保護者、民生委員、社協関係者、他事業所等)
- ・地域の諸団体等との連携を行い、様々な地域ネットワークに積極的に参加しました。
(長野市障害ふくしねっと、長野県セルフセンター協議会、若穂住民自治協議会、長野市商工会若穂支部等)

14 職員研修について 就労継続支援 B 型事業と同様

- ・ケア会議や職員会議を定期的実施し、日常業務の情報交換や支援や作業における知識及び技術の研鑽に努めました。
- ・相談支援従事者初任者研修、サービス管理責任者研修、虐待防止研修等の外部の機関が行う研修を予定していましたが、台風災害により参加を見合わせたり中止となったりしました。来年度はできる限り参加して知識や技術の向上に努めたいと思います。

15 職員体制について

所長 1 名

サービス管理責任者	1名
職業指導員	2名
生活支援員	1名
賃金向上達成指導員	2名
看護師（嘱託）	1名
医師（嘱託）	1名

就労継続支援B型援事業

1 所員の内訳

- (1) 登録者数 5名（令和2年3月31日時点）
- (2) 市町村別 長野市 5名
- (3) 男女別 男性1名・女性4名
- (4) 年齢 平均44.1歳（令和1年度末）
- (5) 障がい種別 知的障がい者 4名
精神障がい者 1名

2 通所方法

- (1) 徒歩または自転車 3名
- (2) バイクまたは車（本人運転による） 1名
- (3) 公共交通機関利用 1名
- (4) 送迎（長野電鉄村山駅発着） 1名
- (5) 家族による送迎 0名

3 日課について

8:15 ~ 12:15まで	朝会 着替え 作業
12:00 ~ 13:00まで	お昼 休憩
13:00 ~ 15:15まで	作業・掃除・帰りの会
15:15	帰宅

利用者の体調や事情等によっては、個別に時間の調整をしています。

土または日曜日は、作業状況や活動内容によって様々に設定しました。

4 通所状況

通所実態（通所率）

4月	5月	6月	7月	8月	9月
96.1%	92.5%	100%	96.9%	85.7%	86.4%

10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
86.3%	87.1%	79.2%	68.9%	83.3%	79.5%	85.1%

5 個別支援計画 就労継続支援A型事業と同様

個別支援計画では、本人や家族との面談や、関わってきた関係者等を含めた会議を開くなどして、アセスメントを行い、本人のそれまでの歩みや、得意なことや苦手なこと、行動や日常生活上等で配慮すること等々を確認し、本人の願いをベースにして個別支援計画を作成しました。特に本人の願いを重視して、面談をする中で願いやニーズ把握するように努めました。

さらには、面談日以外にも、適時に相談を受け、困っていることや頑張りたいことを聞き、そこからニーズを拾って作成するようにしました。もし、生活の面などの困り感や希望があった時には、他の機関と連絡をとり繋げるようにし、個別支援計画の目標として取り組めるものは入れるようにしました。

そして、6カ月ごとに1回の見直しを行いました。来年度も、本人の願いをベースに、より良い支援に繋がるように計画的に面談等を行い、定期的に支援計画を作成していきたいと思えます。

6 就労活動について 就労継続支援A型事業と同様

【 お弁当製造、販売、配達作業 】

(1) 作業実績及び作業風景等

各所員が意欲的に作業に就いていました。目標を持って作業に取り組み、任されたことは責任を持って行い、分からないことは職員に聞きながら、働くことの楽しさや厳しさ、やり終えた達成感や喜びを感じられていると思います。また、身支度や食品に携わる際の衛生管理や、盛り付けのときの技術や目配り（おかずが決められた所に確実に適量入れられたなど）確認を取りながら進めています。配達るときは、身支度に気をつけ、お客様に挨拶をすることや走らず慌てないよう落ち着いて作業できるように声掛けしています。

平日の昼食を主に、平均200食のお弁当を作り配達しております。法人内の6箇所の事業所の昼食の提供も行っており、食数は180食位です。

児童発達支援センター「にじいろキッズらいふ」より受けている業務委託は継続して運営しており、A型利用者1名及び職員2名で対応しています。平均55食程度及びおやつ35食程度の数を提供し、稼働日数は年間でにじいろキッズらいふが開所する約220日でした。前日に食材を納品して、当日現場にて調理、配膳、食器の洗浄、おやつ提供、翌日の食器の準備などの作業をしています。

安心・安全な食材を吟味し、野菜が豊富で手作り感のあるおいしい弁当をお届けできるよう日々努めています。

(2) 評価及び課題等

今年度は、秋の台風被害や新型コロナウイルス感染拡大などにより、多くのイベントが中止になったため、特注弁当や美替わり弁当の注文数がかなり減ってしまいました。また、食材の

高騰に伴い弁当の値段を上げざるを得ない状況になり、検討を重ねた結果、2月に定価改正を行いました。新規受注の増加やリピーター増加につながるようなメニュー構成や、味付け、盛り付けの工夫など課題はまだありますが、食中毒などの事故が無いよう細心の注意と心構えで毎日の作業に取り組んでいきたいと思ひます。

厨房器具の劣化やメニュー内容、注文量等に対応するために、新たにスチームコンベクションを導入しました。今後も、安心・安全・美味しい食を追求し、所員・職員一丸となって着実に成果を上げられるようにひとつずつ丁寧に対応していきたく思ひます。

【 工賃額について 】

月	平均月額工賃額	月	平均月額工賃額
4月	29,141円	10月	23,765円
5月	28,052円	11月	23,607円
6月	27,324円	12月	25,466円
7月	34,897円	1月	21,366円
8月	24,058円	2月	24,923円
9月	20,225円	3月	29,182円
平均月額工賃額 26,001円 (時給換算 265円) 支払い総額 2,060,043円			

7 カルチャー・衛生講習 就労継続支援A型事業と同様

(1) 実施日、実施内容、参加者数等

日付	実施タイトル	参加者数
実施した内容		
5/23(木)	熱中症予防・対策について	13名
厚生労働省より熱中症予防についてのお知らせがあり、熱中症にならないために予防策の周知を図る。		
6/27(木)	言葉遣いに気をつける	10名
声をかけられたら、きちんと「はい」と返事をしよう。仕事の時の言葉遣いは「～です」「～ます」が基本。報告の際には「～できました」「終わりました」と伝える。		
7/25(木)	熱中症予防・対策について	13名
配達担当・厨房担当、それぞれの業務中に気をつけることについて話し合う。暑さで体力・気力とも消耗しているので、仕事に支障が出ないように体調管理に気をつける。		
8/22(木)	休暇の取り方	9名
有給休暇の取り方、申請の仕方を説明。もし風邪や熱で出勤が難しいときには仕事が始まる前に連絡をしよう。		
9/26(木)	集団行動について	9名

家族旅行が近日行われるため、旅行参加者には特に、集団で行動する時のマナーや約束事などを伝える。「他者に迷惑をかけない行動とは？」を考えていただいた。		
10/24(木)	栄養士による衛生指導	10名
食品を扱う上での注意事項を栄養士より説明。衛生に関する講習指導。		
11/27(水)	就労規則についての説明会	9名
A型利用者に対して、所長より就労規則について説明をしていただき、A型としての自覚を促した。		
12/25(水)	クリスマス会	13名
昼食時間にクリスマス会を行う。		
1/23(木)	インフルエンザ予防・対策について	10名
インフルエンザの予防接種のよびかけ。また、もしかかった場合の説明。外出する時にはマスクの着用。年末年始などでかけることも増えてくるので、人混みに行くときには特に注意をする。		
2/6(木)	新型コロナウイルス感染予防について	10名
新型コロナウイルス感染状況の説明、及び予防対策についての話をする。 手洗いうがい・マスク着用・アルコール消毒等を促し、3密防止等の説明をする。		

(2) カルチャー・衛生指導のねらいについて

順調に働き続けていくために、また日常生活を安心して送っていくために、知っておくべき知識や取り組むべき行動等についての学びの時間として行いました。職員が所員から受ける相談ごとや仕事への取り組み方等から課題を拾い上げ、資料を参考にして伝えるようにしました。

また、今年も栄養士からの衛生指導も行いました。食品を扱う仕事に携わっているため、気をつけなければならない事柄等を所員全員に向け、きちんと説明をするようにしました。来年度も所員の日頃の様子から、大事だと思われるものを学びとして取り上げながら行っていきたいと思います。

(3) 評価及び課題等について

実施頻度について

月に1回、木曜日に行いました。所外実習や衛生講習・健康相談といった他の活動もあり、月1回程度が妥当だと思われます。カルチャーの予定日に作業が忙しかったり、職員の配置がうまくできなかつたりと実施できない時もありましたが、その場合には翌週に行うようにしました。

実施内容について

仕事上でのマナーやルール、挨拶や言葉遣い、服装等の内容については実施後意識的に気をつけて行動する様子も見られました。また、A型利用者に対して就業規則を説明する時間を設けたことで、仕事に対する心構え等あらためて考えていただく良い機会にもなった様です。更には熱中症予防・対策、インフルエンザやノロウイルスに対する予防・対策、新型コロナウイルス感染防止を徹底するための注意喚起に努め、それぞれ感染者が一人も出なかったことが結果につながっています。

参加者について

所員全員参加をめざして行ったが、当日休みの所員や、洗浄の作業などをしていて、参加できない所員がいます。皆がそろるのは難しいですが、そのような場合には必ず後で個別に行うようにしました。

来年度について

来年度も同様の目的で実施していきたいと思います。内容については、所員の希望を聞いたり、職員側で必要と思われるものを考えたりしながら行っていきたいと思います。

8 QOL 活動 就労継続支援A型事業と同様

(1) 実施内容

(2) QOL 活動のねらいについて

所員の休日のリフレッシュと、また様々な社会経験の場として月に1度ほどを目途に行いました。活動後は楽しかったという声が多く聞かれ、また、今月は何をやるの?等と楽しみにしている所員もいます。リフレッシュの場になっているようです。

また自ら昼食を選び購入することもあり、よい経験の場になったと思われます。

(3) 評価及び課題等

実施内容について

今年度は、秋以降台風被害や新型コロナウイルス感染拡大により、イベントが中止となることが多く、希望に添える企画が少なくなりました。それでも食事やカラオケ・映画鑑賞、足湯につかる企画等は楽しめたのではないかと感じています。いろいろな情報を集め、多岐にわたって実施できるように努めていきたいと思ひます。

実施頻度について

土曜日または日曜日を使い、1か月に1回程度行いました。後半は新型コロナウイルス感染

日付	企画名	参加者数
4/14 (日)	アトリエ CoCo お花見会へ参加	9名
5/18 (土)	映画鑑賞 & ランチ	6名
6/16 (日)	サンアップル主催 障がい者施設対抗スポーツ大会へ参加	3名
7/7 (日)	アートフェスティバル 2019 へ参加	3名
8/9 (金)	アトリエ CoCo 夏祭りへ参加	5名
9/27 (日)	フードドライブ & 食事	3名
11/9 (土)	ボーリング大会	6名
12/14 (土)	キッチン CoCo 忘年会 カラオケ大会	7名
2/22 (土)	足湯 & 食事	5名

防止のため自粛を余儀なくされ、出かけることが困難になってしまいました。金銭がかかる面や、疲れを残さないことを考えると今の1か月に1回のペースがよいと思われます。

参加者数について

今年度、参加者数は少なめ傾向でしたが、忘年会を兼ねて行ったカラオケ企画は、普段参加されない方も多数参加され楽しむことができました。金銭的に厳しいという理由により参加しない所員もあり、できるだけお金がかからない企画も考えていきたいと思えます。

来年度について

QOL 活動を毎月楽しみにしている所員がいます。来年度も月1回程度のペースで様々な企画をしていきたいと思えます。事業所間の交流を目的として、今年度はアトリエ CoCo 主催のものに参加しましたが、BakeryCafeCoCo で行っている企画行事にも参加するなど、今年度とは違った企画も考えていきたいと思えます。また、スポーツやカラオケ等でリフレッシュできるものや教養を深めるもの、所員同士の親睦を深めるための親睦会等、できるだけ多岐にわたって実施していきたいと思えます。

9 保健衛生について 就労継続支援 A 型事業と同様

(1) 健康診断について

- 2 回実施 -

第 1 回目

日時 : 令和 1 年 6 月 27 日 (木) 13:30~17:00
令和 1 年 7 月 4 日 (木) 13:30~17:00

実施(依頼)機関 : (財)全日本労働福祉協会

実施内容 : 身長・体重測定、血圧測定、尿検査、視力検査、胸部レントゲン、聴力検査(対象者のみ)、血液検査(対象者のみ)、心電図(対象者のみ)、医師による触診及び問診

受信者数 : 19 名受診(うち 1 名、同法人事業所に異動)

第 2 回目

日時 : 令和 1 年 8 月 26 日 (月) 及び 8 月 27 日 (火)

実施(依頼)機関 : 立岩内科小児科医院 立岩孝之医師

実施内容 : 触診及び問診

受診者数 : 12 名受診

その他

第 1 回目の診断結果ができ次第、データを立岩 Dr. と看護師にお渡しして、ご意見・ご指導をいただきました。いただいたご意見・ご指導は面談や健康相談を通じてご本人たちに伝えました。

(2) 健康相談について

三木看護師（嘱託）により、月に2回程度（水曜日）、1人20分程度かけて行いました。

月	回数	延相談者数	月	回数	延相談者数	
4月	1回	8名	10月	2回	12名	
5月	1回	7名	11月	0回	0名	
6月	2回	13名	12月	2回	13名	
7月	2回	11名	1月	2回	14名	
8月	2回	9名	2月	2回	14名	
9月	1回	8名	3月	2回	16名	
			実施回数	19回	延相談者数	125名

(3) 肥満対象者について

健康診断において肥満状態にある所員4名。肥満に関しては自覚をしているようですが、自宅での食事量や間食の自己管理が難しいと思われます。キッチン CoCo にて提供している昼食はおかずやごはんの量が決まっているので食べ過ぎると言うことは無いのですが、家庭等での食事量が多かったり、間食もとったりするため生活全般的に多めの様です。日常的に適切な量と内容の食事をするように意識を持っていただきたいと思います。職員側からの意識付け等の働きかけはこれからも必要であり、面談や健康相談等を通してこれからも働きかけをしていきたいと思っています。

(4) 血圧について

- ・毎月の健康相談にて、血圧測定を実施しました。数名の所員は測定日によっては血圧が高い時もありますが、常時ではないので様子を見ています。
- ・年間を通して低血圧傾向にある所員が1名いますが、三木看護師からは、日常生活に支障はないとの話があり様子を見ています。

(5) 救急箱について

風邪薬、胃腸薬、鼻炎、痛み止め等の経口薬、及び消毒液、絆創膏、湿布、目薬等、かゆみ止め並びに体温計を整えています。施設の衛生管理上、手の傷を露出しないよう絆創膏が使われることが多かったです。一部の風邪薬や目薬・湿布薬などのように全く使用しない薬もありました。

(6) 服薬支援について

個別に服薬支援を行っている所員が1名います。頭痛によるかかりつけ医より痛み止め、精神安定剤等の頓服薬を処方されています。頭痛のとんぱく薬の保管は職員が行い、症状や服薬希望の訴えがあったときには様子を見て渡す等の服薬支援を行いました。

(7) 「傷病記録」について

服薬・静養等の場合、必要な情報はケース記録に残しその都度支援を行いました。

(8) 嘱託の医師と看護師との連携について

今年度も2回、立岩医師による健康診断を、そして、三木看護師による健康相談を基本的に月2回実施しました。

健康診断については第1回目の健康診断の結果のデータを立岩医師と三木看護師にお渡し、診断結果に応じて、必要な場合には各所員個別に指導及び助言等をいただきました。また日常の情報交換や共有を通して、所員個別の健康状態や対応等について指導や助言をいただき、所員の健康管理支援や日常や年度等の健康衛生活動の取り組みにつなげています。

(9) 個別の健康情報について

精神的な疾患を持ち、メンタル面での配慮や支援を必要とする所員が増えてきています。基本的には年間を通して継続して安定している所員が多い中、時期や状況によって、感情的に不安定な状態になり、躁鬱等のそれぞれが抱えている症状が出てきて、困ったり苦しんだりする様子も伺えます。所員の状態を日常的にしっかりと把握をし、また休んでいるときも電話や訪問等を行って連絡をとり、状態の確認と把握を行っています。そのうえで、必要な支援を行い、そして当事業所のスタッフ間でも所員個人の基本的な情報と日々における状態について情報共有を行い、事業所スタッフ全員で連携して支援にあたっています。

(10) 衛生講習について

作業および日常生活での衛生意識の向上を目的として、その都度職員による衛生講習を行いました。

(インフルエンザ予防・ノロウイルス予防・熱中症予防・新型コロナウイルス予防等)

(11) 清掃について

清掃については、所員によってそれぞれに応じた支援を受けながら、作業室や生活区域のスペースを担当場所ごとに行いました。特に作業室は、お弁当を作っている箇所であり、常に衛生面を意識して丁寧にしっかりと行いました。

(12) その他

毎日の朝会において、爪・手指の傷・身だしなみとともに健康状態の確認を行いました。

毎日、通所して来た際も含め外から帰ってきた時には、日常的に手洗い・うがい・アルコール消毒を促し行いました。(インフルエンザ・風邪・ノロウイルス対策・新型コロナウイルス対策)

11月頃より、ウイルス除去・除菌対策として事務室や食堂にはクレベリン(室内空間用消毒薬)を設置しました。今年度もインフルエンザに罹った方はいらっしゃいませんでした。

10 給食について 就労継続支援A型事業と同様

- ・給食を楽しみに通所する所員が多いです。内容は、日替わり弁当とほぼ同じメニューで提供をしています。自分たちが、仕込み・盛り付けをした弁当が商品としてお客様に届くというのは、所員たちのやりがいやモチベーションのアップにつながっている様に感じます。
- ・給食検討会にて、給食に関する情報交換及び共有し課題検討を行いました。嗜好調査やアレルギー等のアンケートをとり、必要に応じて対応をしてきました。嗜好による配慮は行いま

したが、アレルギー対応の所員はいませんでした。1名、生卵のアレルギーがある方がいますが、生玉子を提供することはありません。

11 旅行について 就労継続支援A型事業と同様

(1) 実施内容等

第1回目

《実施年月日》

令和1年9月5日(木)~9月6日(金)

《参加人数》

計4名(所員2名、家族1名、職員1名)

《旅行会社》

日本旅行長野支店

《場所》

『伊豆のいいとこどりの旅』

・見学場所

1日目：伊豆フルーツパーク・三島大社

2日目：伊豆・三津シーパラダイス

・宿泊場所

伊東温泉 ホテル暖香園

《その他》

アトリエ CoCo、CoCoJAVJAV、家族会と共催しました。

第2回目

《実施年月日》

令和1年9月12日(木)~9月13日(金)

《参加人数》

計9名(所員7名、家族1名、職員1名)

《旅行会社》

日本旅行長野支店

《場所》

『ムーミンバレーパークとTDLの旅』

・見学場所

1日目：ムーミンバレーパーク

2日目：TDL

・宿泊場所

水月ホテル鷗外荘

《その他》

アトリエ CoCo、CoCoJAVJAV、家族会と共催しました。

《評価及び課題》

9月の上旬の2週にわたって2グループに分けてアトリエ CoCo、CoCoJAVJAV、家族会と共催して実施しました。9名の所員とその家族が参加されました。参加された方はのんびりとゆっくりとできて存分に満喫できたようで、事業所内外の人たちの交流も楽しめたようでした。

旅行の実施日は、キッチン CoCo では通常通り弁当製造配達業務を行いましたが、木・金曜日の平日であったため、事業所内は少ない人数で業務運営を行わなくてはならず、かなりの負担を強いられるため、旅行の日程及び方法等については今後検討していきたいと思います。

12 防災訓練について 就労継続支援A型事業と同様

(1) 防災訓練

第1回目

- ・実施日：平成31年4月30日(木)
- ・参加者：所員10名 職員6名 計16名
- ・内容：避難訓練。事業所内で火災が発生したと想定して避難訓練を行いました。
- ・反省点：実際に火災が起きたときには、発生時点で誘導することとなります。次回の訓練では、火災が起きた時点で避難を誘導する、というやり方で行うようにしたいと思います。腰を低くし、ハンカチや裾などを口元にあてるということができていない所員もいたため、次回は事前にその大切さ等もレクチャーもしてから行うようにします。

第2回目

- ・実施日：令和1年12月27日(金)
- ・参加者：所員11名 職員4名 計15名
- ・内容：避難訓練。事業所内で火災が発生したと想定して避難訓練を行いました。
- ・反省点：今回は前回の変更点として、「初期消火の段階で、119番通報と避難誘導」を行いました。今回はガスコンロとしました。事前に避難のレクチャーもしたため避難も順調でした。

(3) 消防設備点検

毎月実施しました。業者による総合点検として年に2回(平成31年4月及び令和1年11月)実施しました。

(3) その他

- ・消火器、非常警報装置、誘導灯、火災探知報知機の確認。

13 地域との協働について 就労継続支援A型事業と同様

- ・見学や研修を受け入れました。

(特別支援学校等の先生及び生徒、保護者、民生委員、社協関係者、他事業所等)

- ・地域の諸団体等との連携を行い、様々な地域ネットワークに積極的に参加しました。
(長野市障害ふくしねっと、長野県セルフセンター協議会、若穂住民自治協議会、長野市商工会若穂支部等)

14 職員研修について 就労継続支援A型事業と同様

- ・ケア会議や職員会議を定期的実施し、日常業務の情報交換や支援や作業における知識及び技術の研鑽に努めました。
- ・相談支援従事者初任者研修、サービス管理責任者研修、虐待防止研修等の外部の機関が行う研修を予定していましたが、台風災害により参加を見合わせたり中止となったりしました。来年度はできる限り参加して知識や技術の向上に努めたいと思います。

15 職員体制について

所長	1名
サービス管理責任者	1名
職業指導員	1名
生活支援員	1名
目標工賃達成指導員	1名
看護師(嘱託)	1名
医師(嘱託)	1名

相談支援事業(計画相談)

1 実施内容等について

(1) 実施事業

計画相談

(2) 実績(計画相談作成等)

サービス等利用計画作成数	6件
モニタリング数	10件

(3) 評価及び課題等

令和1年度においては継続的に障害福祉サービスを利用する方の更新及び定期的な面談等の計画相談支援業務でした。

計画相談支援業務を通して、本人と適度な距離をとり、本人のエンパワメントに配慮して、本人の力を引き出して、本人が障害福祉サービスを利用しながら、望むような地域の中で

の生活をおくっていくことができるように関わっていくことに改めてですが難しさを感じたりもしました。本人と障害福祉サービス事業所との関係を冷静に客観的に捉え、本人と障害福祉サービス事業所と良好な関係を保ち、望みやニーズに対して本人は意識を持ち、支援等が的確に届いていくように十分に努めてきたとは思いますが、きっとまだまだ不十分なこともあるでしょうし、様々に力を鍛えて向上させていかななくてはならないと思います。

業務量の多さやそれに伴う負担、担い手の量や質、人材育成、報酬単価、制度設計等に不安や課題を感じたりもしますが、目の前の相談支援業務に関わる一つ一つの作業を丁寧にこなしていくことで今後も変わらずに障害のある人の地域生活を支えることに真摯に取り組み、ひいては地域や社会をつくりあげていくことにつなげていきたいと思います。この事業を担っていく中で、現場での動きを通して、障害のある人の利益に直接的に結び付ける行動をとり、そして社会的な課題に対応していくことも臆することなく行っていきたいと思います。

全体的に業務量が多く、実動の部分での動きが遅くなるという傾向にありましたが、効率的に動くことに努めました。そのあたりは今後の課題ではあります。

2 職員体制について

管理者及び相談支援専門員 1名

第2種社会福祉事業 障がい福祉サービス事業
多機能型（ 就労継続B型 就労移行 ）

CoCoJAVJAV（主）・BakeryCoCo（従）

今年度におきましては、CoCoJAVJAVが10年目を迎えたこともあり、これまで培ってきたことやものについて、さらに継続維持していくためにブラッシュアップしながら進めて参りました。まだ見直しをかけていくことがほとんどではありますが、この先へと進めていくためにも、現状にマッチしたことやものへ変化させていくことが必要であり、検討を重ねて参ります。

利用者さんの様子では、健康面で配慮の必要な方が増えたことがひとつあります。一時、入院治療し、今は通院と服薬で治療を続けてはおりますが元気に過ごしているという方が数名おりました。これまでなかったことでありましたので、年齢を重ね、元気な様子であっても身体は確実に変化していることを痛感しております。これまでCoCoにおいて年1回の健康診断を受診、主治医のいる方には主治医との連携を図るようにお伝えをしていましたが、それまで以上に健康について認識を持っていただき、配慮する必要が出てきていると感じます。

次年度におきましても、継続維持することはもちろんですが、ブラッシュアップを続け、少しずつでも進化をしていかれるように、利用者さん、職員と協力し、皆がよりよい方向へ進めていられるようにして参ります。

利用者の推移

就労移行支援

平成31年 4月	・・・在籍者数	1名
	総在籍者数	1名（令和2年3月末）
別途：就労アセスメントのための就労移行利用者数	・平成31年 4月	1名
	令和 1年 7月	1名
	令和 2年 2月	2名
	令和 2年 3月	1名

就労継続B型支援

平成31年 4月	1名	就労移行支援事業より移行入所	・・・在籍者数	33名
	1名	入所		
令和 1年 5月	1名	就労移行支援事業より移行入所	・・・在籍者数	34名
令和 1年 7月	1名	退所	・・・在籍者数	33名
令和 1年 9月	1名	就労移行支援事業より移行入所	・・・在籍者数	34名
令和 1年11月	1名	退所	・・・在籍者数	33名
令和 1年12月	2名	他就労継続支援B型事業所より移行入所	・・・在籍者数	35名
令和 2年 1月	1名	退所	・・・在籍者数	34名
令和 2年 2月	1名	他就労継続支援B型事業所より移行入所	・・・在籍者数	35名
令和 2年 3月	1名	就労移行支援事業より移行入所	・・・在籍者数	36名
		総在籍者数	36名（令和2年3月末）	

就労移行支援事業

1 所員の内訳（令和2年3月末）

- (1) 出身市町村： 長野市 1名
- (2) 性別： 男性 0名 / 女性 1名
- (3) 年齢層： 20歳
- (4) 障がい種別： 知的障がい1名

2 通所方法

- (1) 徒歩及び自転車等 1名
- (2) 公共交通機関（バス・電車） 0名
- (3) 家族による送迎 0名

3 日課について

時間	内容
9:00 ~ 9:15	朝礼・ラジオ体操
9:15 ~ 10:30	作業
10:30 ~ 10:40	午前休憩
10:40 ~ 12:00	作業
12:00 ~ 13:00	昼食休憩
13:00 ~ 14:30	作業
14:30 ~ 14:50	午後休憩
14:50 ~ 15:45	作業
15:45 ~ 15:55	掃除
15:55 ~ 16:00	着替え・帰りの会

月曜日から金曜日を開所とし、土・日曜日は休みとする。土・日曜日に行事等がある場合は開所とする。

4 通所状況

通所実態（通所率）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	年平均 89.2%
95.4%	60.0%	100%	95.6%	77.2%	85.7%	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
91.3%	95.2%	75.0%	95.0%	100%	100%	

5 個別支援計画について

就労訓練においてはどのような作業をしていきたいか、どのような活動をしたいかなど面談を踏まえ、目標設定をしている。目標についてはまとめをして評価し、その後の方向性を決めていくようにする。利用者、ご家族の意向と希望をお聞きし、また、こちらからも提案をするなかで日々の生活が充実していかれるように支援を行う。

6 就労活動について

平均工賃

月	平均工賃月額	月	平均工賃月額
4月	15,800円	10月	16,800円
5月	10,400円	11月	16,000円
6月	16,000円	12月	14,200円
7月	20,600円	1月	15,200円
8月	12,000円	2月	15,200円
9月	12,400円	3月	16,800円
平均工賃額 15,116円			

【 クリーニング 】

《 作業内容 》

- ・日帰り温泉施設、ホテル、美容室等のタオル類の水洗いクリーニングを行う

客先数：14件

アイテム品：BT・FT・BM・サウナマット・スリッパ

- ・高齢者施設利用者の私物品ネットクリーニング

客先数：9件

《 全体として 》

・決まった客先ではあるが、元々タオルの在庫数が足りず、優先して仕上げしてほしいという依頼が常態化している。

・日帰り温泉施設が閉店し、別途、温泉施設の品物を仕上げることとなった。

・新規にホテルのスリッパを受注した。

・二段式乾燥機の1台が動かず、1台にススが出てしまう状態となり品物が黒ずんでしまうこととなってしまった。そのため、白タオルの乾燥が限られた箇所での乾燥となっている。

《 就労訓練 》

・ひとり一人の体調の変化がある中で、必要な治療や自宅療養により体調回復につなげ、治療を継続しながらも通所を再開し、作業に取り組めることができた。

・作業状況に応じて日中の活動内容の変更があったり新しい品物が増えたりもするが、個々に事前の説明があることで対応ができています。また、作業に慣れることで作業能率の向上もみられ仕上げ時間の短縮につながっている。

・半日通所や短時間での通所による利用者（精神・発達障がいの方が多い）が増えている。

・タオルや私物作業、洗い場といったそれぞれの作業に限定せず、どの作業場に入っても作業のできる利用者も増えている。

【 施設外就労 】

『 長野リネンサプライ（株） 』

《 作業内容 》

- ・電車車両の座席カバー一部の仕上げ補助

・月～金曜日の午前：所員3名、職員1名

《 全体として 》

- ・単調作業の繰り返しなので、分かりやすい作業内容である。
- ・一般就労を目指す方の第一歩として活動できるようにする。
- ・台風19号の影響により実習が一時中止となっている。

【 一般ドライクリーニング 】

《 作業内容 》

一般のお客様のドライクリーニングの受付、または配達

《 全体として 》

- ・ドライクリーニングから布団クリーニングまで、いわゆる一般の方のクリーニング店として営業、受付を行い、お客様は法人関係者やご近所の方が主である。
- ・官公庁においては優先調達法の関係から利用があり、回収納品をしている。(種類は、カーテンやカバー類、作業着が主である)

7 QOL 活動について

活動日・活動内容・参加者数

月	日	曜日	内容	参加
4	14	日	アトリエ CoCo お花見会	名
6	16	日	サンアップル・スポーツ大会	7名
7	7	日	サンアップル・アートフェスティバル	5名
8	9	金	アトリエ CoCo 夏祭り	7名
9	5.6	木金	家族旅行()	9名
	12,13	木金	家族旅行(ムーミンパーク・TDL)	10名

・上記のとおり、企画・行事等に

参加。

8 カルチャー

活動日・活動内容

月	日	曜日	内容
4	17	水	お花見
8	21	水	涼む会
12	18	水	クリスマス会
12	27	金	仕事納めの会
1	6	月	仕事始めの会
1	15	水	鏡開き
2	18	火	長野県セルフセンター協議会「ナイスハートバザール」見学
	19	水	

- ・上記のとおり実施。

9 保健衛生について

《 健康相談 》

実施日：毎月第1火曜日、第3水曜日の13時より

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
日	9	14	11	9	7	10	8	12	10	14	12	10
	24	22	26	24	28	25	23	27	25	22	26	25

看護師：富田看護師

内 容：体重・血圧測定、日頃の健康や生活の相談

○血圧測定について

- ・健康相談時の血圧測定にて、再測定者が4～5人のときがある（30歳代の方も含まれる）
- ・高血圧症の診断を受け、治療中の利用者もいる。
- ・食事の味付けについてその都度確認している。
- ・高血圧症予備群として、対応させていただいている状況。

○相談事項について

- ・日常生活全般のこと、健診結果等に対し、対応に苦慮することある。
- ・身体に関する経過報告は可能である。対策等の説明時には頷いて意思確認はできるが、実践することは難しい様子。
- ・検診結果の意思コメントに合わせ、説明をプラスしているが、次回の確認ではかわされてしまうこともある。
- ・ダイエットで目標設定し努力している利用者、基本方法や理解しやすいように、実践しやすいように説明をしているが結果が出にくい。
- ・利用者の方の思いも念頭に入れ、確認を繰り返したり、同じ説明をするなどして実践している。

○「集団生活」における利用者各自の意識UPについて

- ・年間を通し「手洗い、うがい」の励行、指導
- ・夏季における「熱中症」予防と指導
- ・「体力維持」のための生活指導
- ・利用者からの質問や確認事項等に基づく個別指導
- ・“わかる！”、“やってるよ！”等のうれしい反応が聞かれ、「繰り返し作戦」続行中である

《 健康診断 》

令和 1年 6月27日（木）日本労働福祉協会による健康診断

7月 4日（木） ”

令和 1年 8月26日（月）嘱託医立岩先生による健康診断問診

8月27日（火） ”

健康診断の結果より

- ・有所見者 76.7%（利用者、職員含む）
- （うち、男性 37.3% 女性 39.5%）
- （BMI が 57.2%、血中脂質が 83.4%、糖代謝が 50%を占めている）
- ・健康相談において、健康診断の結果をもとに対応させていただいている。

《 保健総括 》

令和2年 3月10日（火）・アトリエ CoCo 食堂

・嘱託医立岩先生、アトリエ CoCo・キッチン CoCo と共同

《 感染症対策・インフルエンザ対策 》

・新型コロナウイルス対策を講じ、施設内に持ち込まない、という意識のもと、対策を継続している。

・今年度もアトリエでの予防接種の希望を伺い、昨年より6名から名の利用者さんが受け、前年よりも多くの方が受けた。職員は全員が予防接種を受けている。インフルエンザは、数名が罹患したが日常から手洗いうがいの励行、除菌等をしていることで大きく広がることなく収束した。

《 家庭との連携 》

・健康相談や健康診断での結果等について、必要なことを家庭へ報告し連携が取れるようにしている。

・服薬されている方は、処方箋の写しを頂いている。

・頓服や頭痛薬などの薬については、必要な方はお預かりし管理している。

《 熱中症予防について 》

・気温や天気を確認しながら熱中症予防飴や塩飴の配布、冷蔵庫で冷やしたタオルを午前、午後と数回ずつ配布、また水分補給はこまめに行うようにした。特に洗い場においては、こまめに休憩を設けている。

《 常備薬について 》

・常備薬については、急な体調不良への対応（腹痛、胃腸薬、風邪薬）個人で服薬をしている利用者へは、その薬と常備薬とを確認し、場合によっては常備薬の服薬を避けていただいている。

10 給食の提供

・希望者に給食を提供（キッチン CoCo より提供）

・各種、季節のカルチャーに合わせたメニューの提供。

・家庭での食事において栄養バランスの偏りのある利用者もあり、様々な食材を使用している給食を食べることで3食のうち1食でも栄養管理のされた食事を摂ることができるよう配慮している。

11 防災訓練・安全について

・消防計画、自衛消防団の編成、職員緊急連絡網の作成（変更作成）

・JAV & Bakery 緊急避難場所：信州大学工学部グラウンド

・地震や災害について朝礼で話をするときには、通所時に緊急避難する場所についての確認を行い「家に帰ったら、家族へも緊急避難先がどこなのか話をするように」と、その都度、話をしている。

防災訓練

・防災グッズ、救急セット、防災ヘルメットを用意し、訓練の際に使用した。

・地震発生時における避難方法について訓練する。

消防設備点検

・毎月実施

・総合点検：年2回、平成31年4月18日・令和1年10月15日実施、三益消防機材(株)へ依頼

AEDの設置

- ・緊急時の対応として設置をしている。
- ・AED取扱いを玄関へも表示し、近隣地域への協力体制も取れるようにしている。(犀川河川敷でのスポーツ活動もあり、緊急時の利用も考えられる)

防犯カメラの設置

- ・危機管理の面から、防犯カメラの設置を行い、駐車場入り口やその周辺から建物裏側までを覆う形で設置とした。
- ・所員、職員の安心安全を守ることはもちろんのこと、地域の安心安全へもつながっている。

12 地域との協働について

養護学校等の実習生受入れ

月	人数	学校名
6	1名	信大付属
7	1名	犀陵中学校
10	1名	信大付属
11	3名	信大付属・長野養護
1	2名	長野養護(就労アセスメントとして2名)

- ・養護学校の実習生受入れでは、複数名の実習生がいるときには一定期間に集中しないよう各学校へ依頼し予定を組んで頂いている。実習期間はそれぞれの生徒に合わせている。
- ・長野市立の中学校より、特別支援学級の生徒の実習がある。

見学者

月	日にち(人数)	人数計
4	9日(2名)	2名
5	21日(11名) 24日(2名) 30日(2名)	15名
6	22日(2名) 28日(8名)	10名
7	5日(49名) 9日(2名) 16日(2名)	53名
8	26日(3名) 27日(2名)	5名
9	17日(2名) 25日(2名)	4名
11	25日(5名)	5名
12	4日(2名) 10日(3名)	5名
1	17日(3名)	3名
2	17日(3名) 26日(2名)	5名
3	3日(3名) 12日(3名)	6名

- ・見学者には、ケアプランナー等の各関係機関からの紹介、養護学校等の見学会ツアーに合わせた見学も含まれる。
- ・見学は随時行っており、事業所内を案内し、質問等を受けている。体験については見学の後に検討していただき、後日、体験日を設けている。

その他

- ・長野市障害ふくしネット（かつどう部会執行部）
- ・地域の諸団体等と連携を行い、様々な地域ネットワーク等に積極的に参加。
- ・BakeryCoCoのパンの販売をお祭りやイベントにて行った。

13 職員研修について

- ・朝の職員ミーティング時において職員間の情報の周知、職員会議による学び
- ・職員会議での資料として、福祉情報や実践報告などの資料の読み合わせをした。

職員研修

月	日	曜日	内容	氏名
6	18	火	長野県知障協「実践を通して学ぶ自閉症支援セミナー」	山崎
	20.21	木金	長野県知障協北信支部県外研修	小林
7	29	月	長野県知障協「実践を通して学ぶ精神領域実践セミナー」	高波
10	18	金	長野県知障協「実践を通して学ぶ精神領域実践セミナー」	高波
	27	日	クリーニング師厚生労働大臣指定研修	小林
12	12	木	法人職員総会	全職員
	13	金	長野県知障協「実践を通して学ぶ精神領域実践セミナー」	高波
1	15.16	水木	障がい者相談支援従事者現任研修	山崎
2	10	月	長野県知障協「実践を通して学ぶ精神領域実践セミナー」	高波
	14	金	障がい者相談支援従事者現任研修	山崎
	19	水	長野市権利擁護・集団指導	小林

14 家族会について

・アトリエ CoCo・キッチン CoCo と共に「CoCo 家族会ながの」として組織、事務局をアトリエ CoCo におく。

- ・総会：令和 1 年 6 月 8 日（土）アトリエ CoCo 食堂
- ・家族のつどい：中止
- ・役員会：年 2 回

15 職員体制について

所長 1 名 サービス管理責任者 1 名 就労支援員 1 名 職業指導員 1 名
生活支援員 1 名 看護師（嘱託） 1 名 医師（嘱託） 1 名

就労継続 B 型支援事業

1 利用者の内訳（令和 2 年 3 月末）

- （1）現住所：長野市 36 名
- （2）性別：男性 18 名 / 女性 18 名
- （3）年齢層：19 歳～65 歳
- （4）障がい種別：知的障がい 24 名 精神障がい 11 名 身体障がい 1 名

2 通所方法（重複あり）

- (1) 徒歩及び自転車(自動車) 14名
- (2) 公共交通機関(バス・電車) 13名
- (3) 家族の送迎 9名

3 日課について

時間	内容
9:00 ~ 9:15	朝礼・ラジオ体操
9:15 ~ 10:30	作業
10:30 ~ 10:40	午前休憩
10:40 ~ 12:00	作業
12:00 ~ 13:00	昼食休憩
13:00 ~ 14:30	作業
14:30 ~ 14:50	午後休憩
14:50 ~ 15:45	作業
15:45 ~ 15:55	掃除
15:55 ~ 16:00	着替え・帰りの会

CoCoJAVJAV：月曜日から金曜日を開所とし、土・日曜日は休みとする。土・日曜日に行事等がある場合は開所とする。祝日は自由通所日。

BakeryCoCo：火曜日から土曜日を開所とし、日・月曜日は休みとする。日・月曜日に行事等がある場合は開所とする。祝日は自由通所日。

4 通所状況

通所実態（通所率）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	年平均 64.6%
67.2%	63.1%	68.9%	64.9%	62.6%	67.0%	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	
65.8%	61.0%	65.2%	62.6%	62.0%	65.1%	

5 個別支援計画

就労移行支援事業と同様

6 就労活動について

平均工賃

月	平均工賃月額	月	平均工賃月額
4月	15,830円	10月	18,805円
5月	18,362円	11月	12,721円
6月	17,353円	12月	13,646円
7月	22,717円	1月	10,099円
8月	17,165円	2月	11,113円
9月	15,478円	3月	12,278円
平均工賃額 15,463円			

【 クリーニング 】

就労移行支援事業と同様

【 パンの製造・販売 】

《 作業内容 》

- ・パン製造における補助作業、仕込み、焼菓子の製造業務。
- ・焼きたてパンや手作りサンドイッチの店舗販売、企業や福祉事業所等への外販。
- ・焼菓子は、季節に合わせたもの各イベントに合わせたギフトボックスの販売、県外の病院売店に置かせていただき、委託販売もある。
- ・調理室、店舗内の衛生管理として、毎日の清掃を丁寧に行う。冷蔵庫や棚の消毒液による拭き掃除、床の雑巾掛け等、毎日の清掃が基本となり衛生管理が行き届いている。

就労訓練

- ・パン等においては、材料の仕込みとして、野菜のカットから調味料を計量し具材を準備するなど多岐に渡る。
- ・焼菓子では、クッキー作りからラスク作りまで、各工程のなかでその方に合わせて携わっていただいている。
- ・外販先については、週や曜日（1か月に1回の場所含む）での固定先へ販売に出向いている。現在、12か所程度の販売先がある。
- ・注文も受けており、保育所の給食用パンなどや、注文票から受注し配達するなどがある。

7 QOL 活動について

就労移行支援事業と同様

8 カルチャー

就労移行支援事業と同様

9 保健衛生について

就労移行支援事業と同様

10 給食の提供

就労移行支援事業と同様

11 防災訓練・安全について

就労移行支援事業と同様

12 地域との協働について

就労移行支援事業と同様

13 職員研修について

就労移行支援事業と同様

14 家族会について

就労移行支援事業と同様

15 職員体制について

所長 1 名 サービス管理責任者 1 名 職業指導員 3 名 生活支援員 2 名

目標工賃達成指導員 1 名 看護師（嘱託）1 名 医師（嘱託）1 名

地域活動支援センター事業 型 (「BakeryCoCo」併設型)

Café CoCo

1 登録利用者数

登録者数：130名(令和2年3月末)

2 開所状況

開所時間：9:30～18:00

開所日数：年間延べ 252日

火曜日から土曜日を開所とし、日・月曜日・祝日を休みとする。日・月曜日・祝日に行事等がある場合は開所とする。

3 日中活動について

サンドイッチ教室

月1回開催し、旬の食材、アトリエ CoCo にて収穫した食材、四季の行事に合わせた食材で実施することが出来た。

地活に登録し初めて活動へ参加する方には、最初にサンドイッチ教室を紹介し、CafeCoCo の雰囲気を知ってもらえるように工夫をし、初めてでも参加しやすいようにしている。

CoCo 健康部

季節に流行る病気のこと、タイムリーなテーマを選び健康について講義や話し合いをする。クイズ形式にしたり、自分で考える時間を設けたり進行方法も変えて実施するなど興味を持てるように工夫して開催することが出来た。

話の終わりには、毎回ぬりえの時間を設けているが、定着することができ、また皆で話をしながら、交流を深める時間になっている。

第1回「健康作りについて できることやってみよう」 第2回「疲れとは」 第3回「夏バテを防ぎ元気に夏を乗り切る」 第4回「健康部の復習」 第5回「猫背を治そう 涙のお話」 第6回「感染症に注意」

開催イベントの一部

4月：マジックショー・お花見会(長野市)

5月：カラオケ・健康部・運動部

6月：びんずる市散策・マジックショー見学

7月：外食ディナー・運動部・健康部

8月：善光寺門前ぶらり・夏祭り(長野市)・外出ディナー

9月：カラオケ・弾き語りライブ・健康部

10月：水野美術館・収穫祭・善光寺おやき

11月：手作り教室・弾き語りライブ・カラオケ

12月：サザエさん展・望年会

1月：健康部(書初め)・アイシングクッキー作り

2月：冬の祭典・カラオケ・手作り教室

3月：手作り教室

(カラオケ、弾き語りライブについては新型コロナウイルスを考慮し中止)

各手作り教室

講師の方（ボランティアの方含む）より、アイシングクッキー作りや、フェルトを使ったぬいぐるみ作り等、教えていただきながら利用者が個性を出しながら取り組める活動ができた。日常、一人では手先を使う活動はなかなかできない方も多いので、趣味や活動を広げる機会となっている。男性参加者も多数である。

CoCo 運動部

冬季の陽が短い期間を除き、月1回ホワイトリンクにて運動の機会を作る。毎回5～10名程度の参加がある。（療育手帳等の提示にて無料利用可）

食事会等

外食についての希望があり、ランチの時間帯をメインに徒歩にて近隣の店へ出かけている。友人とともに食事をする、という機会を作ることが困難な方が多いため、楽しみに参加して下さっている。

4 作業体験について

働く上での基本的なマナーやルールについての学び、身だしなみを整え決まった時間に合わせ行動する、といったことなどの経験ができ、その後の活動について広がりをもたらすことができている。

働くことについて前向きになってきた方や、働くことがどんなことかということを経験したいといったような方から体験希望があり、社会復帰を目指す方にとっての機会となっている。（働いた経験のある方、体調が不安定のため就労支援事業所へも結びつかない方などもある）

5 相談支援について

相談内容

求職や福祉事業所への通所希望の方もおり、相談内容から本人の思いや希望を整理することにより、自身で考えをまとめ一歩進めることができるよう支援している。状況に応じ関係機関と連携をし、状況確認等を行っている。

新規にて相談に来所される方は、法人内の相談事業所、各関係機関、地活利用者からの紹介、地活通信を見て等により、来所されている。

働いている障がいのある方への相談支援として、メンタルヘルスを行った。

ご家族と連携することも多々あり、その都度必要に応じて対応している。（連携により入院へ至ったケースもあり、さらにご家族との連携の必要性を感じている）

ピアカウンセリング

精神手帳・男性・就職して3年未満か就活中の利用者4名で3回のピアカウンセリングを実施した。自分の体験・思いを話す場になり、次回に向けての希望もあり、さらに継続的に開催できるようにしていきたい。

第1回「働くを考えよう」第2回「最近の自分」

6 保健衛生について

食品を扱うため、身だしなみや衛生管理の指導、手洗いうがいの励行、感染症予防として情報提供、食品手袋の使用、アルコール除菌等の衛生管理を行っている。

インフルエンザや感染症などの対応について、認識ができるように支援を行っている。

情報の共有として、チラシやポスターでの共有を行っている。

7 家族との協働

ご家族の様々な想いに寄り添い、利用者さん自身をサポートできるように協力し合いながら支援を行っている。

ご家族自身が理解することの難しい場面もあり、ご家族へのサポートも必要である。

8 地域との協働

近隣の福祉事業所からの依頼があり、イベントへの協力をさせていただいている。

見学や体験など随時行い、介護関係の研修の一環として協力することができた。

パンフレットやチラシの掲示や配布をし、地域の方への情報提供を行う。

若里地区の活動や商工会等へ積極的に参加、協力をさせていただいた。

9 職員研修について

障がい者の権利擁護、虐待防止に関する研修の受講をした。

長野市障害ふくしネットや外部で開催される研修へ参加した。

相談支援事業の研修に参加、法人内・事業所内での研修へ参加した。

10 その他

危機管理の面から、防犯カメラの設置をしており、利用者さんや職員の安心安全を守ることはもちろんのこと、ご近所の方にとっての安心へもつながっている。

11 職員体制について

管理者 1 名 支援員 1 名 看護師（嘱託） 1 名 医師（嘱託） 1 名

指定相談支援事業

1 実施事業

相談支援事業については、利用者の日中活動先別に、法人利用者 1 名、他法人利用者 3 名の計 4 名の計画相談を受けている。

生活状況の把握や通所事業所等との関係調整を主にケア会議の実施、その都度必要に応じて関係機関やご家族と連絡等を含め実施している。

2 実績（計画相談作成）

○サービス等利用計画作成数は、1 1 月 1 件、1 2 月 2 件の計 3 件

○モニタリング報告数は、5 月 1 件である。

第2種社会福祉事業 障がい福祉サービス事業
多機能型障がい福祉サービス事業所

スタジオCoCo

スタジオ CoCo は平成27年4月に開所させていただき、5年が経過しました。豊かな自然の中で、利用者・職員と一緒に元気に歩んでいます。昨年は10月に台風19号による床上浸水の被害を受けました。様々なご支援・ご心配をいただきありがとうございました。避難訓練を行い、水害時対応マニュアルは作成していましたが10月11日・12日は、情報分析と判断の難しさを痛感しました。大きな災害に至らずに済んで良かったと思っております。

また、昨年12月には一般社団法人日本リネンサプライ協会による審査を受け、衛生基準の認定工場として登録されました。新型コロナウイルスの影響が世界的に拡大していますが、感染予防とともに信頼される品質のリネン品を提供してゆきたいと思えます。

令和元年度のリネンサプライ事業は概ね順調に推移し、売上げは水害が発生した10月と新型コロナウイルスより外出自粛が求められた3月を除き増収となり前年度比+8,3%となりました。障害福祉サービス事業収入は前年比+10,1%で令和元年度の総収入は4億2823万円となり平成30年度より3680万円増(+9,4%)となりました。

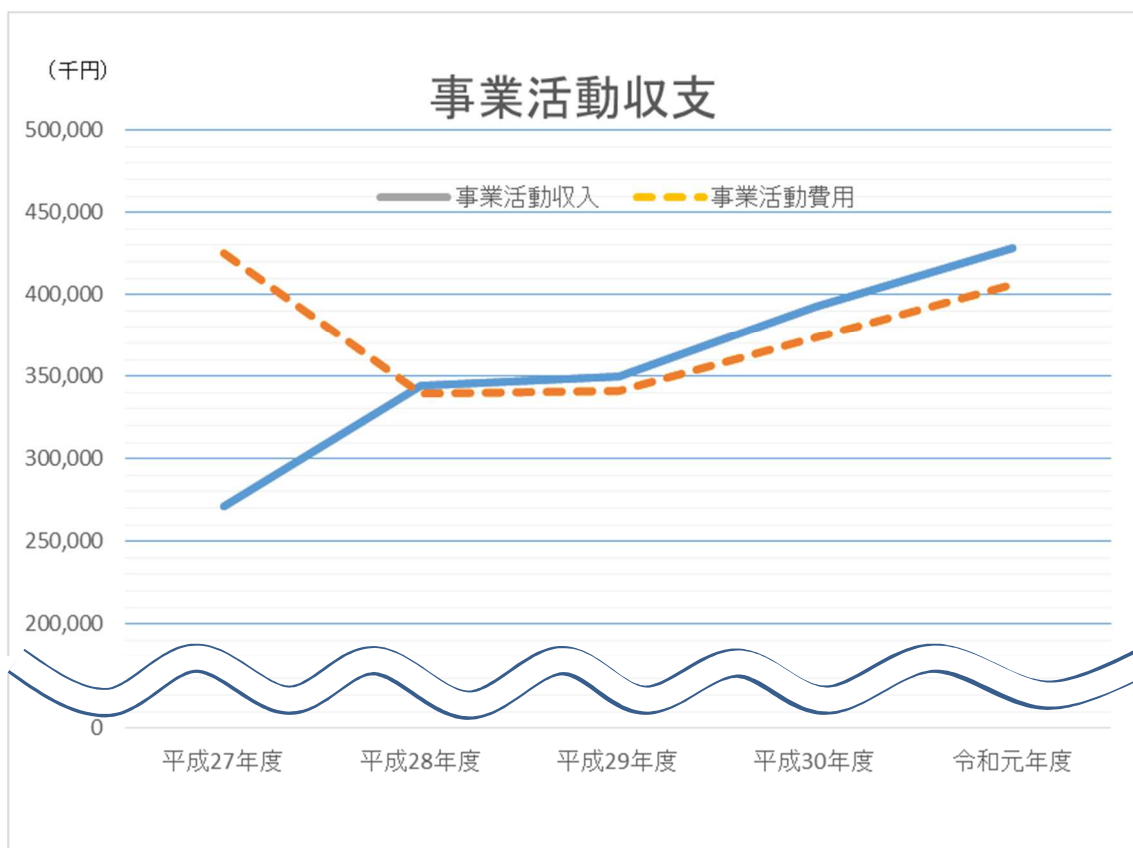
支出面では6月の油圧脱水機入れ替えによる効率アップ、ガス価格の値下がり等により人件費・燃料費・光熱費等が減少しました。反面、受注増により外注費が、客先のアイテム変更が重なったことにより材料費が増加しました。総支出額は5,7%の増加となりました。

年度末での利用者人数はA型12人(定数14人)、B型11人(定数10人)、就労移行2人(定数10人)、生活介護5人(定数6人)となっております。定員の確保を目指すとともに、労災・交通事故・感染症の罹患者ゼロを目標に進んでゆきたいと思えます。

収入・費用の年度間比較

	就労支援事業収入	福祉サービス事業収入	事業活動収入計	事業活動費用計
27年度	247,362	22,517	271,552	425,095
28年度	298,636	34,406	343,897	339,220
増減率	+20.7%	+52.8%	+26.6%	-20.2%
29年度	303,973	38,355	349,699	341,394
増減率	+1.8%	+11.1%	+1.7%	+0.6%
30年度	336,107	48,996	392,225	373,182
増減率	+10.6%	+27.7%	+12.1%	+9.3%
元年度	363,946	53,948	428,228	406,091
増減率	+8.3%	+10.1%	+9.2%	+8.8%

単位：千円 増減率は前年度比



事業の開始

平成 27 年 4 月 1 日 開所

平成 27 年 6 月 1 日 リネンサプライ・工場の本格稼働開始

利用者数の推移

就労継続支援 A 型事業

定員 14 名

年月日	移動状況等	在籍者数
平成 31 年 4 月 1 日		12 名
令和 2 年 3 月 31 日		12 名

就労継続支援 B 型事業

定員 10 名

年月日	移動状況等	在籍者数
平成 31 年 4 月 1 日	就労移行支援事業より 1 名異動 3 名入所	11 名
4 月 11 日	1 名退所	10 名
6 月 1 日	就労移行支援事業より 1 名異動	11 名
7 月 30 日	1 名退所	10 名
令和 2 年 3 月 16 日	1 名入所	11 名

就労移行支援事業

定員 10 名

年月日	移動状況等	在籍者数
平成 31 年 4 月 1 日	1 名入所	2 名
令和 2 年 3 月 31 日		2 名

生活介護事業

定員 6 名

年月日	移動状況等	在籍者数
平成 31 年 4 月 1 日		6 名
4 月 30 日	1 名退所	5 名
令和 2 年 3 月 31 日		5 名

就労継続支援 A 型事業

1 利用者の内訳

出身市町別 長野市 1 名 千曲市 7 名 上田市 2 名 坂城町 2 名
 性別 男性 9 名 女性 3 名
 平均年齢 27 歳 (21~38 歳 / 20 代...9 名 30 代...3 名)
 障がい種別 知的障がい 療育手帳 A1...1 名 B1...3 名 B2...6 名
 精神障がい 精神障がい者保健福祉手帳 1 級...1 名 3 級...1 名

2 通勤方法

- (1) 送迎バス利用 しなの鉄道戸倉駅と事業所間 5 名
 (うち 1 名は CoCo ホーム千曲より通勤)
- (2) 徒歩及び自転車 1 名 (うち 1 名は CoCo ホーム三本木より通勤)
- (3) 自家用車 (本人運転による) 4 名
- (4) 自家用車 (家族の運転による) 1 名
- (5) 50CC バイク 1 名

* 戸倉駅から事業所間の送迎はマイクロバスを利用している。

3 勤務体制

始業時刻 8:40 終業時刻 17:10

休憩 昼休み (50 分) 15 時休み (20 分)

実労働時間 7 時間 20 分

年間休日 90 日

- ・繁忙期及び納期の変更等のため、1 年単位の变形労働時間制で運営をしている。原則として木曜日・日曜日は休みとした。希望者は残業も行っている。
- ・「就労継続支援 A 型労働者 就業規則」に準じた運営を行っている。

4 通所状況

通所率

H31.4	R 1.5	R 1.6	R 1.7	R 1.8	R 1.9
99.2%	96.4%	96.8%	97.2%	97.0%	95.1%

R 1.10	R 1.11	R 1.12	R 2.1	R 2.2	R 2.3	平均
95.8%	97.3%	96.0%	95.1%	94.0%	97.3%	96.5%

安定した通所状況で昨年より2%の増加となった。

5 利用者の給与

給与は、労働実態に合わせ労働基準監督署の承認を得て決定している。最低賃金を確保できるよう努力しているが、最低賃金の減額特例を受けている方は、10名いる。通勤費は全額支給、有給休暇付与、社会保険・労働保険全員加入。

年収の状況

800,000円～1,000,000円	2名
1,000,001円～1,300,000円	3名
1,300,001円～1,400,000円	3名
1,400,001円～1,500,000円	1名
1,500,001円～1,600,000円	1名
1,600,001円～1,700,000円	2名

平均年収 1,316,684円

月額平均 109,724円

計12名

障害基礎年金受給	2級	9名	年間780,100円
	1級	1名	年間975,125円

6 個別支援計画について

通所する利用者一人ひとりの願いに沿った計画を立て日々の支援を行った。計画を立てるにあたりご本人、ご家族との面談や関係機関とのケア会議を経て、アセスメントを行い「就労継続支援A型計画」を立てる。また6ヶ月ごとのモニタリングを行い、見直しを行った。

7 利用者の作業内容

洗い場	2名	ホーフロール	4名	シーツロール	4名
浴衣ロール	1名	タオルたたみ	1名		

A型利用者は洗い場、仕上げロールでの作業を主としている。中には体力等に応じ軽作業のタオルたたみを担う方もいる。

8 生産活動

取り扱い業務	ホテル・旅館寝具等のクリーニング
	シーツ 掛けカバー 枕カバー クロス類 ナプキン類
	浴衣 ガウン タオル類 一般クリーニングの取次ぎ
	布団リース

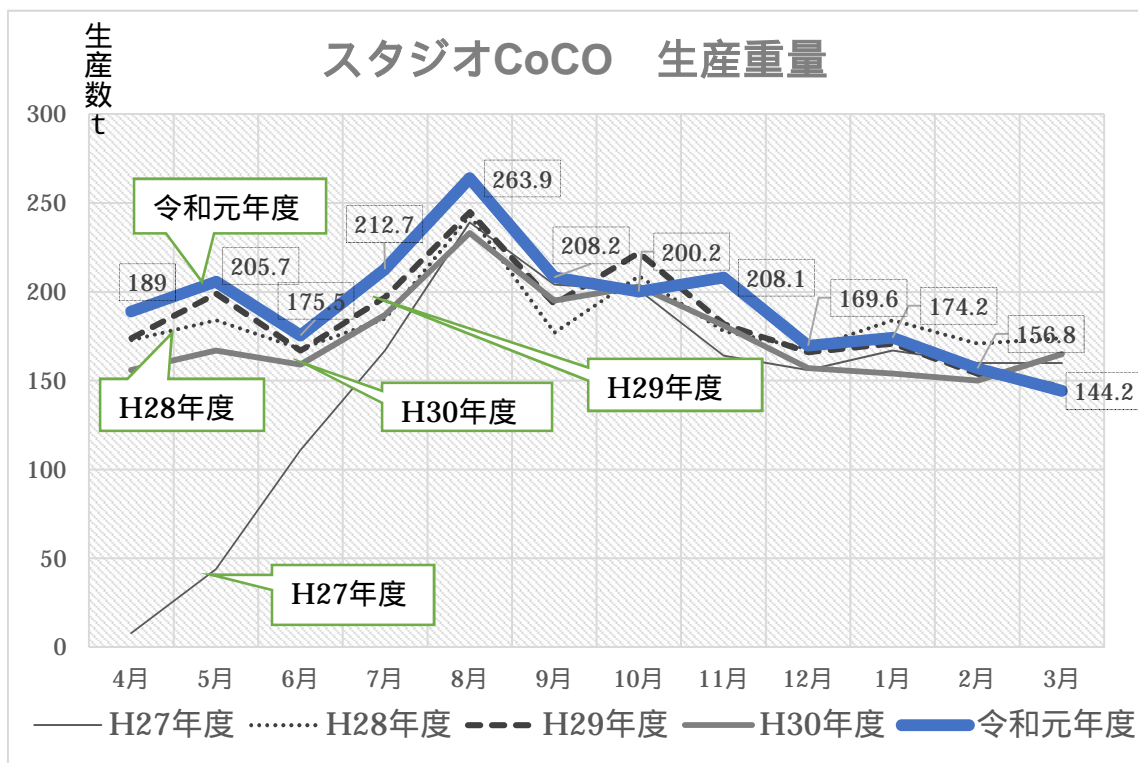
生産状況

令和元年度は年間を通して軽井沢方面の稼働が高かった。10月に水害があったが、それ以降はボランティアが長野市内のホテルに宿泊し稼働が上がった。

令和2年3月は新型コロナウイルスの影響で全体的に落ち込んだ。年間の生産重量は2,283t(前年比+9.4%)となった。油圧脱水機を入れ換えさせていただいたため効率は上がった

増減は前年度比(単位:千円)

年度	27年度	28年度	増減率	29年度	増減率	30年度	増減率	令和元年	増減率
就労支援事業収入	247,362	298,636	+20.7%	303,973	+1.8%	336,107	+10.6%	363,946	+8.3%



〇月別生産重量

(単位: t)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H27年度	8	44	111	167	239	204	201	164	156	167	160	160	1,781
H28年度	173	184	168	185	243	177	209	178	168	184	171	174	2,214
H29年度	174	199	167	197	245	193	222	182	166	171	154	147	2,217
H30年度	156	167	159	187	233	195	203	181	157	154	150	165	2,107
R1年度	189	206	175	213	264	208	200	208	170	174	157	144	2,308

9 配送業務

- ・配送担当職員：3名 一部外注にて配送業務を行っている。
スタジオ CoCo で仕上げをしているリネン品の納品回収を主な業務としている。
- ・事業所所有車：7台
4tトラック2台 2tトラック2台 ハイエース3台
- ・担当エリア
長野市内2名 上田市内1名 千曲・篠ノ井方面1名 斑尾・上越方面1名

10 健康管理

(1) 日々の配慮

- ・朝会時の健康観察と声掛け
- ・作業時の巡回指導と担当職員からの直接指導
- ・特定指導・相談
- ・新型コロナウイルス感染症・インフルエンザ等予防のための「手洗い・うがい・消毒・マスクの着用」の徹底。声掛けの常時実施
- ・熱中症、脱水症状の注意喚起と水分・塩分補給等の声掛け（夏場は保冷剤の支給、定時の水分・塩飴等の補給を実施）

(2) 健康相談

日 時：月1回 基本的に第2火曜日 13:00～15:00

場 所：医務室

内 容：体重測定・血圧測定・面談による健康相談

状 況

日	人数	日	人数
4月9日(火)	8名	10月8日(火)	10名
5月17日(火)	10名	12月10日(火)	10名
6月28日(火)	13名	1月17日(金)	10名
8月20日(火)	15名(+職員1名)	2月18日(火)	全員体重・血圧測定等
9月10日(火)	10名		

*令和2年3月度の健康相談は新型コロナウイルス感染予防のため中止した。

安里副院長には健康状態等をお伝えし対応の必要な方に関して指導をいただいた。

まとめ

- ・日常的な相談が多い。ご自分のことはもとより、ご家族の病気や変化によりご自身が悩みを抱えたり不調となる場合もあり、そのようなことも聞いていただき対処方法や安心感を得ていたように感じる。
- ・年度始めは新規の入所者の健康状態の確認や傾聴に時間を多めにとった。服薬管理に関しても確認を実施している。利用者の方は30人中16人に毎日服薬がある。
- ・毎回体重測定、血圧測定を合わせて実施している。体重の増減等に対し運動の必要性や食生活の改善・飲酒等について指導していただくことが多かった。

- ・生活介護サービスには看護師を配置するといった要件がある。不調を感じにくい、ご自分から言葉を発することが困難、あるいは表現が苦手といった方も多いため、毎回生活介護サービス利用者全員を健康相談の対象とし、副院長には生活介護棟を訪問していただき、その場にて状況の把握をしていただいた。慣れた場所での対応となり落ちついて行えた。
- ・かかりつけ医を定期受診されている方には受診の様子をうかがい必要に応じて作業上や生活の注意点等のアドバイスを行った。腰痛や足の痛み、むくみの相談あり。通院、服薬をしている利用者の必要な情報等を副院長にお伝えし把握をしていただいている。
- ・みなさんが、作業とは異なり落ち着いた雰囲気の中で安心をして自分の思いや、身体状況を相談することができている。事業所としても対応方法等助言をいただき大変に助かっている。

(3) 健康診断

全日本労働福祉協会による健康診断 49名(利用者29名/職員20名)

日時：令和元年10月2日(水)15:00~16:45

実施機関：(財)全日本労働福祉協会

実施内容：身長・体重測定・血圧測定・尿検査・視力検査・聴力検査・血液検査・胸部レントゲン、心電図・医師による問診

まとめ

- ・院長、副院長に診断結果を確認いただき、健康相談につなげていただいた。合わせて、就業制限の部分について重労働可否についてご教示をいただいたため対象者に対して対応させていただいた。
- ・結果に「要精検」と出た方には、通知を出し医療機関への通院をすすめた。また、健康相談時にも状況把握、対応等助言をいただいた。

安里院長による健康診断

令和2年3月に予定をしていたが新型コロナウイルス感染防止のため中止をした。

インフルエンザ予防接種 35名

日時：令和元年11月2日(土)13:30

まとめ

- ・予防接種を行うことで、インフルエンザ、風邪に対する予防意識が高まった。当日接種できなかった方は、安里医院やかかりつけ医で接種をした。アレルギーで接種できない方もいる。今期、インフルエンザ感染者はいなかった。
- ・事業所で予防接種を実施していただけるため、受けやすい。本人、職員もだご家族からもこのような声がある。
- ・毎年高齢者の予防接種についての事務手続きが変更、あるいは市町により対応が異なるが安里医院との情報共有によりスムーズに行えている。
- ・今年度は、インフルエンザをはじめ新型コロナウイルス感染症予防もあり、安全衛生委員会を中心に、保健・給食・清掃といった各係、そして個人でも対策を講じた。「手洗い・うがい・消毒・マスク」を基本に常に朝会にて予防を訴えた。トイレ、洗面所での石鹸による手洗い

と消毒の徹底。正しいうがい方法の指導。通所時のうがいの徹底。1日のうち2~3回手すり・作業台・台車等のアルコール消毒。朝会でのマスクの着用。乾燥防止。掲示物による呼びかけ。家庭内での感染防止等、様々な対策を行った。

(4) その他

令和元年10月の台風19号による床上浸水

- ・事業所内の汚泥の処理・廃棄物の処理を行った。日々の清掃・消毒の際、粉塵が目や口に入らないようマスク、手袋等で防護対策を行った。
- ・自宅が浸水した方や台風被害により交通手段がこれまでと変わってしまった方の精神的ストレスに対し話しを聴く。具体的に代替の通所方法を講じる。等の対応をした。

新型コロナウイルス感染症対策

- ・2月後半から感染症対策として家庭・事業所での検温。次亜塩素酸水のミストによる消毒、泡ハンドソープによる手洗い・うがい・アルコールによる手指消毒・健康チェック表を用いた体調管理の実施。食事は並列で隣の人との間隔をあけてのテーブル配置。個人の調味料の選択を止め厨房担当者から直接提供。ほか、三密を避けること、不要不急の外出を避けること。等日々全体および個人に訴えている。継続中。

(5) 健康講話

令和2年3月に予定をしていたが新型コロナウイルス感染防止のため中止をした。

(6) その他 利用者の状況

既往症等 ・糖尿病1名・食物アレルギー2名・メニエール氏病1名・てんかん4名
通所状況等

- ・通所率は良い。繁忙期等メニエールの方は定期的に休みをいれることで突発的な休みがない。
- ・生活介護は9:00~15:00/16:00。他の事業は8:40~17:10が開所時間。とはいえB型・移行・生活介護事業の方の中には精神面を考慮し14:00・15:00終了の方や週に4日午前中のみの方等もいる。個々の状況に応じている。
- ・B型事業利用者の中には、定刻の休憩以外にご自身の精神面と体力面を考慮して支援者と相談のうえ独自に午前・午後と各10分~20分程度休憩・静養される方がいる。生活介護利用の方の中にも、作業後「疲れた」と訴え1時間近く静養を希望される方や、昼食後決まって静養をされる方がいる。都度、体調の確認を行うが、特に具合が悪いわけではなくご本人の決められた日課としての静養となっている。
- ・最近ではアスペルガー症候群やADHD、自閉症といった発達障害の方々、また精神障がい者のご利用や希望者も増えてきている。集団の中での作業や、立ち仕事が苦手な方もいる。日課にそって活動ができない方も見られる。個々の障がい特性、個性等に応じ個別の対応を必要とする場面が増えていると感じる。

熱中症対策

令和元年の猛暑に対し事業所として様々な熱中症対策を行った。水分補給については始業前と午前・午後各1回ずつの給水タイムを設けた。いずれも、作業部署を一旦れる形態とし、午前中は食堂の涼しい場所にて塩分補給を兼ね野菜の浅漬けと麦茶で休憩をした。

午後は工場内の作業部署から離れた場所にて給水をした。他、1日2回保冷剤の支給。
A型利用者の繁忙期中の公休設定。等々を行った。

11 安全・衛生管理

スタジオ CoCo 安全衛生方針

当事業所は、従業員の安全を第一に考え運営をしていきます。また、従業員も安全衛生意識を向上させるため朝礼・会議などで情報交換を行いOJTで危険箇所周知・不安全作業防止について確認をしています。労災事故が起こらないように安全衛生上の提案を積極的に行う風土をつくりあげていきます。

スタジオ CoCo 令和元年度安全衛生目標

労働災害 0

決まった作業手順を必ず守る。

相互の安全確保のため、大きな声での掛け声と合図を徹底する。

(1) 安全衛生委員会の開催

月1回安全衛生委員会を開催している。労働災害に関する知識を深めるとともに、危険予知トレーニング【KYT】をしながら工場を巡回している。危険箇所があった場合にはその場で改善するか、改善案を出すようにしている。「不安全な行動」、「不安全な状態」をお互いにチェックしている。

日時	内容
平成31年 4月9日(火)	・危険予知トレーニング(KYT)の実施 ・工場内を巡回し、各部署の危険箇所の指摘、確認を行う
令和元年 5月10日(金)	・4月に入職した職員に対し、各部署職員による危険箇所、状態、行動等についての説明を行う ・過去に起きた労働災害についての説明指導を実施
6月4日(火)	・「リネンサプライ業に係る洗濯施設及び設備に関する衛生基準認定制度」の衛生基準に関し資料7ページ分の読みあわせを行う
7月10日(水)	・衛生基準勉強会 「未洗濯」と「洗濯済み」の区分、隔壁、汚染作業区域、清潔作業区域、指定洗濯物、清掃、消毒等について
8月6日(火)	・新入職員に対し、危険箇所、危険行為の理解度の確認を行う ・工場内の危険箇所の確認
10月9日(金)	・10月の安全衛生宣言の確認 危険箇所の再確認、「かもしれない」という危険意識を持つ、衛生管理に気を配る等の確認を行う ・衛生管理マニュアルの確認
11月5日(火)	・浸水後の清掃・消毒に関して
12月4日(金)	・工場内各部署の衛生管理についての確認を行う

	整理・整頓・清掃 風邪（インフルエンザ）の予防について
令和2年 2月18日（火）	・今年度のひやり・はつとに関して、部署ごとの報告を行う ・工場内のKYTの確認
3月3日（火）	・新型コロナウイルス感染対策に関して周知と徹底を行う。 ジアリフレ・エタノールによる消毒・換気・健康管理・咳エチケットの厳守・昼食時の感染注意等々具体的な対策をとることを確認。

（2）安全管理

《事業所・工場》

- ・労働安全衛生手帳（日本リネンサプライ協会発行、全49ページ）の読み合せを平成27年12月11日以降毎日朝礼の中で行っている。気を付けなければならない事を説明し、注意を喚起し、安全意識の向上に努めている。
- ・停止スイッチの作動確認を現場作業者が毎朝行っている。（平成27年12月より）異常があった場合には工場長または洗い場担当者に報告し安全確認を実施している。その他の異常（異音・異臭・蒸気漏れ・エア漏れ）も部署ごとで確認をしている。
- ・朝礼にてヒヤリハットの情報を発表してもらい、対策につなげている。
- ・毎月スタジオ CoCo における安全衛生の重点項目を決めて「今月の安全作業宣言」を掲示している。朝礼で趣旨を理解してもらい事故防止を呼び掛けている。
- ・毎日12:00～12:10の時間で部署ごとに清掃を行っている。当番でトイレ・玄関・廊下・食堂を清掃し、他の人は職場周りの清掃を行っている。
- ・玄関・トイレ・事務所・食堂・工場の出入り口ドア等の取っ手、ノブ、電気のスイッチ等をエタノール系消毒液で拭いて感染症の対策をしている。平成30年度からは、工場内の洗濯後の清潔物を扱う台車、作業台等も消毒液を用いて拭いている。
- ・令和元年10月12日の水害以来、衛生向上の為スチールラックを増す等により物品の床への直置きをなくした。また、食堂の机・椅子・床を毎日消毒するようにした。
- ・令和元年11月より手指の消毒のため、エタノールスプレー容器を食堂入り口に2ヶ設置した。
- ・令和元年12月より、手洗い場の固形石鹸が細菌の繁殖の危険があるため、泡ハンドソープに切り替えた。手洗いの大切さを朝会等で啓蒙し続けている。
- ・令和2年1月よりマスクを必ずつけることにした。
- ・令和2年2月より新型コロナウイルス感染拡大防止のため、朝出所時や訪問者の入所時に検温を行う 入所前に次亜塩素酸水を噴霧した状態のクリーンルームで3分間待機した後、入所をしてもらう 密な状態を避ける 等の対策をとっている。

《交通・車両》

- ・トラックの後方に関するヒヤリ・ハットが多かったため、バックモニターを全車両に取り付けた。
- ・危険運転があった場合ドライブレコーダーで確認。注意を促す。

(3) 防災訓練

令和元年度は防災訓練を3回実施した。

令和元年10月1日(火)

- ・火災避難誘導訓練
- ・通報訓練
- ・消火訓練

洗い場からの出火を想定して訓練を行った。避難誘導、消火器使い方等は特に問題なし。火災通報専用電話通報できなかったため、一般固定電話で119番通報を行った。訓練終了後、配電盤下の配線を動かしてみたら通報専用電話が使えるようになった。接触思われるが箇所は特定出来なかった。

②令和2年3月11日(水)

- ・水防避難訓練 上山田小学校へ徒歩往復1,7km

令和元年10月12日浸水時の状況説明(浸水経路・水深等)

用水路は危険箇所。増水すると誤って落ち行方不明になる可能性あり。

台風19号並の降水量が2日続くとハザードマップではスタジオは2~6mの浸水。

家庭でも日頃からどこに逃げるか決めておく必要がある。

令和2年3月25日(水)

- ・避難誘導訓練
- ・通報訓練
- ・消火訓練

ボイラー室からの出火を想定。避難誘導は問題なし。通報専用電話不通のため固定電話で119番通報を行う。

後日、NTTに修理依頼。破損していた電話線引き込み部を修理。

12 委託給食

常時利用者 8名

昼食数 平成31年4月~令和2年3月 269日

利用数 2,085食

検食日誌の記録

利用者の希望・意見収集(都度確認)

利用者の食物アレルギーの調査

希望メニューの実施

給食検討会の実施(キッチン CoCo・栄養士・調理師・工場長・給食担当)

13 QOL活動の実施状況

諸行事の実施及び参加

千曲・坂城自立支援協議会さんさんネットの行事实施及び参加

スタジオ CoCo での事業及び行事の実施

季節に応じた行事「クリスマス会」「鏡開き」「節分」等

今年度は令和元年10月の台風19号による浸水被害、また令和2年の新型コロナウイルスの

感染拡大防止のため「旅行」をはじめ通年実施している諸行事等を中止、あるいは縮小する形となった。

月	日	曜日	内容	備考	利用者	他
4	1	月	入所式	法人（アトリエにて）	1名	2名
	14	日	アトリエお花見会	アトリエ	8名	5名
6	16	日	チーム対抗スポーツ大会	サンアップル	5名	3名
	29	土	ごちゃまぜパーティー	さんさんネット企画	3名	1名
7	7	日	文化芸能発表会	サンアップル	6名	3名
	21	土	ながのアビリンピック	高齢障害求職者雇用支援機構	1名	2名
9	9	日	障がい者スポーツ大会	長野県 松本市	4名	2名
10	27	日	フードライブ	ライオンズクラブ	5名	3名
11	17	日	バレーボールVリーグ観戦	バレーボールVリーグ	2名	2名
12	25	水	クリスマス会	スタジオイベント係	全員	
1	10	金	鏡開き	スタジオイベント係	全員	
2	3	月	節分	スタジオイベント係	全員	
3	19	木	台風19号災害復興支援贈呈式	ライオンズクラブ国際協会	1名	2名

*令和元年7月に実施した第45回ながのアビリンピック クリーニング部門には1名の利用者が出場し銀賞を獲得した。

*令和元年10月の台風19号による被災に対しライオンズクラブ国際協会334-E地区より復興支援をいただいた。

14 CoCo 家族会ちくま

運営の補佐を行った。

総会 令和1年6月15日（土）クリーニング工房 CoCo 食堂

総会出席者 会員11名 職員2名

講演「職場環境の改善」

講師 社会福祉法人 廣望会

常務理事 綿貫 好子 氏

家族レク 台風19号の浸水被害のため災害対応を優先とし中止

（実施計画：令和元年10月27日（日）家族で楽しむスポーツレクリエーション）

家族のつどい 新型コロナウイルス感染防止のため中止

（実施計画：令和2年2月23日（日） ホテル圓山荘（千曲市））

役員会 年3回開催予定のところ 1回開催

15 地域への開放状況

千曲市及び周辺市町

- ・三本木地区のお祭りに寄付をし、協力した。
- ・地域の常会への寄付、清掃活動等へ参加をした。

・千曲・坂城地域自立支援協議会

全体会 事業所連絡部会 就労部会 さんさんネット部会 に参加

現場実習の受入れ

稲荷山養護学校（本校） 更科分教室、基幹相談支援センター等の関係支援機関からの体験実習や、他の就労移行支援事業所から A 型での就職をめざしての実習の受け入れを行った。

施設研修のための見学受入れ（学校、PTA、民生児童委員協議会、県内外の施設、手をつなぐ育成会、企業等）

- ・令和元年度は入所希望もしくは入所を考えたい障がい者の方 13 名の見学あり。
- ・実習、見学に際しては隣接する地域生活支援センターCoCo 千曲/CoCo ホーム三本木の紹介もさせていただき希望に応じて見学を合わせて行っている。
- ・今年度は台風 19 号の被害および新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、予定をしていた養護学校高等部の生徒複数名の実習受け入れを中止せざるを得ない状況となった。また、見学希望の方の受け入れも中止・延期とした。

16 職員研修について

- ・毎朝の打ち合わせ会、職員会議（全体で月 1 回）生産会議（月 1 回）支援会議（おおよそ月 1 回）を行い、ヒヤリハットをはじめ日常の気づきを共有し、より良い生産活動、事業運営が行えるよう努めた。
- ・毎朝全員で「安全衛生手帳」の読み合わせを行い工場内における危機管理・安全管理と工場運営について学び、確認を行った。
- ・安全衛生委員会においてリネンサプライのみではなく、感染症、防災等多岐にわたる話題や課題について学び合い、毎月の安全衛生宣言に反映させ事業所内で労働および活動をする全ての人に周知を行った。
- ・虐待権利擁護研修については法人の職員研修にて学んだ。
- ・クリーニング従事者講習、交通安全運転管理者講習、防火管理者講習に参加をした

主催・実施主体	内容	出席者
長野県知的障がい福祉協会関係	知障協施設長研修	1 名
	北信支部代表者会	1 名
千曲・坂城自立支援協議会関係	事業所連絡部会	1 名
	就労部会	2 名
	さん・さんネット部会	1 名
長野労働局/篠ノ井職安	就労パスポート研修	1 名
長野県警察	安全運転管理者講習	1 名
法人関係	法人職員研修会・総会	10 名

17 職員体制について

管理者 1 名（工場長兼務） サービス管理責任者 1 名

職業指導員 1 名 生活支援員 1 名 賃金向上達成指導員 1 名

事務員 医師（嘱託） 看護師（非常勤）

支援員と一緒に作業を進め、一人ひとりにあった作業の見極めを行うことや、面談等利用者に寄り添い支援計画の作成をした。

就労移行支援

1 利用者の内訳

出身市町別 千曲市 2名

性別 女性 2名

平均年齢 18.5歳(18～19歳/ 10代...2名)

障がい種別 知的障がい 療育手帳 B1...1名 B2...1名

2 作業訓練内容

事業運営日数 273日（基本的には木・日の週休2日制 他開所日は希望通所）

日 課 8:40～17:10 昼休み 50分 3時休み 20分

（基本的には本人希望と体調・体力等状況を見ながら、ご本人にとって無理のない状況で行っている。）

作業訓練内容 タオルのたたみ作業 タオル・ガウンの袋詰め作業

就職に向けて職場実習・求職活動を行う

状況

・工場内で就職に向けて作業をした。

・2名ともゆっくりではあるが確実に作業能力を高めてきた。うち1名は事業利用2年が終了する時点でまだ就職をして頑張っていく。というところに気持ちが追いつかず翌年は就労継続支援事業の利用となった。

3 利用者の通所方法

(1) 送迎バス利用 しのの鉄道戸倉駅と事業所間 2名

マイクロバスを利用している。

・事業所において通所費市町補助の申請をサポートしている。

4 通所状況

通所率

H31.4	R1.5	R1.6	R1.7	R1.8	R1.9
98.5%	87.0%	95.2%	93.8%	78.0%	88.1%

R1.10	R1.11	R1.12	R2.1	R2.2	R2.3	平均
93.2%	93.2%	91.3%	86.4%	100.0%	90.9%	91.3%

5 利用者の工賃支給

年・月	平均工賃額	年・月	平均工賃額
-----	-------	-----	-------

H31.4	19,500円	R1.10	17,450円
R1.5	18,667円	R1.11	17,500円
R1.6	17,000円	R1.12	24,400円
R1.7	23,650円	R2.1	16,050円
R1.8	16,600円	R2.2	17,850円
R1.9	15,525円	R2.3	21,575円
月額平均			18,814円

6 個別支援計画について

通所する利用者一人ひとりの願いに沿った計画を立て日々の支援を行った。計画を立てるにあたりご本人、ご家族との面談や関係機関とのケア会議を経て、アセスメントを行い「就労移行支援計画」を立てる。また3ヶ月ごとのモニタリングを行い、見直しを行った。

7 健康管理

就労継続支援 A 型事業及び就労継続支援 B 型事業及び生活介護事業と同様

8 安全衛生管理

就労継続支援 A 型事業及び就労継続支援 B 型事業及び生活介護事業と同様

9 委託給食

希望者には給食を提供（1食 250 円、令和 2 年 2 月 1 日より 260 円）

常時利用者 1 名（平成 31 年 4 月 1 日～令和元年 5 月 31 日）

昼食数 平成 31 年 4 月～令和元年 5 月 45 日

合計 44 食

検食日誌の記録

利用者の希望・意見収集（都度確認）

利用者の食物アレルギーの調査

希望メニューの実施

給食検討会の実施（キッチン CoCo・栄養士・調理師・工場長・給食担当）

10 QOL 活動・スタレクの実施状況

諸行事の実施及び参加

千曲・坂城自立支援協議会さんさんネットの行事実施及び参加

スタジオ CoCo での事業及び行事の実施

季節に応じた行事「クリスマス会」「鏡開き」「節分」等

今年度は 10 月の台風 19 号による浸水被害、また令和 2 年の新型コロナウイルスの感染拡大防止のため「旅行」をはじめ通年実施している諸行事等を中止、あるいは縮小する形となった。

月	日	曜日	内容	備考	利用者	他
4	1	月	入所式	法人（アトリエにて）	1 名	2 名
	14	日	アトリエお花見会	アトリエ	8 名	5 名
6	16	日	チーム対抗スポーツ大会	サンアップル	5 名	3 名

	29	土	ごちゃまぜパーティー	さんさんネット企画	3名	1名
7	7	日	文か芸能発表会	サンアップル	6名	3名
	21	土	ながのアピリンピック	高齢障害求職者雇用支援機構	1名	2名
9	9	日	障がい者スポーツ大会	長野県 松本市	4名	2名
10	27	日	フードライブ	ライオンズクラブ	5名	3名
11	17	日	バレーボールVリーグ観戦	バレーボールVリーグ	2名	2名
12	25	水	クリスマス会	スタジオイベント係	全員	
1	10	金	鏡開き	スタジオイベント係	全員	
2	3	月	節分	スタジオイベント係	全員	
3	19	木	台風19号災害復興支援贈呈式	ライオンズクラブ国際協会	1名	2名

* 7月に実施した第45回ながのアピリンピック クリーニング部門には1名の利用者が出場し銀賞を獲得した。

* 10月の台風19号による被災に対しライオンズクラブ国際協会 334-E 地区より復興支援をいただいた。

工場稼働日におけるレクリエーション等の実施

スポーツ・文化活動 外出他

月	日	曜日	内容	備考	利用者	他
4	16	火	お花見に行こう！	戸倉キティーパーク	11名	5名
5	29	水	マレットゴルフ	万葉の里スポーツエリア	9名	3名
6	18	火	夏の花を植えよう！	スタジオ駐車場	9名	4名
7	9	火	七夕飾りをつくろう！	スタジオ食堂	9名	13名
8	27	水	図書館へ行こう！	戸倉図書館	12名	3名
9	25	水	マレットゴルフ	万葉の里スポーツエリア	8名	3名
10	30	水	ハロウィン&ジェンガ	スタジオ食堂	6名	4名
11	19	水	音楽を楽しもう	スタジオ食堂	11名	7名
1	29	水	カフェ「みらいさん」へレッツゴー！	坂城町 みらいさん	11名	3名

* 令和2年2月のアグリパークへ行こう！の企画は新型コロナウイルスの感染防止のため中止した。

・6月にプランターに植えた日々草やサルビアは冬前まで花を咲かせ水やりなども行うことができた。屋内・外それぞれ季節に即した内容を心がけて行った。参加をされた方からは楽しいとの声が聞かれている。

・お花見やみらいさんへの外出にはマイクロバスを利用した。全員が同時に移動することが可能となりより安全、安心して実施することができた。

・音楽を楽しもう！は、音楽療法士にボランティアにきてもらい実施した。楽器を用いたり馴染みの曲を歌ったり楽しく和やかに行えた。

・スタ レクへの参加は自由選択とし、参加をされない方は生産活動を行った。

11 CoCo 家族会ちくま

就労継続支援 A 型事業及び就労継続支援 B 型事業及び生活介護事業と同様

12 地域への開放状況

就労継続支援 A 型事業及び就労継続支援 B 型事業及び生活介護事業と同様

13 職員研修について

就労継続支援 A 型事業及び就労継続支援 B 型事業及び生活介護事業と同様

14 職員体制について

管理者 1 名（工場長兼務） サービス管理責任者 1 名

職業指導員 1 名 生活支援員 1 名 就労支援員 1 名

事務員 医師（嘱託）看護師（非常勤）

支援員と一緒に作業を進め、一人ひとりにあった作業の見極めを行うことや、面談等利用者に寄り添う支援を行った。

就労継続支援 B 型

1 利用者の内訳

出身市町別	長野市 1 名 千曲市 6 名 上田市 2 名 坂城町 2 名
性別	男性 8 名 女性 3 名
平均年齢	39 歳（21～55 歳/20 代...3 名 30 代...2 名 40 代...4 名 50 代...2 名）
障がい種別	知的障がい 療育手帳 B1...6 名 B2...2 名 精神障がい 精神障がい者保健福祉手帳 2 級...2 名 身体障がい 身体障がい者手帳 3 級...1 名

2 通所方法

- (1) 送迎バス利用 しなの鉄道戸倉駅と事業所間 6 名
(うち 2 名は路線バスと併用、1 名は行きのみ路線バスを利用)
- (2) 自転車 2 名
- (3) 徒歩 1 名 (CoCo ホーム三本木より通所)
マイクロバスを利用している。
事業所において通所費市町補助の申請をサポートしている。

3 作業訓練内容

事業運営日数 270 日（基本的には木・日の週休 2 日制 他開所日は希望通所）

日 課 8:40～17:10 昼休み 50 分 3 時休み 20 分 ダンス等 QOL10 分程度
(精神面・体力面で継続しての作業が困難な方、既往症のある方等、体調管理や個別対応が必要な方が多いため相談をしてできるだけ本人の体力等に沿った日課を決めてご自分のペースで作業を行っている)

作業訓練内容 タオルたたみ ガウンたたみ作業 袋詰め作業 他
状 況

- ・令和元年度には利用者増となり開所 5 年目で定員を満たす状況となった。

- ・作業能力には差がある。タオルたたみを中心に得意なこと、不得意なことを見極めながら個別に応じた作業内容を見極めて作業の支援を行っている。
- ・対人面・人間関係で課題がある方が増えてきている。コミュニケーションのとりにくい方が増えており対応に苦慮することも多かった。
- ・通所をし始めた頃てんかん発作のため 精神科デイケア1日と併用の方は、経過がよく週3回午前だけの通所から週4日に増え、デイケアも終了した。
- ・全員が個々の体調に合わせて、ご家族やご本人と話し合いながら、全体の休憩時間のほかにも休憩を設定する等して日課を作り作業を進めている。
- ・生活介護と就労移行支援の仲間と一緒に1回月のスタレクを楽しみにして作業のモチベーションにしている利用者もいる。

4 通所状況

通所率

H31.4	R1.5	R1.6	R1.7	R1.8	R1.9
90.9%	81.3%	91.3%	91.7%	81.8%	87.3%

R1.10	R1.11	R1.12	R2.1	R2.2	R2.3	平均
85.0%	91.8%	83.5%	78.2%	91.0%	86.8%	86.7%

- ・個々の精神面等から通所状況は大きく異なる。体力精神面などから、週に4日のみの通所の方もいる。自由通所日に一部積極的に通所をされる方もいるが、比較的的自由通所日は欠席する方のほうが多い。したがって自由通所日となる祝日が多い月は通所率が低くなる。

5 利用者の工賃支給

年・月	平均工賃額	年・月	平均工賃額
H31.4	16,088円	R1.10	15,475円
R1.5	15,100円	R1.11	16,643円
R1.6	16,332円	R1.12	22,010円
R1.7	22,750円	R1.1	13,895円
R1.8	15,211円	R1.2	16,075円
R1.9	16,168円	R1.3	19,186円
		月額平均	17,078円

6 個別支援計画について

通所する利用者一人ひとりの願いに沿った計画を立て日々の支援を行った。計画を立てるにあたりご本人、ご家族との面談や関係機関とのケア会議を経て、アセスメントを行い「就労継続支援B型計画」を立てる。また6ヶ月ごとのモニタリングを行い、見直しを行った。

7 健康管理

就労継続支援A型事業及び就労移行支援事業及び生活介護事業と同様

8 安全衛生管理

就労継続支援A型事業及び就労移行支援事業及び生活介護事業と同様

9 給食の提供

希望者には給食を提供（1食 250円、令和2年2月1日から260円）

常時利用者 7名

昼食数 平成31年4月～令和2年3月 269日

合計 1,738食

検食日誌の記録

利用者の希望・意見収集（都度確認）

利用者の食物アレルギーの調査

希望メニューの実施

給食検討会の実施（キッチン CoCo・栄養士・調理師・工場長・給食担当）

10 QOL活動・スタレクの実施状況

就労移行支援事業及び生活介護事業と同様

11 CoCo 家族会ちくま

就労継続支援 A 型事業及び就労移行支援事業及び生活介護事業と同様

12 地域への開放状況

就労継続支援 A 型事業及び就労移行支援事業及び生活介護事業と同様

13 職員研修について

就労継続支援 A 型事業及び就労移行支援事業及び生活介護事業と同様

14 職員体制について

管理者 1名（工場長兼務） サービス管理責任者 1名 職業指導員 1名

生活支援員 1名 目標工賃達成指導員 1名 事務員 医師（嘱託） 看護師（非常勤）

生活介護事業

1 利用者の内訳

出身市町別 千曲市 5名

性別 男性 4名 女性 1名

平均年齢 25歳（21～36歳 / 20代 4名 30代...1名）

障がい種別 知的障がい 療育手帳 A1...3名 B1...2名

身体障がい 身体障がい者手帳 2級...1名（知的障がいと重複）

2 通所方法

自転車及び家族の送迎 5名

3 日課

9:00～9:30 通所

9:30～9:40 朝会、ラジオ体操

9:40～12:00 作業

12:00～12:10 清掃

- 12：10～13：00 休憩
- 13：00～15：00 作業、創作的活動
- 15：00～15：20 帰りもしくは休憩
- 15：20～15：50 ダンス・うた
- 15：50～16：00 帰りの会

4 通所状況

通所率

H31.4	R1.5	R1.6	R1.7	R1.8	R1.9
94.3%	84.3%	93.3%	92.2%	83.6%	87.6%

R1.10	R1.11	R1.12	R2.1	R2.2	R2.3	平均
80.9%	86.4%	87.3%	87.0%	83.8%	90.0%	87.6%

- ・週5回通所者3名、週4回通所者2名である。

体調不良が原因での欠席の方はほとんどなく、皆元気に安定して通所をされている。

5 利用者の工賃支給

年・月	平均工賃額	年・月	平均工賃額
H31.4	9,610円	R1.10	9,160円
R1.5	9,730円	R1.11	9,720円
R1.6	9,880円	R1.12	13,120円
R1.7	14,210円	R2.1	8,900円
R1.8	9,110円	R2.2	8,930円
R1.9	9,410円	R2.3	12,190円
		月額平均	10,331円

6 個別支援計画

通所する利用者一人ひとりの願いに沿った計画を立て日々の支援を行った。計画を立てるにあたりご本人、ご家族との面談や関係機関とのケア会議を経て、アセスメントを行い「生活介護計画」を立てる。また6ヶ月ごとのモニタリングを行い、見直しを行った。

7 生産活動

《クリーニング作業》

タオル・ダスターのたたみ作業

ガウン類・作務衣ズボン・ホテル館内着（ジャージ）のたたみ作業

バスローブのしわ伸ばし（たたむ前にしわを伸ばし形を整える）

ガウン類のボタン止め

洗濯物の移動・結束

ウエス作り

商品の納品回収・配達業務補助

《その他》

食堂清掃（全体の清掃時間のほかに行う）

食材運び補助・昼食前のテーブル拭き、トレイの準備補助など

事業所内のドアノブ等の消毒

《実施状況》

- ・生活介護事業利用者の作業は作業室と通称きらきら棟で行っている。
作業室ではタオル・ダスターたたみとガウンのたたみ作業を主としている。丁寧できれいな製品作りをすることができる。美容室のフェスタタオルを黙々と時間いっぱいたたむ方、午前と午後に自分で決めた枚数のみを毎日たたむ方、作業時間を決めてたたむ方と様々である。たたむ枚数やスピードも個々で異なる。全体の日課にあわせて作業時間を設けているが継続して行うことは難しい。気になることが他にもあるため同じ場に長くとどまることができない。そのため個人のペースを考慮しながら日課をくみだしている。
- ・ガウンやバスローブのたたみ作業、仕上げ作業は整形や過程が難しい。そのため、たたむ前にボタンをとめる、台車からおろして、しわにならないよう伸ばしておく。館内着を色別、上衣・下衣に仕分ける。といった前処理を行っている。以前は支援員の声かけで行っていたが、自分の仕事という思いからか品物が運ばれくると自分から作業にとりかかるようになった。
- ・きらきら棟で行うダスターのたたみ作業とウエス作りは、本人の体調等をみながら行っている。個別に午前に2~3回、午後に2回ほど本人のペースに合った枚数で行っている。タイマーや枚数を表示するカード、日課表、声かけ等を行いながら行っている。時々不安定になり自傷行為のある方もいるが、日々送迎時や連絡ノートにて家族と連絡をとりあい共有しながら支援をすすめている。
- ・クリーニング品の配達業務 坂城町移住体験者住宅へのリース布団類の納品回収、企業へウエスの納品等を支援員とともにいった。あいさつや品物の扱いについて事前にレクチャーし元気に行うことができていた。
- ・週5日通所の利用者が「家にいたい」という思いから1日少なくして土曜日を休みにした。順調に通所をしていたが月曜日も半日にしたい。という希望も聞かれるようになった。様子を見ながらご家族や相談支援専門員と連携してよりよい方向を探っている。
- ・台風19号で床上浸水の被害を受けた利用者は数ヶ月間におよぶ自宅内の居住スペースの変化や修繕のため気持ちが不安定になることが多かった。浴室の利用ができないこともあり事業所のシャワーにて清潔保持・整髪などを行った。また、タイムケアとの併用によりご家庭での負担軽減を図った。
- ・養護学校より卒業後、生活介護事業の利用希望者の実習を受け入れた。ウエス作りのほか、いっしょにスポーツレクリエーション・音楽活動にも参加した。実習生がいる状況であっても皆自然に受け入れることができ、いっしょに楽しむことができていた。
- ・ウエスの販売については営業活動を行うところまでいかず、継続して受注のある企業1件に留まった。今後の営業活動について対策を練りたい。

ウエス売上 1 kg 350 円 令和元年 10 月 1 日より

消費税引き上げに伴い 1 kg 360 円に改定。

月	重量 (kg)	金額 (円)
4月	0	0
5月	10	3,500
6月	0	0
7月	0	0
8月	10	3,500
9月	0	0
10月	10	3,500
11月	0	0
12月	10	3,600
1月	0	0
2月	0	0
3月	15	5,450
合計	55	19,550

8 その他の活動状況

体力づくり

「スポーツをしよう！」

体育館でのスポーツを生活介護事業の月間の予定に組み入れた。体重の増加や日常の運動不足や体力不足解消に向けて行う。希望をする利用者3~4名と職員2名、送迎運転手1名の体制をつくり、ともいきライフ月影（坂城町）の体育館で今年度は2回行った。

体操、バスケットボール、バドミントン、バランスボール、玉入れと様々な器具や遊具が設置されており、皆楽しみながら行うことができるため、うれしそうだった。広い空間でのびのびと自由に、安全に体を動かすことができ、運動不足解消や気分転換を図ることができた。

継続をしていきたい。

「ウォーキングをしよう！」

以前から行っているウォーキングも継続し、その日の天候や利用者の体調に見ながら行った。スタジオ CoCo 周辺の千曲川河川土手を歩くコース、と三本木公園まで歩き公園内のグラウンドで走る等を行った。

雨天や雪、夏場の暑さ、健康状態（花粉症）により中止することも多く、通年とおして平均的には実施ができなかった。今後は回数を増やして継続をしていきたい。

野菜作り、収穫の手伝い

ラディッシュの種まき・収穫。ジャガイモ堀りの手伝いをした。身近なところで行われている野菜作りに関わることができ貴重な体験ができた。収穫した野菜を皆でおいしく食べた。

創作活動

- ・余暇を利用して紙に好きなキャラクターの絵を描く。他の利用者の目にも触れる箇所に展示を行った。

* 今後も個々の特性を考慮し、作業に取り組みやすい過ごしやすい環境を整えていく。また、

障がい特性や個性に合わせ出来ることを増やしていきたい。支援者が各々専門職としての知識をもち力を発揮し、チームとして支援を行っていく必要があると考える。

9 健康管理

就労継続支援 A 型事業及び就労移行支援事業及び就労継続支援 B 型事業と同様

10 安全衛生管理

就労継続支援 A 型事業及び就労移行支援事業及び就労継続支援 B 型事業と同様

11 委託給食

希望者には給食を提供（1食 250 円、令和 2 年 2 月 1 日より 260 円）

常時利用者 5 名

昼食数 平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月 260 日

合計 1,135 食

検食日誌の記録

利用者の希望・意見収集（都度確認）

利用者の食物アレルギーの調査

希望メニューの実施

給食検討会の実施（キッチン CoCo・栄養士・調理師・工場長・給食担当）

12 QOL 活動・スタレクの実施状況

就労移行支援事業及び就労継続支援 B 型事業と同様

13 CoCo 家族会ちくま

就労継続支援 A 型事業及び就労移行支援事業及び就労継続支援 B 型事業と同様

14 地域への開放状況

就労継続支援 A 型事業及び就労移行支援事業及び就労継続支援 B 型事業と同様

15 職員研修について

就労継続支援 A 型事業及び就労移行支援事業及び就労継続支援 B 型事業と同様

16 職員体制について

管理者 1 名（工場長兼務） サービス管理責任者 1 名 生活支援員 3 名

医師（嘱託） 看護師 2 名（1 名常勤・1 名非常勤） 事務員

令和1年度アートカフェ CoCo 事業報告

【第2種社会福祉事業 障がい福祉サービス事業 生活介護事業】

【フリースペース事業】

障がいのある人たちの表現活動を行う場として、3年を終えることができました。当法人がこれまで実践してきた障がいのある人が地域の中で望むスタイルで自分らしく生活をおくことを支えてきた活動を、新たに須坂市(須高地域)において行っております。障がいのある人の多様な生き方に貢献するために、求められている必要となる資源を整えて、質の高いサービスを提供することで障がいのある人及び家族の望みをかなえることができるように更に一層と応えていくための所存を冷ますことなく持ち続けています。

アートカフェ CoCoに通ってくる障がいのある利用者たちは、自分の考えや想いを上手く言葉にして表すことが苦手だったり、言葉を扱うことが全くできなかったりとする方が多いです。彼ら彼女たちの意思や想いは社会の中では見逃されやすいですが、私たちは日々彼ら彼女たちに真摯に向き合って、声なき声や思いを丁寧に探り、感じ取ることに努めています。利用者たちは、自分の考えや想いなどを自らが好きである表現活動を通して自分らしく表現しています。個性的な色気をたっぷりと感じられる素敵な作品もたくさん生まれています。長野県内で行われている障がいのある人たちのアート展である「ざわめきアート」で入賞した方が数名いたり、他の団体等が主催とする作品展にも参加したりして、様々な場で利用者たちの作品を展示等しております。令和1年度は当事業所として初めての試みで、日頃より利用者の人たちが製作している作品の展示会の開催を、そして作品を使用してグッズの製作販売を行いました。作品の展示会は、10月の中旬に開催しましたが、台風19号の通過直後のことであり、計画どおりの開催とはいきませんでした。日数を短くしての開催となり、そして来場者数も数十人であり、期待していた成果には及びませんでした。グッズに関しては、カレンダー・クリアファイル・缶バッジ・はがきなど、利用者の作品をデザインに利用して製作を行い、そして販売を行いました。これも作品展に合わせて製作したものであり、そこでの販売を積極的に行う予定でありましたが、作品展の状況が見込みどおりではありませんでした。しかし、その後に関係者や関係機関等を主として案内をしていったところで、好評を得て、売れ行きは好調でありました。このような機会は利用者にとって自信や意欲を一層と持てることにつながりましたし、スタッフにとっても、より多くの人たちに当事業所の運営や活動をより広く知ってもらい、より理解を深めてもらえることになったので、自らの日ごとの取り組みを振り返るよい機会になったと思います。利用者及びスタッフ共に、今後の運営や活動に、更なる望みをより一層と抱けることができましたので、素晴らしい場であり取り組みであったと思います。今後もこのような取り組みを続けたいです。

カフェの運営は、スタッフ体制等の理由により休止しており、現在も継続中です。

障がいのある人たちの表現活動を行う場と併設する形で同時にフリースペース事業を行っており、不登校や引きこもりの状態にいる人たちの居場所づくりを行っています。自らのことを肯定できなかったり自信を持てなかったりする人たちが当事業所にて行っている活動（表現活動や社会体験活動等）に個々で自らに合った形で参加して取り組むことで、安心して活動できる居場所として過ごすことができる、社会や地域の中で自分らしく活躍していくことを成し遂げることができる、そのようなフリースペースの運営を目指しています。

生活介護事業

（利用者の推移）

（定員 10 名）	令和 1 年度総在籍者数 20 名	（令和 31 年度末 登録者数 16 名）
平成 31 年 4 月	3 名入所 （特別支援学校高等部等卒業者 2 名 （うち 1 名は他事業所併用） （在宅より 1 名）	・・・ 在籍者数 18 名
令和 1 年 7 月	1 名入所（在宅より）	・・・ 在籍者数 19 名
令和 1 年 11 月	1 名入所（在宅より）	・・・ 在籍者数 20 名
令和 1 年 12 月	1 名入所（他事業所より） 2 名退所（タイムケア事業利用へ）	・・・ 在籍者数 19 名
令和 2 年 1 月	1 名退所（タイムケア事業利用へ）	・・・ 在籍者数 18 名
平成 2 年 3 月	2 名退所 （タイムケア事業利用へ 1 名） （他事業所へ移行 1 名）	・・・ 在籍者数 16 名

1 利用者の内訳

（ 6 ） 利用者総数 20 名

（ 7 ） 出身等市町村別 長野市 10 名 須坂市 7 名 小布施町 1 名 高山村 1 名
千曲市 1 名

（ 8 ） 性別 男 14 名 女 6 名（総数）

（ 9 ） 年齢 30.6 歳（令和 1 年度末）

（ 10 ） 障がい種別 知的障がい者 20 名

身体障がい者 3 名

発達障がい者 6 名 重複者数名あり

（ 6 ） 障害支援程度区分 <3>3 名 <4>6 名 <5>7 名 <6>4 名

2 通所方法

（ 6 ） 徒歩または自転車 0 名

（ 7 ） バイクまたは車（本人運転による） 0 名

- (8) 公共交通機関利用 1 名
 (9) 事業所送迎 1 0 名
 (1 0) 家族または他事業所等による送迎 1 5 名
 (ア) 重複者あり

3 日課について

9 : 3 0 ~ 1 0 : 0 0 まで	着替え 朝会 ラジオ体操等
1 0 : 0 0 ~ 1 2 : 0 0 まで	午前の活動
1 2 : 0 0 ~ 1 3 : 0 0 まで	昼食 休憩
1 3 : 0 0 ~ 1 5 : 0 0 まで	午後の活動
1 5 : 0 0 ~ 1 5 : 3 0 まで	掃除 おやつ 着替え 帰りの会等

利用者の事情または活動内容等によっては、このとおりの日課ではない。
 土または日曜日は活動内容によって様々に設定した。

4 通所状況

通所実態（通所率）

4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
43%	40%	43%	42%	42%	43%

10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	年平均
42%	44%	45%	47%	45%	45%	49%

上記の通所率の数字は、週に 5~6 日を開所としているところで、個人個人の事情により週に 1~4 日で通所している方も半数程度おり、その状況を条件にした通所率の数字である。

5 個別支援計画

本人や家族との面談や、関わりのある関係者等を含めた会議を開くなどして、本人のそれまでの歩みや、好きなことや得意なこと、苦手なこと、行動面でや日常生活上の行為等で配慮すること等々に関して、情報収集や確認を行い、本人の願いをベースにして個別支援計画を作成した。

何よりもまずは、本人中心というスタンスを重視して、願いやニーズ等を把握するように努めた。言葉にして相手に自分の意見や考えを伝えることが難しい利用者が多いので、日常の行動等を観察して分析したり、家族等の周りの関係者等からのアドバイス等をももらったりして、本人の意思や思いを探り、個別支援計画に反映した。当事業所外での、生活の場面などの困り感や希望

があった時には、他の機関と連絡をとって情報を共有して、そのうえで当事業所として担うべき課題に関しては、個別支援計画の目標として取り入れ対応にあたった。

そして、6カ月ごとに1回の見直しを行った。来年度も、本人の願いをベースに、より良い支援に繋がるように計画的また必要に応じて面談等を行い、定期的に支援計画を作成している。

6 活動について

【表現活動(絵画、造形、書道等の創作的活動他)等】

(1) 表現活動(絵画、造形、書道等の創作的活動他)

日々の日課の中で、活動内容に関しては、基本的に利用者個々が気に入っている活動に個別に取り組んだ。絵を描いたり、書道を行ったり、ウォーキングをしたり、音楽を聴いたり歌ったり、ペーパーで工作をしたり、話をしたり等々。毎週木曜日にはプロの講師の方である関孝之氏および佐々木良太氏に来ていただいてアートワークショップを行った。プロの講師の方によるワークショップはより深みのある活動を行うことができ、より興味を持ち楽しんで活動に参加することができた。それらの活動を通して制作した作品を今年度も、ながのアートミーティングが主催する「ざわめきアート展」に応募して入選した方もおり、そして他のアート展にも応募する方や作品もあり、県内外の数か所の美術館等で展示や作者紹介の機会をいただくこともできた。事業所外での活動等にも積極的に参加した。

(2) 作品展の開催及びグッズの製作販売

冒頭で述べたとおり、令和1年度は当事業所として初めての試みで、利用者の人たちが製作している作品の展示会の開催を、そして作品を使用してグッズの製作販売を行った。

7 QOL 活動について

QOL 活動については日々の活動の中で取り入れ、実施した。季節ごとの行事を企画して行い楽しんだ。ざわめきアート展や地域での展示会等の外部で行われたイベントにもでかけて、楽しむことができた。

8 保健衛生について

(1) 健康診断について

- 2回実施 -

第1回目

- ・日時 : 令和1年6月27日(木)午後1:30~5:00
令和1年7月4日(木)午後1:30~5:00
- ・実施(依頼)機関 : (財)全日本労働福祉協会
- ・実施内容 : 身長・体重測定、血圧測定、尿検査、視力検査、胸部レントゲン、聴力検査(対象者のみ)、血液検査(対象者のみ)

心電図（対象者のみ） 医師による触診及び問診

- ・受診者数 : 6名
- 第2回目
- ・日時 : 令和1年8月26日(月)及び8月27日(火)
- ・実施（依頼）機関 : 立岩内科小児科医院 立岩孝之医師
及び医師
- ・実施内容 : 聴打診及び問診
- ・受診者数 : 3名

その他

第1回目の診断結果が出来次第、その診断結果をもとに立岩Dr及び看護師より意見及び助言等をいただき、健康管理に関する指導をいただく機会であり、令和元年度は3名が受診した。

(2) 健康相談について

齊藤恵子看護師（嘱託）により、月に1回程度（火曜日）1人20分程度かけて行った。

月	回数	延相談者数	月	回数	延相談者数
4月	1回	8名	10月	1回	7名
5月	1回	7名	11月	1回	8名
6月	1回	7名	12月	1回	6名
7月	1回	8名	1月	1回	7名
8月	1回	7名	2月	1回	8名
9月	1回	8名	3月	1回	8名
実施回数 12回			延相談者数 89名		

(3) 肥満対策について

肥満状態若しくは肥満傾向にある利用者が数名いる。数名とも肥満に関しての自覚が苦手なようであり、食事量の管理等の支援は必要とする。昼食はキッチン CoCo より提供してもらっており、昼食はおかずやごはんの量は決まっているので、食べ過ぎるということはないのだが、家庭等に於ての食事は多くとったり、間食もあつたりするようであり、1日をとおしては多めなのかもしれない。日常的に適切な量と内容等の食事をするように努めることに意識を持ってもらいたいと思うので、健康診断や健康相談等で得られる情報を確認しながら日々の支援において、そして家族ともやりとりして対応していきたい。

(4) 血圧について

毎月の健康相談にて、血圧測定を実施した。血圧が高めの利用者が1名いる。様子を見ていく。

(5) 救急箱について

風邪薬、胃腸薬、鼻炎、痛み止め等の経口薬、及び消毒液、絆創膏、湿布、目薬等、かゆみ止め並びに体温計を整えている。自傷や肌が荒れやすい体質等のため、手指等に傷がよくある利用者が数名いて、絆創膏が使われることが多かった。一部の風邪薬や目薬・湿布薬などのように全く使用しない薬もあった。

(6) 服薬支援について

服薬支援を行っている利用者は4名である。管理を行っており、行為は自身でできる。

(7) 「傷病記録」について

服薬、静養、癲癇の発作等の場合に必要な情報の記録し支援を行った。

(8) 嘱託の医師と看護師との連携について

令和元年8月に立岩医師による健康診断が行われ、当事業所よりは受診者は3名であった。斎藤看護師による健康相談を基本的に月1回程度実施した。

健康診断については第1回目の6月及び7月の健康診断の結果のデータを立岩医師に渡して、診断結果に応じて、必要な場合には各所員個別に指導及び助言等をいただいた。また日常の情報交換や共有を通して、利用者個別の健康状態や対応等について指導や助言をいただき、利用者の健康管理支援や日常や年度等の健康衛生活動の取り組みにつなげている。

(9) 個別の健康情報について

自身の体調不良等の訴えを行えない利用者が多いので、日常的に利用者の様子をしっかりと観察することで体調を把握している。また休むときも電話や訪問等を行って連絡をとり、状態の確認等を行っている。そのうえで、必要な支援を行い、そして当事業所のスタッフ間でも所員個人の基本的な情報と日々における状態について情報共有を行い、事業所スタッフ全員で連携して支援にあたっている。

(10) 清掃、整理整頓等について

清掃については、利用者によってそれぞれができる箇所を行っている。清掃を行っていない利用者もいる。従って、利用者が来所する前の朝に、週一回職員が一斉に清掃を行う日を設けている。整理整頓にも心掛け、5Sが保たれた事業所を維持できるように努めている。

(11) その他

毎日の朝会において、利用者の健康状態の確認をまめに行った。

毎日、通所して来た際も含めて外から帰ってきた時には、インフルエンザ及び風邪等の予防も含めて、日常的に手洗い及びうがいをを行うように努めた。行えない利用者もいた。

インフルエンザや感染性胃腸炎等が流行る時期には、朝会等で予防及び対処法について説明し、また予防及び対処マニュアルを配布して衛生管理の徹底に努めた。特に11月にはインフルエンザの予防接種の呼びかけをした。予防接種を受けた利用者もいたが、個人個人の事情により行わなかった利用者もいた。インフルエンザに罹患した方はいなかった。来年度も呼びかけはしていきたい。

9 給食について

- ・給食を楽しみに通所する利用者が多い。楽しい時間でもあった。
- ・キッチン CoCo より弁当を提供してもらっており、栄養士に作成したメニューで提供されており、適切であったと思われる。
- ・日頃よりキッチン CoCo とは給食に関する情報交換及び共有を行い、課題検討を行った。また、嗜好調査も行い好き嫌いやアレルギー等のアンケートをとり、必要に応じて対応をした。ア

アレルギーによる配慮は行い、弁当の変更をお願いすることもあった。また11月より、米・小麦・豆類を含むかなりの食材でアレルギーが検出された所員がいて、この所員に対しては家族と連携・相談をして弁当から該当食材を排除したり、家から持参した弁当を配膳したり等の対応を行った。

- ・体重など考慮して、職員が調節してごはんを盛ったり、また、調味料もかけすぎないようにと職員が行うなどして、健康面での配慮を行った。

10 旅行について

(1)実施内容等

第1回目

(ア)実施年月日

令和1年9月5日(木)~9月6日(金)

(イ)参加人数

計3名(利用者1名、家族1名、職員1名)

(ウ)旅行会社

日本旅行長野支店

(エ)行先他

『伊豆のいいとこどりとメロン狩りの旅』

・見学場所

1日目：御殿場高原ビール 伊豆フルーツパーク 三嶋神社

2日目：レゴランドジャパン

・宿泊場所

伊東温泉「伊東温泉聚楽」

(オ)その他

アトリエ CoCo、CoCoJAVJAV、家族会と共催しました。

第2回目

(ア)実施年月日

令和1年9月12日(木)~9月13日(金)

(イ)参加人数

計3名(利用者1名、家族1名、職員1名)

(ウ)旅行会社

日本旅行長野支店

(エ)行先他

『ムーミンバレーパークとTDLの旅』

・見学場所

1日目：ムーミンバレーパーク

2日目：東京ディズニーランド

- ・ 宿泊場所
水月ホテル鷗外荘

(オ)その他

アトリエ CoCo、CoCoJAVJAV、家族会と共催した。

評価及び課題

9月の上旬の2週にわたって2グループに分けてアトリエ CoCo、CoCoJAVJAV、家族会と共催して実施しました。利用者総数に対して参加者はかなり少なかった。参加された方はのんびりとゆっくりとできて存分に満喫できたようであり、また事業所内外の人たちの交流を楽しめたようである。

当事業所単独での旅行については、年度計画としては立てていたが、実施計画を立てる余裕がなくてとの理由で実施しなかった。

11 防災訓練について

(1) 防災訓練

第1回目

- ・ 実施日：令和1年 6月12日(水) 13時30分～14時00分
- ・ 参加者：利用者6名 職員4名 他(実習生、教員)各1名 計12名
- ・ 内容：避難訓練。事業所内のカフェ厨房内のIHの不具合により、火災が発生したと想定して避難訓練を行った。
- ・ 課題及び反省点：

4月に新しい利用者が入所して初めての避難訓練であり、前回までの経験を参考に、職員と利用者双方を対象として、「通報・消火・避難訓練実施マニュアル」にのっとり一連の動きを確認した。カフェの厨房より出火という事態を想定して、発見、通報、初期消火、避難(誘導)における、それぞれの対処方法等を順番どおりに1つ1つ確認した。

発見から避難完了までの時間は、3分12秒であった。昨年より時間がかかってしまったのは、避難中にトイレに寄った利用者が2人いたためであるが、現実に火災が起こった際はトイレに寄ることがないように、今回の経験をもとに誘導し、それぞれの状況に合わせた相応な判断と行動ができることを目指して、状況に合わせた訓練を続けていきたい。

第2回目

- ・ 実施日：令和1年 10月30日(水) 13時30分～14時00分
- ・ 参加者：利用者6名 職員5名 計11名
- ・ 内容：避難訓練。事業所内のキッチン厨房内のIHの不具合により、火災が発生したと想定して避難訓練を行った。
- ・ 課題及び反省点：
前回までの経験を参考に、職員と利用者双方を対象として、「通報・消火・避難訓練

実施マニュアル」にのっとり一連の動きを確認した。今回初めて、キッチンの厨房より出火という事態を想定して、発見、通報、初期消火、避難（誘導）における、それぞれの対処方法等を順番どおりに1つ1つ確認した。発見から避難完了までの時間は、3分17秒であった。初めての出火場所からの訓練であったが大きな混乱もなく、無事に訓練を終了することができた。

今回の経験をもとに誘導し、実際に想定した訓練を行うことを心がけたい。

(2) 消防設備点検

総合点検として年に2回（令和元年5月及び11月）に業者に委託して実施した。

(3) その他

- ・自衛消防団の編成及び調整。職員緊急連絡網の作成及び配布。
- ・消火器、非常警報装置、誘導灯、火災探知報知機の設置。

12 地域との協働について

- ・見学や研修を受け入れた。
（特別支援学校等の先生及び生徒、保護者、他事業所等）
- ・地域の諸団体等との連携を行い、様々な地域ネットワーク等に積極的に参加した（須高地域自立支援協議会等）

13 職員研修について

- ・個別支援に関するサービス担当者会議等の支援会議や職員会議を定期的を実施して、支援や活動等に関する知識及び技術の向上や研鑽等に努めた。
- ・相談支援従事者初任者研修、サービス管理責任者研修、虐待防止研修、強度行動障害研修等の外部の機関が行う研修に積極的に参加し、知識や技術の向上に努めた。

14 職員体制について

所長兼サービス管理責任者	1名
生活支援員	5名
送迎運転手(支援員補助)	1名
看護師(嘱託)	1名
医師(嘱託)	1名

フリースペース事業

[事業及び活動等の内容・課題・評価等について]

普段より、障害福祉サービス事業生活事業を運営しており、障害のある人のエンパワーメントを最大限引き出し活かした活動(表現活動(アート活動等))を行っております。その自由であたたかな空間として、不登校やひきこもりの子どもや大人たちが自分らしく過ごすことのできる癒しの場として利用していただくことを目指しております。令和1年度においては体制等に課題があり、運営を思うようにできませんでした。

個別にゆったりとのんびりと自分の思うように時間を過ごしたり、スタッフや利用する仲間たちとの会話を楽しんだり、相談をしたり、そしてアート関係の表現活動や調理実習等の社会体験活動等の、自らが楽しめて取り組むことのできる活動に参加したりして、居心地のよい安心できる居場所として、そして他者及び地域や社会とつながりを得ることで、自分らしく生きていくことのできるきっかけやパワーの源を得ることのできる場として、今後において運営を目指していきたいと思っております。

1 活動内容等について

(1)アート関係の表現活動について

毎月毎週木曜日に外部講師である関孝之氏に来ていただいて、生活介護事業の障がいのある利用者を対象としてアートワークショップを行っている。絵を描いたり、書を書いたりして、好きな表現活動を行うことで楽しく時間を過ごし、自らのことを表現していくことの面白さを味わうことのできる場面であるが、フリースペースの利用者も気軽に参加してもらいたいと思っている。

(2)そめそめカフェ

- ・そめ BU のおばちゃんたちと一緒に草木染めを行って、昼食を楽しむワークショップ
- ・4回開催

日時	草木染め種類	参加者数
令和1年5月18日(土)	よもぎ・たまねぎ	10名
9月21日(土)	マリーゴールド	10名
11月16日(土)	クリ・たまねぎ	10名

令和1年度事業報告

第2種障害福祉サービス事業

(共同生活援助事業・居宅介護事業・短期入所(ショートステイ)事業・相談支援事業)

地域生活支援センターCoCo ながの・ちくま

今年度は10月に台風19号による豪雨災害が起き、長野市、千曲市においても大きな災害となりました。多くの方が被災され、避難所生活を余儀なくされた方たちの生活部分の支援を微力ながら行うことができました。特に地域センターながのとしては、グループホームの空き部屋、ショートステイの部屋を使用し、受け入れを進め生活の場を提供しました。

また、地域センターちくまでは、様々な家庭環境により緊急でショートステイを利用しなくてはならない方を積極的に受け入れることができました。

グループホーム・ショートステイどちらのサービスにおいても、社会資源としての役割を果たすことのできた1年でした。

そして、年度の最後には新型コロナウイルスの感染防止に日々追われることとなります。感染防止対策は1事業所だけの取り組みでは困難な部分が多々ありますが、長野リネン本社をはじめ、グループ全体での支援のおかげで、現在は感染防止を進めることができている。グループ全体への感謝の気持ちと共に、日常の感染防止に努めたいと考えます。グループホームは地域に感染が広がったとしても閉所することができず、そこで働く私たちはエッセンシャル・ワーカーとして社会を支えることとなります。現場で働く職員も社会を支え、入居者の命を預かる仕事をしているという意識を強く持つことにつながりました。今後も感染防止に努めていきたいです。

今後も利用されている皆さんが住み慣れた地域で自分の夢を語り、暮らしていくことを実現させるために、ご本人・ご家族の声に耳を傾けながら支援していきたいです。

【共同生活援助事業】グループホーム

1. 事業の開始

平成16年	1月15日	CoCoホーム千曲	(女性4名)
			平成21年4月～(女性5名男性2名)
			平成28年3月～(女性6名男性4名)
平成17年	7月1日	CoCoホーム白塚102	(女性4名)
		CoCoホーム白塚103	(男性4名)
平成18年	8月7日	CoCoホーム表参道	(男性6名・女性1名)
			平成22年6月～(男性7名)
平成20年	12月1日	CoCoホーム蔵町	(男性7名)
			平成21年11月～(男性9名)
平成22年	6月1日	CoCoホームぼたんの里	(女性4名)
平成25年	2月10日	CoCoホーム山王	(男性5名)
平成29年	6月1日	地域生活支援センターCoCoちくま 開所	
		長野・須坂市内のホームを地域生活支援センターCoCoながのの事業と	

し、

千曲市内のホームを地域生活支援センターCoCo ちくまの事業と

する

平成 29 年 6 月 1 日 CoCo ホーム三本木 (男性 8 名)

入居者定員総数 51 名

・令和 1 年度の入居者数の変動

令和 1 年 6 月	CoCo ホーム千曲	男性 1 名入居 (自宅より)	
令和 1 年 10 月	CoCo ホーム白塚 102	女性 1 名 (災害により避難)	他ホームへ
令和 2 年 2 月	CoCo ホーム白塚 102	女性 1 名入居 (自宅より)	
	CoCo ホーム白塚 102	女性 1 名退去	一人暮らしへ

入居者実数 48 名 (男性 35 名・女性 13 名)

2. 入居者の状況

<CoCo ホーム白塚 102> 女性 3 名

- ・出身市町村 (長野市 1 名)(須坂市 1 名)(千曲市 1 名)
- ・年齢 32 歳 ~ 46 歳
- ・日中の場 キッチン CoCo 1 名 (就労継続 B 型)
アトリエ CoCo 1 名 (就労継続 B 型)
自営業手伝い 1 名 (実家の酒屋手伝い 1 名)

・ホームの様子

一人暮らしを希望しながらもなかなか一步を踏み出せずにいた方が、練習期間を経て、自信を持って地域へ出ることができた。逆に、実家の自営業のお手伝いをするだけではなく、自分らしい生活を目指してホームへ入居された方がいる。どちらの方も、当事業所だけではなく、関係者間の連絡を密にして支援をしている。

長野市の災害時には、被災した方を空き部屋を利用する形で受け入れることができた。次の住まいの場を見つけるまでの間、安心の環境を提供することができた。

ホーム内での人間関係によるトラブルも時にはおきるが、日常の情報共有、日中事業所との情報共有、日々の統一された支援を心がけ支援を組み立てている。支援者は日々の発信に適切に対応することを心掛け、医療との連携、環境の調整、今できることを実践している。

<CoCo ホーム白塚 103> 男性 4 名

- ・出身市町村 (長野市 1 名)(飯山市 1 名)(小川村 1 名)(筑北村 1 名)
 - ・年齢 61 歳 ~ 75 歳
 - ・日中の場 アトリエ CoCo 3 名 (就労継続 B 型)
企業就労 1 名 (株式会社ミヤマ)
- ・ホームの様子

高齢期にさしかかった男性のメンバーが暮らすホーム。加齢による様々な体調の変化に対応して、通院や服薬を含めた健康管理の支援を続けている。4名とも人間ドックを受診し、必要な治療に結びつけてきている。定期的な通院が増え、付き添っての受診ができるように支援している。現在は4名とも元気に日中の就労・活動の場に通うことができている。

居室の整理整頓や衣服の管理が難しくなっており、個別に居室の整理を行なっている。また、ご本人の希望に合わせた外出・買い物や余暇の充実等の支援を広げている。

<CoCo ホーム表参道> 男性7名

- ・出身市町村 (長野市 6名)(坂城町 1名)
- ・年齢 22歳~59歳
- ・日中の場 アトリエ CoCo 2名 (就労継続B型2名)
アートカフェ CoCo 1名(生活介護1名)
CoCo JAVJAV 2名(就労継続B型2名)
ななせ仲まち園 1名(就労継続B型)
企業就労 1名(長野リネン本社工場)

・ホームの様子

定員を超える人数で、被災した方を長期的に受け入れたが、大きな問題はなく、ホームの中は落ち着いた生活が続いている。ショートステイの利用者も毎日利用されているが、その生活環境が当たり前となっている。ホームの仲間同士で声を掛けあう雰囲気の良いホームとなっている。健康管理・金銭管理や余暇の過ごし方など、個々の生活課題にも目を向けて取り組んでいる。

<CoCo ホーム蔵町> 男性9名

- ・出身市町村 (須坂市 7名)(長野市 1名)(木島平村 1名)
- ・年齢 45歳~60歳
- ・日中の場 企業就労 9名(長野リネン須坂工場8名・本社工場1名)

・ホームの様子

60歳となり働く場でも定年として一区切りついた方がいる。一区切りとして、ご本人が希望された海外旅行のプランを実施。ご本人の夢プランを実践することができた。また、定年後も変わらず雇用して頂けることにも感謝しながら、高齢に伴った今後の楽しみ、生き方について考えていくことが増えてきている。

入居されている方は、企業就労・社員寮の経験が長く、独立心が高く、自分の生活スタイルが確立されている。加齢に伴う体力の低下や、疾病も現れるようになってきた。しっかりと働き続けるための健康管理とともに、日常生活や余暇の経験の幅を広げる支援を心がけている。ご家族の高齢化や他界による、親から兄弟への代替わりで、身内との関係性に変化があり、ご本人を取り巻くご家族との関係調整の支援が始まっている。

<CoCo ホームぼたんの里> 女性3名

- ・出身市町村 (長野市 2名)(高山村 1名)
 - ・年齢 27歳~60歳
 - ・日中の場 アトリエ CoCo 3名(生活介護2名・就労継続B型1名)
- ・ホームの様子

自然に恵まれた環境の中で住み込み世話人の支援を受けて暮らしている。ショートステイの利用者さんも受け入れながら、3名の入居者が暮らしている。

今年度は長野市の災害により1名の方を長期のショートステイとして受け入れてきた。今までにショートステイで受け入れて来てた方だったため、ホーム全体の様子も変わることなく、スムーズに受け入れることができた。長野市の災害や新型コロナ感染防止により、ホームレク等お楽しみ企画が実施できなかったことが残念。

週末は帰省する人・余暇支援を受けて楽しむなど、思い思いの過ごし方をしている。

<CoCo ホーム山王> 男性 5名

- ・出身市町村 (長野市 5名)
- ・年齢 25歳~56歳
- ・日中の場 企業就労 3名(株式会社ミヤマ 1名・轟電化工業 1名・丸一産商 1名)
アトリエ CoCo 1名(生活介護) CoCo JAVJAV 1名(就労継続B型)
- ・ホームの様子

長野駅前前のホームということもあり、企業就労されている3名は、自分の時間を有効に活用し、それぞれの余暇を楽しむことができている。ホーム内もそれぞれの個性を尊重し合いながら、また、助け合いながら暮らしている。その中で、若い入居者さんたちも生活の中でできることを増やしながら生活している。

<CoCo ホーム千曲> 女性 7名 男性 1名

- ・出身市町村 (長野市 4名)(坂城町 2名)(上田市 2名)(中野市 1名)
- ・年齢 21歳~54歳
- ・日中の場 クリーニング工房 CoCo 6名
(就労継続A型 4名・就労継続B型 2名)
スタジオ CoCo 1名(就労継続A型)
企業就労 2名(長野リネンサプライ 1名・(株)ロビニア 1名)
- ・ホームの様子

CoCo ホームの中で1番歴史のあるホーム。このホームを地域生活のスタートとして、一人暮らしから結婚まで実現させた先輩がいる。元気に挨拶を交わしたり、体調の悪い仲間に気遣いの言葉をかけたりと人間関係は良好。朝夕には共有スペースに男女混合の食事風景が見られる。新たな入居者となったメンバーもホームの雰囲気溶け込み、仕事に余暇に思い思いの毎日を過ごしている。

<CoCo ホーム三本木> 男性 8名

- ・出身市町村 (長野市 4名)(千曲市 2名)(坂城町 1名)(須坂市 1名)
- ・年齢 21歳~54歳
- ・日中の場 クリーニング工房 CoCo 3名(就労継続A型 3名)
スタジオ CoCo 2名(就労継続A型 1名・就労継続B型 1名)
チューリップの家 1名(就労継続B型)
企業就労 2名(戸上リネンサプライ 1名・西友 1名)
- ・ホームの様子

平成 29 年度 6 月に新しく開所した CoCo ホーム。地域のニーズに応えるために、ショートステイ付ホームとして 8 名の入居者がホームでの暮らしをスタートしている。

当初は慣れない集団での生活に戸惑いもあったが、現在は、食卓では冗談を交えた会話があり、食後も世話人や入居者同士の団欒する姿が見られている。日中はそれぞれの場所で就労され疲れて帰る方が多く、ホームに戻られてからは、心身共にリラックスできる環境を目指したい。

入居されている方の多くが、社会の中でトラブルを抱えやすい障がい特性を持っているため、トラブルを未然に防ぐ、または初期の段階で対応できる環境にしておく必要がある。

3. 生活状況 / QOL 等

各ホームとも、地域の中で行事や清掃活動に声をかけていただき、世話人と共に地域の実情に合わせて積極的に参加させていただいた。

それぞれのホームに個性があり、それぞれの入居者に生活のスタイルがある事を尊重しつつ、スタッフ体制を充実させる事で、より個別的な支援ができるよう心がけてきた。

余暇支援においては、ホーム毎の小旅行や食事会等の他に、ホーム間の交流を兼ねたプロ野球観戦・一般就労者対象の宿泊旅行等の企画を提案して実施した。また、買い物・映画・カラオケ・スポーツ等個別の希望に沿った余暇支援のニーズも多く、ガイドヘルプを利用して楽しんでいただいた。

4. 職員体制

地域生活支援センターCoCo ながの

管理者	1 名 (ちくまと兼務)	サービス管理責任者	2 名	生活支援員	5 名
世話人	16 名	(白塚 102・103)	3 名		
		(表参道)	4 名 (宿直 1 名)		
		(蔵町)	3 名		
		(ぼたんの里)	2 名 (宿直 1 名 : 住み込み)		
		(山王)	4 名		

地域生活支援センターCoCo ちくま

管理者	1 名 (ながのと兼務)	サービス管理責任者	1 名	生活支援員	2 名
世話人	14 名	(千曲)	6 名		
		(三本木)	8 名		

5. 食事

各ホームとも手作りで栄養バランスのとれた食事の提供をこころがけると共に、世話人の負担を軽減するために、ヨシケイ、コープといった食材配達の業者を適時活用している。季節の行事メニューや誕生日メニュー、外食の企画等、入居者にアンケートをとりながら嗜好を取り入れた献立も作っている。入居者や体験で利用された利用者からは「食事が美味しい」と良い評価を頂いている。

6. 健康管理

日常の健康チェックに加えて、通院・服薬の支援を行ってきた。加齢とともに体調の変化が現れてきている入居者が多く通院の種類や回数が増えてきている。必要な人にはホームで血圧や体重測定を続けている。通院先は、地域の内科をはじめとして、歯科・眼科・耳鼻科・精神科・皮膚科・胃腸科・婦人科・整形外科・総合病院と多岐にわたり、定期通院の付き添いが必要なところを複数持っている入居者もいる。医療機関と連携しながら情報を共有して支援してきた。

また、40歳以上で人間ドックの受診を希望する方には、申込み手続から当日の付添いまでを支援しており、今年度は2ホーム、6名の入居者が受診した。疾患の早期発見に努めている。

今年度後半は新型コロナウイルス感染予防に取り組んできた。マスク・消毒・手洗い石鹸等の予防に係る準備品をそろえると共に、発生時のマニュアルを作成し、職員スタッフの意識も高めてきている。また、厚生労働省をはじめ県、市から出される文章を、入居されている方たちにもわかりやすいよう、工夫しながらお伝えしてきている。

帰宅時の手洗い、手の消毒、ホーム内の換気、毎日の検温や外出の自粛等ホーム内でできることを呼びかけ、入居者、職員ともに感染予防に取り組んでいる。

7. 防災体制

各ホームとも、前期後期2回の避難訓練を計画実施した。入居者の仕事の関係や帰省等の都合で全員が参加できる日程の調整が難しいホームもあった。新型コロナウイルス感染防止のため、後期のものが実施できなかったホームもある。

防災用品については期限切れの水や食料がないかを点検、不足の物を補充できるよう手配した。

また、水防法の改正に伴い、水害・土砂災害のイエローゾーンに入っているホームについては、防災計画の見直しを行っている。

8. 研修等

- ・月1回を目標にホーム毎の支援会議を行い、世話人と生活支援員で支援の振り返りと情報の共有及び支援の方向性の確認に努めた。
- ・長野市・千曲市・須坂市の自立支援協議会の各部会に参加して情報共有を行った。
- ・世話人研修は法人内部で1回実施。年度後半の1回は実施することができなかった。

第1回：7月2日（水）

講義：「良い支援のために」【基礎編】

講師：長野市障害者権利擁護センター へターデ イク 奥村和枝氏

講義：「グループホームにおける防犯について」

講師：長野南警察生活安全部

- ・その他、長野市ふくしネット主催研修会、千曲市自立支援協議会主催研修会、知的障がい福祉協会主催研修会等の内外の研修の機会に必要な応じて参加して、支援のレベルアップに努めた。

9. 地域への開放

GHについての問い合わせや見学希望を受け、その都度見学のご案内をしてきた。ホーム三本木については、地域の民生児童委員の方や保健師の方の見学を受け入れた。入居希望者や養護学校の先生方の見学希望があって対応した。

10. 評価及び課題（実践を通して）

CoCo ホームでの支援は、高齢になってきた方たちに対しては、終の棲家として安心できる環境や支援を提供し、また、年齢の若い方たちに対しては、この先の一人ひとりが願う暮らしの実現を目指す支援を提供している。今年度は、それぞれの夢をかなえる支援ができた実践がある。

Kさんは、CoCo ホームで暮らし始め14年が過ぎている。今までにも「一人暮らしがしたい」と何度かチャレンジした過去がある。しかし、社会制度の壁や、ご本人のあきらめの気持ちによって、その願いは叶えられることができずに来ていた。そのKさんが、再び地域に出て一人で暮らすことを目指し、令和2年2月に無事一人暮らしの実現を果たしている。

多くの社会的な課題を抱える方を支援していくには、一つの事業所、一つの法人では、支援することは困難である。ここ何年かで、Kさんを支援するチームは整い始めていた。職場の関係者、金銭面の相談者、医療面の相談者、総合的に話を聴く相談支援専門員...等々、多くの方がKさんを支援し、またKさんもその関係者と良好な関係を築くことができていた。もちろん生活を支える私たち廣望会の支援者がその中心にいた。そのチームとしてKさんの支援を支えることがKさんの希望を実現させたと言える。

その後、Kさんからは連絡はない。連絡がないということは、安定した地域生活を送っているということだろう。

Nさんは、令和1年6月に60歳を迎えた。職場でも定年を迎えるが、その後も今まで通りに勤務できることが決まっていた。とは言え、人生においては大きな節目となる。そこでご本人にこの先の希望を聞いてみる。色々なやり取りの中に出てきた言葉が、「ハワイ旅行へ行きたい」という希望だった。私たちは喜んで、そして楽しんでご本人の希望を叶えるお手伝いをさせてもらった。

定年後はどうやって過ごしていこうか？介護保険への移行はどんなのか？等々、そんな思考になりやすい節目に、ご本人が嬉しそうに希望を話してくれる姿を見ることができ、お互いに前向きに進むことができた。そして11月には無事ご本人の希望するハワイ旅行へ行くことを叶えることができた。一緒に付き添ったスタッフから送られてきた写真にはアロハシャツを着て笑顔のNさんが写っている。

高齢になる入居者さん、60歳を迎えた時、これからの夢が語れる場の提供、そして夢の実現をサポートしていくことが、自分たちの大切な仕事だと感じる。

CoCo ホーム三本木に暮らすYさんは、アルコールを飲みすぎて周りの人からむし、時には廊下で横になっていることもある。Yさんは入居して3年近くが過ぎようとしているが、入居した当時から飲んだくれていた。そのため、周りの入居者さんからの視線は冷たく、支援者からだって「飲んだくれのダメな奴」と思われがちだ。

現場のスタッフに様子を聞くと「最近はずいぶんですよ」という時と「最近はお酒の量は控えめ

です」という時があり、一律にひどく飲んでいるわけではない様子分かる。そんなことが分かってから、スタッフに振り返りをしてもらおう。「職場の支援者が変わった後や信頼していた支援者が辞めた後は酷く飲んでいました」とか、1年を振り返って見ると、「お盆やお正月といった時期の後には、必ずお酒の量がひどくなり、仕事も休みがちです」との報告。ちゃんと理由があつての飲酒だったことが分かる。自分たちの仕事の振り返りと、科学的な分析の必要性がよくわかる。

本人にとっては、上手に自分の気持ちを伝えられず、寂しぼ酒であり、こん畜生酒ということになる。私たち支援者は「酒ばっか飲んで」ではなく「どうしてそんなに飲んでしまうのか」という心情に視点を当てないといけない。また、どうしてお盆やお正月の後に飲みすぎてしまうのか、そこにもYさんの本音が隠れているのだろう。まだまだ私たちの支援できることはたくさんある。美味しくお酒が飲める日を目指して。

「答えは現場が教えてくれる」、常に現場の支援を通して学び、地域で暮らす方々の生活、夢の実現を支えて行きたい。

【短期入所事業】ショートステイ

「自立生活をしたい!」「グループホームで生活してみたい!」「将来的には自立した生活をしてほしい」「親元を離れての暮らしがイメージできる体験をさせたい」「緊急時に対応してもらえればと安心」という本人・保護者の願いに沿うべく、当法人の共同生活援助事業所住宅の一室を活用して短期入所(ショートステイ)の事業を開始して、10年が経過しようとしている。

利用のきっかけや目的は様々で、グループホームで生活リズムを作りたい人、家を離れる体験をしてみたい人、グループホーム入居に向けて練習したい人のほかに、家庭の都合や事情で緊急に利用したい人などであった。

1. 事業の開始

平成22年 7月1日 CoCo ホーム表参道 / CoCo ホームぼたんの里

平成29年 6月1日 地域生活支援センターCoCo ちくま (CoCo ホーム三本木)

2. 事業提供の場所と定員

CoCo ホーム表参道 定員1名

CoCo ホームぼたんの里 定員1名

CoCo ホーム三本木 定員2名

3. 利用状況(月別のべ利用人数)

	H31 4月	R1 5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	R2 1月	2月	3月
--	-----------	----------	----	----	----	----	-----	-----	-----	----------	----	----

表参道	21	21	19	20	17	19	32	47	49	39	21	19
ぼたんの里	14	16	17	17	13	15	25	38	24	27	22	28
三本木	21	21	22	27	25	24	47	17	20	24	17	40

4. 評価及び課題

事業開始9年目、定期利用者（月1回・隔週1回）が定着している。

ホーム表参道においては、当法人内で福祉サービスを利用されている方が利用をしているが、ここ何年かでそれ以外の、地域で暮らす方のショートステイ利用希望が増えている。人員配置等安全を第一に考え、出来る限りの受け入れ態勢を整え受け入れてきている。限られた人数しか受け入れることができないが、利用をされている方からは評価して頂き、毎月の定期的な利用が続いている。

10月の長野市の災害により1名の方を長期的なショートステイとして受け入れた。通常の利用を希望している方もいたため、定員を超えた状況での受け入れとなり、支援する側にとっては負担となったが、社会資源としてお役に立つことができた。

ショートステイのニーズは高く、週末を含めほぼ毎日の利用希望が続いている。

ホームぼたんの里においては、緊急的に利用される方がいらしたが、定期的に利用されている方のため、緊急であっても問題なく利用することができている。日常的に利用していることが、緊急状況を減らしていくため、今後も定期的な利用を進めると共に、利用者を広げていきたい。

また、長野市の災害にて被災した方を10月から令和2年3月まで受け入れてきた。表参道と同様に、緊急かつ定員を超えた人数を受け入れてきたが、今までに利用のあった方だったため、大きな問題はなく受け入れることができた。そして、生活の場の提供だけではなく、衣類など生活に必要なものはできる限り準備提供することもできた。その中で、利用された方も穏やかな生活を送ることができた。

今後も、個別のニーズに合わせ利用して頂ける環境を整えていきたい。

ホーム三本木は、利用できる居室が2床あることが大きなメリットであり、利用の仕方はさまざまな方法を検討することができた。同じ日中事業所を利用されている方2人で同日に利用することで、日中事業所の送迎を利用することができる。

また、家庭内虐待の危険を回避するために緊急的に受け入れをしたケースが数件ある。そして、戻る場所がなく生活拠点がない方も長期的に受け入れをし、安定した日常生活の支援をしてきて

いる。そのため、地域からのニーズや社会資源としての役割、期待は高い。今後も地域からの要望にはできる限り応えていきたい。

また、ショートステイを利用されている方のケア会議には、必ずスタッフが参加し、情報の共有を行ってきた。ショートステイ利用時の適切な関わり方の参考にすると共に、自立に向けた今後の支援に活かすことができている。

利用の理由としては、ご家族の介護軽減もあるが、よりご本人の自立を視野に入れた利用を希望されていることが多いと感じる。障がいの重い方であっても、地域で自立した生活を送るための地域社会資源として有意義に活用されることにつながり、今後も利用頻度は高くなっていくと思われる。

【居宅介護等事業】 地域生活支援センターCoCo ながの -

事業開始年月日 平成 18 年 7 月 1 日

平成 22 年 5 月より、長野市基準該当事業所として登録

事業内容

- ・居宅介護事業（身体介護中心・家事援助中心・通院等介助）
- ・行動援護事業
- ・移動支援事業
- ・長野市障害児自立サポート事業
- ・市町村障害児（者）タイムケア事業

職員体制

管理者 1 名 / サービス提供責任者 1 名 / 居宅介護等従事者 5 名
行動援護従事者 2 名 / 移動支援従事者 8 名 / タイムケア等従事者 8 名

利用者

日中の通所事業利用者 / グループホーム入居者

在宅単身生活者 / 在宅の障がい者・児（日中を他法人事業所利用）

長野養護学校児童・生徒 / 稲荷山養護学校児童・生徒

特別支援学級及び情緒学級在籍児童・生徒

評価及び課題

<居宅介護事業>

居宅介護事業については、ヘルパーの不足により当事業所だけでは担うことができないことが多く、他事業所との協力体制の上、支援提供を続けている。情報の共有、ケア会議への参加等を行うことで、関係者間との連携を円滑にとることができた。

通院等介助の利用を希望が年々増え続けている。障がいを抱える方にとって、通院に関する支援はとても重要な部分であり、地域で暮らす方達にとっては、その人を大きく支えるためになくしてはならないものとなっている。必要な方に対しては、適切な支援提供がされるべきである。また、グループホーム入居者の高齢化も進み始め、現状のスタッフで何とかやりくりしている。これからも通院の支援は増えることが想定できるため、通院を担うことのできるヘルパーが必要と

なる。

< 移動支援事業・行動援護事業 >

移動支援については、グループホーム入居者、また地域にて在宅生活をされている方に対して、買い物や社会生活上必要な外出支援及び、余暇活動等の社会参加に係る支援を個別的、またはグループとして提供することができ、総合的に支援をすることができた。

ご本人からの希望に沿った外出計画を立て、付き添うことで、ご本人の余暇支援を支える重要な支援を提供することができている。また、なかなか自分から希望を伝えることのできない利用者さんに対しては、情報提供・相談・実際に体験してみるといった支援を提供することで、その方の余暇の充実や広がり、または自己選択・自己決定の充実が図られてきている。利用者さん一人一人が希望する内容に応えることで、その先にはその人らしい地域での暮らしがあり、その人の幸福があると言える。

行動援護については、当法人内の方の利用希望、及び当法人以外の場からの利用希望があり、出来る限り対応してきている。そのため、地域で暮らす重い障がいを持つ方の社会参加を支え、余暇支援、外出支援を積極的に提供することが出来ている。しかし、対応が困難な場合もあり、今後も行動援護従事者の育成、確保が必要となっている。行動援護に従事することのできるヘルパーの確保が急務であり、ヘルパーやスタッフの専門的スキルの獲得も必要となっていく。

< 障害児自立サポート事業・タイムケア事業 >

障害児支援においては、利用されている児童が学童期を過ぎたため、年々利用時間は減っている。主に学校の長期休暇中に利用が主なものとなった。しかし、利用する児童については、個別の活動が必要となる方が多く、支援者の配置に配慮が必要なことが多くあった。

受け入れた際には、集団での活動、外出等を通じ、様々な社会体験を積む時間を提供することができた。複数の事業所を利用している児童については、ケア会議を通して各事業所間の情報共有を計ると共に、統一した支援につなげることができている。

特別支援学校在学中の児童さんについては、サービス利用に関すること、また生活上の困りについてケア会議に参加する等相談にのることができた。タイムケア事業としてお預かりするだけでなく、相談にのる、今後について一緒に考えるといった地域の社会資源としての役割を果たすことにつながっている。また、個別の相談を受ける中で、当法人に計画相談を依頼される方が増えており、児童期からの信頼関係の築きが大切だと言える。

今後も活動の充実及び、個々に合わせた療育的支援の充実を図っていきたい。

< 全体的課題 >

利用者一人一人のその人らしい要望、多様な要望に応え、充実した地域生活を支えるためには、サービス提供従事者の増員、スキルアップ、及び統一された支援提供が不可欠。

スキルアップについては、行動援護従事者研修・強度行動障がい研修への派遣を続け、行動障がいを持つ方に対して質の高い支援が提供できるようにすると共に、発達障がい児・行動障がい等を持つ重度の障がい児・者の支援を受けることのできる体制を作っている。

また、発達障がいをお持ちの方の利用希望も増えている。発達障がいの方への支援においては、専門的な知識、技術を持つことが求められている。そのため、知的障がい福祉協会等が開催するセミナー、研修会等に積極的にスタッフ派遣し、学び、日頃の支援に活かしながら、今後も利用者さんからの直接的なニーズ・潜在的なニーズに応えられる充実した支援を提供していきたい。

利用実績

	居宅介護 (身体介護・家事援助・通院等介助)			行動援護			移動支援			タイムケア			長野市障害児 自立サポート		
	利用者数	延利用者数	総利用時間	利用者数	延利用者数	総利用時間	利用者数	延利用者数	総利用時間	利用者数	延利用者数	総利用時間	利用者数	延利用者数	総利用P
平成31年 4月	5	6	6.0	8	24	81.0	19	21	112.5	12	25	82.25	5	20	191.25
令和1年 5月	7	9	11.0	6	21	65.0	22	24	136.0	6	23	60.25	3	14	114.00
6月	7	9	11.0	7	24	73.0	14	17	93.0	5	20	72.5	2	13	99.75
7月	4	6	6.0	7	23	83.5	25	29	149.0	6	26	69.75	3	11	182.75
8月	5	7	8.0	8	20	72.0	17	18	107	8	24	87.25	3	21	213.00
9月	3	4	4.5	8	22	81.5	18	21	128.5	5	17	42.5	2	12	100.75
10月	7	10	10.5	6	16	54.5	11	12	78.0	11	39	157.50	2	8	55.25
11月	5	7	11.5	7	20	67.5	12	14	74	10	38	162.25	3	9	78.25
12月	5	7	8.5	8	20	71.0	12	13	69.5	9	45	119.00	3	11	90.00
令和2年 1月	5	6	8.5	9	23	87.5	20	21	120.5	9	41	134.75	3	11	80.50
2月	9	10	11.0	8	20	74.5	17	19	110.0	9	34	127.00	2	8	66.00
3月	4	6	6.0	7	27	81.0	7	9	32.0	8	29	106.25	2	13	130.50
合計	66	87	102.5	89	260	892.0	194	218	1210	98	361	1221.3	33	151	1402.00

【相談支援事業】

相談支援専門員が『ちくま』と『ながの』各事業所にて、それぞれが専任で障害福祉サービス等利用計画の作成に取り組むことができた。昨年と同様、長野市からの依頼や高等部卒業に当た

り障害福祉サービスを利用したい新規の利用者の障害福祉サービス等利用計画の作成を行った。

長野市、千曲市の委託相談員とは連携を密にし、相談員から依頼の上がってくる新規の相談ケースについても積極的に受け付けてきた。

また、サービス更新、ご本人・ご家族からの相談（サービス追加・変更等）などに合わせてケア会議を実施してきた。ご本人・ご家族と市ケースワーカー、サビ管、相談支援専門員が顔を合わせて障害福祉サービス利用の状況把握や意向確認を行える良い機会となった。各種サービスの利用方法の相談等、ご本人やご家族に寄り添い身近な存在として相談支援専門員がいたことは、安心につながったように感じる。

相談支援専門員や障害福祉サービス等利用計画の質を向上させるために、指定事業所連絡会に執行部として出席し情報収集、情報共有や各種研修への参加を重ねてきた。各研修会に参加することで、行動障害支援体制・精神障害者支援体制・要医療児者体制の加算基準を満たすことができている。

また、令和1年12月には、法人全体の相談支援事業の強化をするため、ちくまの相談支援事業を廃止し、ながのに統一することとした。情報の共有、支え合いながらの実践をすることで、相談支援専門員が今まで以上に連携をし、チームとして相談支援が進められる環境となっている。

受給者証の管理においては、障害福祉サービス支給決定期間終了後、一定期間を過ぎた時点で、受給者証の把握ができていない方の一表を毎月作成した。その一表を事業所へ配布し、家庭や市町村ケースワーカーへの確認を促した。また、内部の報告書についても、請求担当と相談しながら情報把握しやすいものを利用してきた。

市町村によって、提出書類や提出方法が異なる点や、受給者証の発行時期遅滞や更新内容と支給決定された内容に相違がある点等、戸惑う部分があったが順調に進めることができた。事務手続きについても、各相談支援専門員と請求担当者間で適切に連携を図って進めたい。

令和1年度相談支援事業実績						
		ながの			ちくま	
		サービス等 利用計画	モニタリング	認定調査	サービス等 利用計画	モニタリング
H31	4月	12	15			9
R1	5月	13	11	1	6	9
	6月	16	26		9	16
	7月	18	23		5	3
	8月	6	19	1	5	3
	9月	8	25		6	20
	10月	9	20	1	1	7
	11月	9	18	1	2	11
	12月	12	32		9	6
R2	1月	9	34	3	1	7
	2月	11	16		6	8
	3月	23	21		25	12
合計		146	260	7	75	111

【長野市障害児（者）ケアプラン作成事業】

長野市ケアプラン作成事業については、指定計画相談支援事業の補助的な役割となっている。当法人の持つ長野市障害児ケアプランは、すべて指定障害児相談支援事業に移行することができるため、令和1年度には長野市ケアプランは作成されなかった。

【千曲市障害者等基幹相談支援センター事業】

障害者等相談支援事業

- ・千曲・坂城障がい者（児）基幹相談支援センター 6名

【総合的・専門的な相談支援の実施】

- ・関係機関と連携しワンストップとしての機能を果たすため、総合的な相談支援に努め、地域で支える体制作りを構築した。また、社会福祉士、保健師、精神保健福祉士等で、困難事例の対応について助言を行った。
- ・相談機関や関係機関、保護者等からの相談を受け、必要に応じサービスにつなげたり、ケア会議の開催等の対応を図った。

・サービス事業所との連携を深めるため、事業所訪問を実施。10事業所から、日頃抱えている率直な悩みを聞くなかで、利用者確保や人材確保は共通の課題であることが伺えた。今後も継続し事業所との連携を深め、事業所が抱える課題について自立支援協議会の場で共有し、課題解決に向け検討したい。

1. 分類別相談受付状況(平成31年4月から令和2年3月まで)																																																																															
障がい重複している者(児)は各分類に計上																																																																															
相談件数(延べ人数)																																																																															
身体障害		重症心身		知的障害		精神障害		発達障害		高次脳		その他		合計																																																																	
者	児	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児																																																																
257	25	不明		374	61	1257	64	84	19	0	0	618	98	2590	267																																																																
相談件数(実人数)																																																																															
身体障害		重症心身		知的障害		精神障害		発達障害		高次脳		その他		合計																																																																	
者	児	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児	者	児																																																																
26	4	不明		54	15	114	14	14	5	0	0	65	20	273	58																																																																
2. 相談内容別受付状況																																																																															
相談内容								延べ件数																																																																							
相談内容								相談形態																																																																							
相談内容								延べ件数																																																																							
福祉サービスの利用								855																																																																							
障がいや病状の理解								269																																																																							
健康・医療								516																																																																							
不安の解消・情緒安定								567																																																																							
保育・教育								56																																																																							
家族関係・人間関係								543																																																																							
家計・経済								446																																																																							
生活技術								378																																																																							
就労								471																																																																							
社会参加・余暇活動								115																																																																							
権利擁護								10																																																																							
虐待対応								7																																																																							
その他								402																																																																							
計								4635																																																																							
								訪問								256																																																															
																来所相談								405																																																							
																								同行								176																																															
																																電話相談								1552																																							
																																								電子メール・FAX								180																															
																																																支援会議								211																							
																																																								関係機関・その他								77															
																																																																計								2857							

【長野市障害者相談支援センター事業】

長野市内は7か所の相談支援事業所が各地域で総合相談を受ける仕組み(サテライト)であるが、令和3年度に向けた相談支援体制の見直しが行われている。その中で、今年度7月からは「長野市南部障害者相談支援センター」が試行的に開所され、長野市南部を対象地域とした3法人が1か所に集まり、新たな相談支援体制が始まっている。

サテライトで相談を受けている中で、初動の訪問など、時に相談員が個人で対応することに迷いやタイムロスがあったが、センター化され複数の相談員で協力し合えることから、初動についても動きやすくなったという実感がある。

相談支援体制の見直しを行う中で、この試行的取り組みによって明確になった効果や課題を、成果として共有し、令和3年度に向け新たな相談支援体制の構築の一助としたい。

障がい者総合支援センターの利用者及び相談支援の状況（R1）						
センター名：		長野市南部障害者相談支援センター（CoCo）				
1 障がい種別登録者数（実人数）						
身体障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい	その他	合計	
3	10	34	13	5	65	
視覚障がい者				高次脳障がい		
				1		
聴覚障がい者						
2 障がい種別相談延べ件数						
身体障がい	知的障がい	精神障がい	発達障がい	その他	合計	
75	353	984	375	67	1,854	
3 支援方法別相談延べ件数						
訪問	来所	電話	電子メール	個別支援会議（ケア会）	その他	合計
163	74	934	22	82	579	1,854
4 相談の内容（複数回答あり）						
相談内容				延べ件数	割合	
福祉サービスの利用				625	28.72%	
社会資源の活用				208	9.56%	
障害や病状の理解				235	10.80%	
健康・医療				164	7.54%	
不安解消・情緒安定				114	5.24%	
保育・教育				23	1.06%	
家族関係・人間関係				151	6.94%	
家計・経済				77	3.54%	
生活技術				189	8.69%	
就労				139	6.39%	
社会参加				85	3.91%	
余暇活動				85	3.91%	
権利擁護				43	1.98%	
その他				38	1.75%	
合計				2,176	100.00%	
把握している範囲で結構です。						